

脱炭素・GREEN×EXPO・みどり環境・資源循環委員会記録  
【 速 報 版 】

令和7年12月11日開会

# 速報版

- この会議録は録音を文字起こした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものため、今後修正されることがあります。
- 正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横 浜 市 会

開会時刻 午前10時00分

◎ 開会宣言

- 大桑正貴委員長 これより委員会を開会いたします。

上着の着用は御自由に願います。



◎ 職員紹介

- 大桑正貴委員長 脱炭素GREEN×EXPO推進局関係に入ります。

議題に入ります前に11月14日付で職員の異動がありましたので、折居局長より異動職員の紹介があります。  
お願いします。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 脱炭素・GREEN×EXPO推進局でございます。どうぞよろしくお願ひ  
いたします。

では、着座にて説明させていただきます。

11月14日付で人事異動のありました、部長級以上の職員を紹介させていただきます。

(職 員 紹 介)

以上でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。



◎ GREEN×EXPO 2027の開催に向けた取組状況について

- 大桑正貴委員長 それでは議題に入ります。

なお、当局の発言に際しては着座のままでお願ひいたします。

報告事項に入ります。初めにGREEN×EXPO 2027の開催に向けた取組状況についてを議題に供します。  
当局の報告を求めます。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 GREEN×EXPO 2027の開催に向けた取組状況について御説明をいたし  
ます。資料1を御覧ください。1ページにお進みください。

本日は3つの項目について御説明をいたします。

2ページにお進みください。初めに1、機運醸成等の取組についてでございます。

3ページにお進みください。大阪・関西万博との連携による機運醸成の取組についてでございますが、大  
阪・関西万博の盛り上がりと感動をGREEN×EXPO 2027に引き継ぐために、横浜・大阪両市長によりますホス  
トシティバトンタッチセレモニーを万博最終日の10月13日に会場にて実施をいたしました。

4ページにお進みください。開幕500日前を契機とした機運醸成の取組についてでございます。

開幕500日前発表会といたしまして、開幕500日前となります11月4日に企業・団体の皆様をお招きし、発  
表会を開催しました。発表会では、企業の皆様と一緒に形づくるGREEN×EXPO 2027の取組のイメージや横浜  
市出展に関する最新動向を紹介いたしました。

5ページにお進みください。

ユース世代と考える地球と共に生きる身近なアクションシンポジウムといたしまして、ユース世代と行政、  
企業など多様な主体が対話を通じ、一人一人の身近なアクションが未来を動かす力になることを実感する機  
会としてシンポジウムを開催いたしました。

パネルディスカッションには市内大学生3名にも御参加をいただき、ユース世代の活動紹介やGREEN×EXPO 2027への期待などについてお話をいただきました。

6ページにお進みください。

広報プロモーションの取組についてでございます。

開幕500日前を迎えるに当たりまして集中的な広報プロモーションを実施いたしました。

ア、横浜市営地下鉄特別仕様ラッピングトレインにつきましてブルーライン、グリーンラインにおきましてGREEN×EXPO 2027初となりますフルラッピングトレインの運行を開始いたしました。門出を華やかにするため、あざみ野駅で出発式を行ったところでございます。

7ページにお進みください。シティドレッシングといたしまして、市内の乗降客数が多い駅や公共空間等での新たなデザインによる階段・柱広告や、あるいはアドトレイン、ラッピングバスの運行など、交通各社との連携によりまして取組を集中的に展開しております。

8ページにお進みください。行政ツールを活用したプロモーションでございます。

特別仕様ナンバープレートの公用車への取付けを既に開始しております、年度末までに約1000台の取付けを予定しているところでございます。

2つ目の、特別仕様マイナンバーカードの配付でございますが、11月4日から開始しております会期終了まで行う予定でございます。

3つ目の原動機付自転車用の特別仕様ナンバープレートの交付につきましては、令和8年1月20日から会期終了までの交付を予定しております。

9ページにお進みください。中学校給食における特別給食でございます。

開幕500日前となる11月4日に、市内中学生にGREEN×EXPO 2027のわくわく感を体験していただけるよう、色とりどりの花が咲き誇る会場の様子や、マスコットキャラクターのトゥンクトゥンクをイメージした特別給食を実施いたしました。

地産地消と食品ロス削減を学ぶメニューとしまして、販売が困難な洋梨を活用した、よこはまReゼリーを提供いたしたところでございます。

10ページにお進みください。GREEN×EXPO 2027をともに盛り上げ支えていただくパートナーとして、ボランティアを募集しております。あらゆる機会を捉え、広く周知してまいります。

資料の左側を御覧ください。EXPO全体のところでございますが、来場者に花壇の見どころを紹介する花・緑ガイドボランティアのほか、会場内外での案内、花壇の管理などEXPO全体の運営をサポートし、来場者をおもてなしするボランティアを順次募集してまいります。

花・緑ガイドボランティアにつきましては、11月17日から既に募集を開始しているところでございます。植物管理ボランティアと運営ボランティアにつきましては令和8年1月頃募集を開始する予定しております。

続きまして、右側を御覧ください。横浜市出展エリアでございます。公園愛護会など環境活動団体をはじめとした市民の皆様と共につくる横浜市民活動フィールドにおきまして、ツアーガイドやプログラムの運営補助などを行うボランティアを今後募集予定でございます。

いずれも令和8年3月頃、募集を開始する予定として準備を進めております。

11ページにお進みください。次に、入場券価格等についてです。

12ページにお進みください。入場券価格の設定についてでございます。12月4日に開催されましたGREEN×EXPO協会の臨時理事会におきまして入場券価格の案が決定され、翌5日に関係閣僚会議において了承されたところでございます。

下の表を御覧ください。大人1日券といたしまして通常価格が5500円、その下の早割価格が4900円となつております。また、その下でございますが夜間券、通期パス、夏パスが設定されています。

中人と小人の価格についてはそれぞれ記載のとおりでございます。

13ページにお進みください。運営費の見通しについてでございます。

12月4日の理事会におきまして、入場券価格の前提となる運営費が536億円になる見通しだることが報告されました。

下の図を御覧ください。一番左の水色の四角のところですが、令和5年1月に策定されました2027年国際園芸博覧会基本計画における資金計画における運営費を示しております。総額は360億円を見込んでおりました。

そこから物価上昇の影響が閉幕まで同様のペースでこれが続くと仮定をして算出し、135億円の増となつてございます。

また、計画の具体化としましては、大阪・関西万博の経験も踏まえた、駅からのシャトルバスの貸切り運行、さらにはサイバーセキュリティー対策、こういったことの強化などにより68億円が増加していると。

さらに博覧会の演出・機能等を低下させずに、魅力のあるものにする、実施方法の効率化を図るコスト抑制も図っております、これは27億円の減。

これらの増減を合わせますと運営費の見通しは536億円となってございます。

14ページにお進みください。最後に、交通円滑化の取組についてでございます。

15ページにお進みください。交通需要マネジメント、TDMの取組についてでございます。

来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセスを実現するため、現在進めている交通容量の拡大や来場者の分散・平準化の取組に加え、交通混雑のリスクをさらに低減するため、交通需要マネジメント、TDMの取組に着手をいたします。

左の表を御覧ください。交通円滑化の取組の全体像でございます。道路整備による交通容量の拡大や、来場者交通に対する駐車場の予約制の導入、さらには道路混雑状況の情報発信による分散化、さらには赤の点線枠のところにございますが、一般交通を対象に人・物の移動についてピークを避けるなど、時間調整やルート・手段の変更等を促しまして、交通需要を調整する、こういった取組を進めてまいります。

続きまして右側の図を御覧ください。ピーク時におきます交通円滑化のイメージでございます。上の図にありますように、一般交通に来場者交通が加わりますので、交通混雑のリスクが発生します。下の図のように、このリスクを回避したり分散するために、来場者交通の分散・平準化に加え、TDMにより交通円滑化の実現を図っていこうとするものでございます。

16ページにお進みください。交通円滑化推進会議についてでございます。

このTDMの取組を開始するに当たりまして、自治体や経済界の関係者が一体となって検討・調整し、広く御協力を呼びかけていくことを目的にGREEN×EXPO 2027交通円滑化推進会議を設置いたします。

第1回会議は12月23日開催予定です。参加機関は横浜市、神奈川県、GREEN×EXPO協会、横浜商工会議所、神奈川県中小企業団体中央会等を予定してございます。

検討する取組の例でございますが、交通集中の回避に向けた会場周辺の迂回や時間調整、移動量の抑制に寄与するＩＣＴを活用した働き方の促進、公共交通機関の利用の促進などを挙げております。これらにつきましては本日、スタートするということにつきまして記者発表を予定してございます。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

- 大桑正貴委員長 ありがとうございます。

報告が終わりましたので質疑に入ります。

- 鴨志田啓介委員 私からは入場券価格と、交通円滑化などの来場者輸送について質問させていただきます。

まず、入場券価格について伺います。GREEN×EXPO 2027の開幕まで、あと1年3か月余りとなっていましたが、先週E X P Oの入場券価格案が公表されたということで、これはGREEN×EXPO協会の臨時理事会を経て、5日の関係閣僚会議で閣議了承され、事実上価格が決定したという理解をしております。この閣僚会議には山中市長も出席されたと伺っておりますが、週末には各種メディアでも報じられております。

そこで、まず、入場券価格に関して、本市がこれまでに調整されたことがあれば教えてください。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 まず入場券価格の設定につきましては、我々が知ったと言いますが、全体像を分かったのは直前のことではございます。しかしながら、これまでGREEN×EXPO協会に対しては、E X P Oの成功に向けてしっかり魅力的なE X P Oにしてください。さらには、いわゆる価格を決定するに当たっては、収支バランスをしっかりと捉えて、そして誘客にもつながるような価格帯で設定をお願いしたいということは伝えてきたところでございます。

- 鴨志田啓介委員 次に、この入場券価格に対する、副市長の受け止めをお願いします。

- 平原副市長 先ほど運営費の説明をいたしましたけれども、最近は本当に物価高騰が続いておりまして、特に労務単価の上昇が続いているという状況がございます。

一方で、安心しながら市民の方々を含め来場の方々にぜひ来ていただきたいという思いから、この価格がどうなるのかということは、私も気にしているところではございました。

大阪が7500円ということでございましたので、規模から考えると当然それよりは安くなるのだろうというふうな予想はしておりましたけれども、5000円ぐらいかなと正直に言って、目安かなと個人的には置いていたところですが大体そのぐらいの値段で設定できた。早割では5000円を切る4900円というふうな値段ができましたので、妥当なところなのかなというふうに考えております。

この入場券価格が決まりましたので、横浜市としてもホストシティとして、しっかり取り組んで、多くの方に来ていただきなきゃいけないと、そういった内容を充実させていくということで強い覚悟を持って進めていきたいというふうに思っております。

- 鴨志田啓介委員 E X P Oの成功に向けて取り組んでいる我が党といたしましても、集客に大きく影響する入場券価格が、いつ決まるのかということは大変注目しておりました。今回、1日券で大人1人5500円ということで、大阪・関西万博の会期中、いつでも入場可能な7500円のチケットより2000円安く、また平日のみの6000円のチケットより500円安い設定となっており、多くの方に利用していただけるのではと期待しております。

また様々な券種も用意されておりますが、入場券価格の設定や券種のバリエーションを決めるに当たり協会がどのような工夫をしたのか伺います。

- 村上担当理事 まず入場券価格につきましては、先ほど平原副市長からの答弁もありました、多くの方々

にとって求めやすい価格設定するために、大人1人の価格を早割で5000円を切るという設定をしたことが一つ大きな要因でございます。

さらには、夜間の魅力アップにより、集客促進につながるような夜間券の設定を行うなど、様々な工夫が凝らされたものになっていると承知しております。

- 鴨志田啓介委員 それで、大阪・関西万博の入場券価格は開幕の2年近く前に決定していたと思いますけれども、我々も集客に影響する入場券価格がいつ決まるのかということは、ずっと注目しておりました。

先日閉幕した大阪・関西万博の状況も注視していたのだと思いますけれども、価格の公表がこの時期になつた理由について伺います。

- 村上担当理事 価格の前提となります運営費の見通しにつきまして、先日閉幕した大阪・関西万博の状況を踏まえて検討を進めていたことに加えまして、近年の急激な人件費、それから物価の上昇による影響、それと計画の具体化の反映、コスト抑制策などについて精査を行ってきてございまして、このタイミングでまとまつたことから、価格の公表になつたものと承知しております。

- 鴨志田啓介委員 目標来場者数ということで1000万人を掲げておられますが、1500万人、2000万人と本当は、来ていただきたいと思います。

この価格について、御理解いただき共感いただけた方に、何度もお越しいただける姿を目指すべきと考えます。特に、横浜市民の皆様につきましては、地元で万博が行われる絶好の機会でありますので、私はできるだけ多くの方にお越しいただくことを願っています。そのために例えば丁寧に説明する、町とか自治会とかで説明する場があつてもいいのかもしれないと思いますが、市民の皆様の理解を得るために今後どのように取り組むのか伺います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 今、委員の御示唆のとおり、やはり、魅力があつて何度も行きたい、我々はそういう万博をやはり、目指していくべきだと考えています。

そういう意味でも市民の皆様方に、しっかりと魅力をお伝えし、御理解をいただき、そして来場いただくと、そういうふうにつなげていくことが非常に重要だと私自身は考えております。

そういうことがございますので、市民の皆様方には、いろんな手段、あるいはいろんな機会を通じてしっかりと、我々のGREEN×EXPO 2027の魅力をお伝えし、そして内容についてもお伝えし、一緒につくり上げていきましょう、そういう機運を盛り上げながら、やはり、御理解をいただくそういうふうに一生懸命取り組んでいきたいと考えております。

- 鴨志田啓介委員 大阪・関西万博も季節によってイベントや展示も変えていたと思います。こうした価格が気にならないぐらいすばらしいコンテンツがいつもあって、また行きたいと思っていただけるような内容にしていただくことが大事だと思います。

そこで何度も繰り返しEXPOに御来場いただけるような仕掛けが必要だと思いますが、副市長の見解を伺います。

- 平原副市長 ごく当然のことですけれども、まず会場が魅力的でないと、関心を持っていただけないというふうに思います。

横浜市出展もございますので、まず横浜市出展のエリアを、この内容もすばらしいものになるように一生懸命努力していきたいというふうに思っております。

それから、やっぱり、会場の行きやすさという点では交通輸送対策も大変重要なだというふうに思っております。

ます。シャトルバスの充実、それから先ほど御説明しましたTDMの取組、こちらについてはホストシティである横浜市と協会が連携しながら、しっかりと取り組んで、本当に会場に行きやすいという環境をつくりたいというふうに思っています。

それから花や緑が中心ということもございますので、まさに季節ごとにその季節に合った花、緑が会場を常にぎわせているという状況も必要ですし、例えば夜の光の演出で魅力を発揮したり、あるいは来場者の方々にそこで自分で何か体験してもらうというふうな取組も必要だというふうに思います。

こういったトータルな取組をしながら、何回でも行ってみたいと、そう思わせるような会場のしつらえにしていきたいと、内容のしつらえにしていきたいというふうなことで考えております。

- 鴨志田啓介委員 春は桜だったりお花がたくさん配置されていると思いますが夏はじゃあ一体どうするのだろうとか、いろいろと考えるところはあると思うのですけれども、次のお話として今回は入場券価格と併せて運営費の見直しについても案が示されており、当初の360億円から約536億円となっています。運営費の見直しは当然チケット代にも影響してくるものです。

増額要因のうち物価上昇の影響については、昨今様々な物価が上がっていることから感覚的に理解できるところですが、物価上昇以外での今回の運営費見直しの中で最も大きな要因は何か伺います。

- 村上担当理事 先ほどの資料13ページにございました、運営費の見通しの中での計画的具体化の項目でございますけれども、その中で一番大きな要因が、より安定的な輸送計画を立てるために、最も多くの利用者が想定される乗り合いバス事業者による自主運行から、いわゆる委託による貸切り運行へと切り替えたことが最もな要因でございます。

貸切りにすることによりまして、バス運転手、車両の確保を着実に行う安定的な運転輸送計画が成り立つということと、例えば輸送障害が発生した場合にも鉄道各線の運行状況ですとか、各駅の混雑状況などに応じて柔軟な運行が行えるようになるものというふうに承知しております。

- 鴨志田啓介委員 一方で今年4月に会場建設費を変更した際は、常任委員会や予算特別委員会総合審査などで議論を経て変更を受け入れる形となったわけですが、その際に増額分に対する本市としての応分の負担を追加で行うかどうか大きな議論になりました。

市の負担が発生するのであれば、慎重な判断が求められてくることになります。昨日の一般質問で我が党の白井議員の質問に対し、平原副市長からは、本市の費用等に影響は生じないと答弁がありましたが改めて確認をしたいと思います。運営費の見直しに際し本市からの費用負担などは生じないのか伺います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 これにつきましては昨日の一般質問で平原副市長から御答弁させていただいたとおりではございますが、運営費につきましてはGREEN×EXPO 2027の運営に必要な収支をGREEN×EXPO協会が見直したものでございまして、国や自治体が負担する会場建設とは異なりまして、これは本市の費用負担はないものです。

協会には収支バランスを十分に取りながら、魅力あるEXPOをつくり上げていただく。さらには、多くの来場者を呼び込む、そういうことで運営をしっかりとやっていくと、こういうことをお願いするとともに、一層の博覧会の具体化をお願いしていると、こういう状況でございます。

- 鴨志田啓介委員 費用負担が発生しないということで、ひとまず安心をいたしました。GREEN×EXPO 2027の運営費が、入場券価格とともに事実上決まったので、運営費についてはこれ以上の変更は生じないものと考えています。

EXPOの成功に向けて協会にはしっかりと運営を行っていただきたいと思いますし、本市もしっかり連携して取り組んでいただくことを要望します。

続いて来場者輸送について何点か伺っていきます。

まず交通需要マネジメントの取組についてですけれども、主に一般交通を対象にした取組を行っていったいとのことでしたが具体的には誰を対象としているのか伺います。

- 西岡 GREEN×EXPO 推進部担当部長　　具体的には会場周辺の道路やシャトルバスが発着する近傍、4駅がある鉄道路線について、物流などの企業活動で日常的に利用されている企業の皆様や、通勤や通学等で利用する住民の皆様、さらには日常的に利用されていないものの、観光などで一時的に利用する可能性のある事業者なども対象としております。

- 鴨志田啓介委員　　東京オリンピックの開催時にも、同様に交通需要マネジメントの取組が実施されたと記憶しております。当時は大会期間中に深刻な交通混雑が想定されたことから、良好な交通環境を確保する目的で首都高速道路において、時間帯別の料金上乗せ、いわゆるロードプライシングというTDMの一種が実施されました。

一方で私の地元では高速道路料金の上昇の影響を受け、例えば地元のクリーニング店など、物流や移動を伴う事業者の経済活動に少なからず影響が生じたと現場からは切実な声が寄せられておりました。

そこで、GREEN×EXPO 2027でも交通需要マネジメントの取組を行うことにより、地元企業の経済活動に影響は出ないのか伺います。

- 村上担当理事　　今回取り組んでいきますTDMは、日常的に鉄道や道路を利用する方々に対しピーク時を避けるなどの時間調整ですか、ルート、手段の変更、それから移動輸送の効率化などの御協力を広く呼びかけましてこれによって、交通量の抑制、あとは集中の平準化などを促し交通円滑化を図っていくものでございます。

そのためにはより多くの地域の皆様ですか企業の方にGREEN×EXPO 2027を応援していただき、TDMの活動に御協力いただくということが大事かなというふうに思っております。

そのことによって道路混雑の抑制につながって、経済活動も含め、地域の皆様への影響が少なくなるものと考えております。

また、できる範囲内での御協力を呼びかけるなど地域の皆様の経済活動や生活になるべく影響が出ないような検討、調整をしていきたいと思っております。

委員の御指摘がございました、いわゆる高速道路料金の値上げですか、そういう地元の皆様への影響につきまして、まず高速道路料金の増減を検討することは現時点では見込んでございません。

このようなことも含めまして、先ほどお話をございました交通円滑化推進会議の中で議論をしていくという予定でございます。

- 鴨志田啓介委員　　こうした説明のことも地元で丁寧に説明をしていただきたく、これは要望させていただきます。

ピーク時の交通円滑化イメージということで、資料にイメージ図があったと思いますけれども、これはあくまでイメージであり実際にうまくいかどうかはちょっと、イメージしにくいところなのです。そこで、交通需要マネジメントにどのような効果を期待しているのか伺います。

- 村上担当理事　　来場者に向けました駐車場の予約制の導入などの交通の分散・平準化の取組、それから企

業や住民の皆様に向けましたテレワークの促進、あとはピーク時間帯の移動を避ける時間調整、会場周辺の道路の迂回などの交通需要マネジメントの取組、こういった取組を合わせることによりまして、特に朝の開場時間、あとは夜の閉場時間など、ピーク時間における交通量の抑制が図られ、円滑化につながるものというふうに期待してございます。

一方で、これも繰り返しになりますけれども、できる範囲内での御協力を呼びかけるということでございますので、地域の皆様の経済活動や生活になるべく影響が出ないように検討、調整を図ってまいります。

- 鴨志田啓介委員 よろしくお願ひします。

そして、駐車場についての話がありましたけれども、来場者の分散化の取組として提案なのですけれども、駐車場を博覧会の開始時刻よりも早くから解放することが効果的ではないかと考えます。

深夜や早朝から入庫できるようにしておけば、朝の混雑するタイミングを避けることができるため、来場者にとってメリットが大きいと思います。

例えば、一部をキャンピングカーが止められる、今はやっているRVパークとしても整備すれば車中泊もできますので、新たな需要も生まれるのではないかと思います。

そこで、駐車場に早い時間から止められるようにするべきと考えますが見解を伺います。

- 村上担当理事 来場者輸送に伴います交通対策につきましては、地域の皆様の関心が非常に高まってございます。

中でも、来場者の分散化の取組というものが大変重要だというふうに考えてございます。今、委員から御意見がございました駐車場の入庫時間の前倒しにつきましては、やはり、来場者の分散化が図られるということで、道路混雑を緩和する効果というものは大変期待できるというふうに思います。

そういう観点から、来場者の分散化対策について、どういうものが必要かということについて、引き続き我々も協会と一緒に話し合っていきたいというふうに考えております。

- 鴨志田啓介委員 我々も家族旅行に車で行くときは高速道路が混まないうちに、移動しておこうというの普通考えると思いますが、それと同じことだと思いますのでよろしくお願ひします。

そして大阪・関西万博でも交通需要マネジメントの取組を実施されたと聞いています。そこで、大阪・関西万博での取組内容と効果がどうだったのか伺います。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 大阪・関西万博では、大阪の大動脈である日常的に混雑するメトロ御堂筋線や、万博会場への主要な交通手段となるメトロ中央線の混雑率を下げるなどを主な目標としていたことを承知しております。また道路についても、阪神高速の渋滞長の低減に取り組まれていました。

実施した取組としましては、大阪メトロや阪神高速を日常的に利用する方々に対して、テレワークや時差出勤の実施、荷物の共同配送や配送時間ルートの変更の実施などの呼びかけが行われました。

また、メトロ中央線の沿線を中心に、大阪府内の企業に対しまして、交通需要マネジメントの取組に協力していただけた企業を登録する、TDMパートナー登録制度を実施し、企業への取組を促したと聞いております。

その結果、6月及び8月のTDM取組期間におきまして、取組前と比較して、鉄道及び道路の混雑率や渋滞長が低減したことが確認されております。

- 鴨志田啓介委員 TDMというのは大変重要でございまして、先ほど副市長もおっしゃっていただきましたけれども、本当に会場に来ていただけるかどうかが、ここが肝だと思います、成功するか失敗するかのと

ころでございますので、しっかりと取り組んでいただきたいのですけれども、開幕まで1年4か月余りということで、あまり時間がないわけでございますが、交通需要マネジメントをどのように進めていくのか伺います。

- 村上担当理事 先ほど御紹介いたしました12月23日に開催されます交通円滑化推進会議が開催された後に、実務レベルによる幹事会を設置して、その中で具体的な取組内容を検討した後、順次実行に移していくというふうに考えてございます。

また開幕の半年前となる来年の秋頃をめどにトライアルイベントを開催し、本番に向けた調整見直しを行うことも考えてございます。

今、御指摘いただきましたように、開幕まで残された時間はあと僅かになってまいりました。EXPO協会と連携してスピード感を持って取り組んでいきたいと考えております。

- 鴨志田啓介委員 ぜひよろしくお願ひいたします。

さて少し話題を変えまして、現在シャトルバスが発着する近傍4駅のうち、相鉄の瀬谷駅と三ツ境駅には特急が停車せず、横浜線の十日市場駅には快速が停車いたしません。我が党としては、これらの優等列車について少なくともEXPO期間中は停車させるべきだと思います。

当局からも鉄道会社に働きかけるとの答弁があったと記憶しておりますが、特急停車等の優等列車停車の調整状況について伺います。

- 村上担当理事 各鉄道会社に対しまして既に優等列車の停車ですか、あとは臨時便の増発などについての働きかけを行ってきてございます。

ただ鉄道会社のほうからは、やはり、輸送力の過不足の観点、あとは速達性への影響、費用負担の面も検討する必要があるとの見解をいただいているところでございまして、現在引き続き精力的に調整を進めているところでございます。

- 鴨志田啓介委員 ぜひ頑張っていただきたいと思います。

私の地元である緑区についても、会場への主要ルートとなる環状4号線について、東名高速道路や国道246号線の混雑を嫌って、環状4号線に迂回してくる車で渋滞するのではないかと、そのため、抜け道利用で生活道路に進入する車が増え、危ないのではないかということを、最近本当に毎週のように、不安が住民の方から聞こえてくるわけでございます。

そこで生活道路対策の検討状況について伺います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 GREEN×EXPO 2027は市街地で行われます。したがいまして地元の方々をはじめ市民の皆様方の日頃の生活、さらには企業の方々の日頃の経済活動、こういったことが行われているところでやりますので、これに支障がないようにしっかりと対策をしながら、GREEN×EXPO 2027を開催していくというのは非常に重要なことですし、我々として行政としてもそこはしっかりとやっていかなければいけないというふうに捉えております。

そのためにも幾つか対策があるかと思うのですが、まずは通学路やそういった市道、こういったところの安全の確保、さらにはいろんなところに進入していったり、うろついたり、そういうことが行われる、これは防犯上の問題とかもいろいろありますので、そういうところをしっかりと対策していくと、そういうような取組をしっかりとやっていかなければいけないということで、我々協会にも当然そこは申し入れていますし、横浜市としてもしっかりと協会と連携をして、進めていきたいと思っています。

現在具体的に検討している内容でございますけれども、来場者の皆様方の推奨ルートをちゃんと設定をして、要はランダムに歩行されたり通行されたりしないようにしていきたいなというふうに考えています。これは周知の徹底を図っていくということになります。

それから周辺の幹線道路の拡幅なども、現在ハード的に進めて渋滞の緩和とかそういったところも併せて進めております。

先ほども交通量マネジメントのお話をさせていただきましたけれども、来場の分散・平準化、こういったところに向けてもしっかりとやっていますし、こういったトータル的な対策を一つ一つ積み重ねながら、地元の方々への御迷惑がかからないよう、あるいは経済活動を阻害しないよう十分配慮していきたいと思います。

それでもなお、実際に会期が始まると、予期せぬことが起きたり、いろんなことがあると思います。そういった対策もしっかりと考えていかなければいけないと思っていまして、いわゆる抜け道になりそうなところは、ここは駄目ですよとか、誘導員を置くとか、様々な方法で対応していきたいと考えております。

- 鴨志田啓介委員 もう本当に地元に対しては丁寧に本当に複数回、説明をしていただきたいと思います。

私も毎週のように呼ばれて、この辺りの話を教えてくれということを言われておりますので、ぜひ協会、行政側からも説明会等を開いていただきたいと思います。

昨日の一般質問で我が党の白井議員から、輸送実施計画の更新版については、可能な限り速やかに公表されるよう要望させていただきましたが、5月に公表された初版では、年内をめどに公表を目指すとされていましたが、輸送実施計画の更新版は年内に公表されるのかどうか伺います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 現在の状況を申し上げますと、これは検討内容を反映した、更新版の策定公表に向けて、国ですとか関係者との調整、それから地域の皆様方の御意見をしっかりと聞いて整理をしていくこととして今動いております。

それをやっていく中でやはり、地域の皆様との意見交換を丁寧にやらせていただいている。やはり、いろんな声がありますので、これをしっかりと反映した形で更新版というものを公表していきたいとも考えていますので、年内を目標に頑張ってはいるのですが、これから年末がもう近づいていく中で取りまとめて公表まで至る見通しが難しくなりましたので、できるだけ速やかには公表していきたいと思いますが、そういうことで地元の皆様方の御意見をしっかりと反映したもので今、策定中ということで御理解いただければと思います。よろしくお願いいたします。

- 鴨志田啓介委員 きちんとまとめていただいて、よろしくお願いします。

最後に川口広議員も懸念しておりました瀬谷駅を、私も視察してきたのですけれども、瀬谷駅のトイレなのですけれども、あまりきれいとは言えず、和式のトイレもありました。そして私の地元の十日市場駅前の公衆トイレもあまりきれいではない印象があります。次に瀬谷駅の北口の階段ですけれども、トランクトランクの階段広告が汚れているのはいいのですが、雨だれがひどくて汚い印象を持たれてしまうのではないかと思います。そしてシャトルバスの乗降場となるバスターミナルについては暗い印象がありました。瀬谷駅や十日市場駅などシャトルバスが発着する駅は、多くの来場者が利用することが見込まれます。

交通事業者や資源循環局などと調整して、トイレの内装を変える、和式トイレを洋式にするなどぜひきれいにしていただき、来場者をお迎えする環境を整えていただくようお願いします。GREEN×EXPO 2027については一旦以上にいたします。

○ 花上喜代志委員 今の鴨志田議員の御質疑でかなり明らかになりましたので、それを踏まえて、何点かお尋ねしたいのですけれども、まず平原副市長にお聞きしたほうがいいのかもしれませんけれども、GREEN×EXPO 2027の開催が近づいてきた中で機運の醸成がかなり進んで、地域でも、GREEN×EXPO 2027についての話題がかなり出てくるようになって。ああ、本当によかったなと、皆さんのがわくわくし始めたと言つても間違いないのではないかと思いますけれども、そうした中でちょっと、気になることがありますのでお聞きしたいと思います。

それは、この間、大阪・関西万博の最後に横山大阪市長と山中市長が、2人で会場でお話しになったことが、大阪・関西万博の次は横浜万博と、こういうふうに言われて、なるほど最近見ているといろんなポスターが貼り出されておりますけれども、横浜万博という言葉が、今ポスターにも現れてきていると。

その一方で、花博という、そういう表現もあり、GREEN×EXPO 2027という表現もあり、園芸博という表現もあり、いろいろなネーミングが使われているなということで、さあ、では大阪・関西万博というような、分かりやすいネーミング1本に絞っていたものと、横浜の場合は幾つも名前が使われているということで、混乱を来しているのではないかというふうに思うのですけれども、平原市長はこういった実態を見て、どうすべきとお考えなのか聞かせてもらえますか。

○ 平原副市長 大阪・関西万博の勢いをこちらへ持っていくたいということがあつて、両市長の引継ぎのバトンタッチのセレモニーでは、次の万博は横浜だというキャッチフレーズを決めました。それはとても分かりやすい表現、ああ、次に横浜で万博があるのだなということを知っていただきたいがために、次の万博は横浜だというキャッチフレーズを使わせていただきました。

今、我々はGREEN×EXPOという言葉で統一をしようとしております。ですから協会のほうも国際園芸博覽会協会という正式名称ですけれども、略称をGREEN×EXPO協会で今統一をしてもらっているところです。

我々もできるだけGREEN×EXPOという言葉を使いながら、今アピールをしているところでございます。ただ、いわゆる万博として承認を得るために、正式名称とか、いろいろ手続の中で決まったことがありますので、ちょっと混乱を来しているところはございますが、我々はGREEN×EXPOという名前で、これからは統一をして展開できればというふうに考えているところです。

欲を言うと、GREEN×EXPO横浜みたいな名前がきちんと固まれば、それが一番ありがたいのですけれども、先ほど言った、いろいろな手続の中で誘致が決まってきて、承認をされている万博ですので、その辺の難しさが若干ありますので、引き続きそれは調整していくみたいというふうに思います。

○ 花上喜代志委員 これは地域の人からも、一体どの名前が正しいネーミングなのだということを言われるようになってきている、それだけ関心が盛り上がってきているということの裏返しだと思うのですけれども、今の平原副市長のお話ではGREEN×EXPO、横浜をつけるというのは、ぜひ実現してほしいと思いますけれども、GREEN×EXPO横浜とか、そういうネーミングに統一するように、引き続き努力していただきたいということを要望しておきたいと思います。

さて次に具体的なことをお伺いしたいのですけれども、もうあと1年4か月ということになったので、こういうふうに入場券の話を公にされてきたことから、この金額が妥当かどうかなんていう、いろんな話もありますけれども、我々から見てもおおむね妥当な金額だろうというふうには思えるのですけれども、さてそこで、大阪・関西万博は入場予定者数の2500万人が実現できたということで、目標を達成できて黒字になったと、この2つが大変重要だと思うのですけれども、まず入場者が有料入場者1000万、関係者を入れて1500

万とか言っていましたけれども、その目標に向けて、しっかりと準備を進めていかなければいけないと思いますけれども、その見通しについて、お聞かせいただきたいと思います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 今、委員がおっしゃいましたように、本当に魅力のあるものにして多くの方にお越しいただくというのがこれから大切なことだと考えています。そういったことから、まずは横浜市民の皆様方に来ていただく、横浜市民の皆様方に1回ではなくて、何度も来ていただきたいと思っておりますので、やはり、まずは横浜市民の皆様方にさらなる機運醸成、そして来場への誘導と言いますが、お願いしていくことをさらに強化していくことを思っています。

それに加えて、GREEN×EXPO 2027につきましては神奈川県も一緒に当然いわゆる我々のホストシティと同じように動いているところがございますので、神奈川県には神奈川県内の広域の自治体を含め、そういったところにしっかりとPRをしていただきながら、同じように来場を促していただくよう調整をしています。

さらにそのほか一都三県、いわゆる近隣都市につきましても、現在、我々政策経営局の東京事務所等々、あとは大都市制度もございます。そういったところとも連携をして、自治体同士のチャンネルで呼びかけをしてPRをしてきてくださいと、こんな動きも実は始めたところでございますので、これからしっかりとそういったPRを広域的に行いながらお越しいただくようにしたいと思いますし、あとは博覧会協会のほうで全国的な動きをしてまいりますので、それにも期待したいと思います。

- 花上喜代志委員 今のお話のとおり、まずは横浜市民に何度も来ていただくというのがまず基本になければならないと。それから神奈川県も当然、園芸博の成功に向けていろいろ協力していただいているので神奈川県下の県民の皆さんも、来ていただかなくてはならない。それから首都圏全体でお客様をお呼びしなきやいけないだろうと、働きかけしていかなければいけないだろうということであるならば、さてでは1000万人を有料入場者を集めようということで、横浜市民、神奈川県民、それから首都圏、またはそれ以外、そういう入場者の予想というのは今どのように考えているのですか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 これはあくまでもまず予想なのですけれども、それは大阪・関西万博の実績から申しますと、やはり7割とか、そういう方々は近郊で、そのほとんどがやっぱり、大阪の場合は大阪市民のリピーターが多くったと伺っていますので、その辺りはやはり、横浜を中心とした近県からだと思います。

やっぱり、広域のほうは海外も含めてなのですが、やはり、10%、20%多くて30%ぐらいかなという、私は予想しておりますので、やはり、大切なのは先ほど申し上げました横浜市、そして神奈川県、そしてその近隣都市、ここから来客を呼ぶというのが非常に重要だと考えております。

- 花上喜代志委員 先ほど首都圏の東京、千葉、埼玉、神奈川、そういった首都圏に対する働きかけというのも当然やっているというお話ですけれども、そういうことであるならば、その割合というのは今確定るものが出ているかどうか分かりませんけれども、例えば横浜市民が入場者全体の30%、40%、首都圏全体で80%とか、そういうような予測は今、出されているのかどうか、それはいかがですか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 これは入場者に向けてなのですが輸送計画を立てるに当たりまして、おおむねどの地域の方々がどのくらいお越しいただけるのだろうということは想定をして、輸送計画を立てております。

ではすみません、詳細については、部長の西岡から。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 輸送計画において予想している数字となりますが、今横浜市内から約

2割ぐらい、市内を除く県内から2割、都内からは約25%ということで、一都三県から約8割、その他の約2割は一都三県以外という形で輸送計画を想定しております。

- 花上喜代志委員 大阪を見ても、大阪・関西万博も大阪市民の方々が相当多かったということなので、今のお話だと、市民が2割ぐらいという見通しなのかどうか、もっと多くの人に来てもらわなきやいけないだろうと思うのだけれども、2割にとどまるようではいけないのではないかと思うのだけれども、その辺りの見通しはいかがですか。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 今言った数字につきましてはあくまで輸送計画を想定する上での設定でございまして、多くの横浜市民に来ていただくために、これから広報を打ったりですとか、機運醸成して、より多くの市民に来ていただくように取り組んでいきたいと思っているところでございます。
- 花上喜代志委員 横浜市民が数多くの方に来ていただく、何回も来てもらうというのは大変大事なことだと思うので、これをベースに、目標達成できるように頑張っていただきたいと要望しておきたいと思いますけれども、さてそこで輸送計画の話ですけれども、バス、鉄道会社、こういったところとの話し合いというのはかなり具体的に進んでいるのではないかと思いますけれども、この辺りについての今の状況をお聞かせいただけますか。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 バスにつきましては、今年の8月に旅行会社と協会のほうで契約しまして、そのバス会社と説明会を行ったりしながら、バスの運転手の確保ですとか、バスの調達について、今、調整を進めているところでございます。  
鉄道につきましては輸送対策協議会という協議会がございますので、その中でいろいろ情報交換しながら、ピーク時にどれぐらい来るのか、それをさばけるのかどうかとか、鉄道施設の容量は問題ないのかということについて、意見交換を行っているところでございます。
- 花上喜代志委員 今のお話の中のバス会社のドライバーがなかなか集まらないというようなことでかなり社会問題化していますけれども、その辺りについての見通しはいかがなのですか。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 今協会のほうで契約している旅行代理店のほうとバス会社のほうで詳細条件を出し合いながら、積み上がっているところでございまして、なるべく早い段階で見通しを立てていきたいという形を聞いているところでございます。
- 花上喜代志委員 ぜひ、予定どおりに、輸送計画が進んでいくように、しっかりと話し合いをして見通しを立てていただきたいというふうに思います。  
それで先ほど鴨志田議員もおっしゃっていましたが、相鉄線の瀬谷駅の話がありましたが、今現在、上瀬谷に横浜市の整備事務所ができて、園芸博の協会の職員も今常駐して、合わせて150名ぐらい来ているのではないかと思うのだけれども、それ以外に、多くの建設作業員今、公共インフラの整備をやっていますけれども、それに関わる従業員の方が、数多く今、瀬谷駅に訪れていると、私なんかも現場を見てていますけれども、今の状況から見ると、瀬谷駅に特急を止める、もう前から僕も言って、相模鉄道と5年前から話していますけれども、そろそろ特急を止めることを、本気で考えてもらわなきやいけないというふうに思うので、先ほど、採算の問題とか幾つか問題があつて検討しているというお話ですけれども、いつまでも検討している状況ではなくて、もう速やかに相模鉄道は、瀬谷駅には特急を止める決断をしていただかなきやいけないと思うのですけれども、見通しはいかがですか。
- 村上担当理事 我々も委員と思いを同じくして何とか特急列車を止められないかという話はかなり相鉄の

上層部の方とも私自身も掛け合ってやってきております。

ただやはり、相鉄さんに対して今いろいろ駅の構内の改修までというところまではいきませんけれども、様々な今、打合せをしてございます。やはり、安全にお客様も来ていただくということもございます。そういったトータルでの話をしている中で、特急列車の話も私からも再三御依頼しているところでございます。

ただ、時期もだんだん迫ってきておりますので、なるべく早い段階で、もうとにかくどうなっているかということを含めて結論を出していくように最後頑張っていきたいと思っております。

- 花上喜代志委員 相鉄さんも、分かっていると思うのです。瀬谷駅の乗降客が、かなり増えてきたというのはだから営業上も、園芸博をにらんで、瀬谷駅に特急を止める必要性というのは考えてくれているとは思うのですけれども、もういつまでも待っていられる状況ではないなというふうに思うので、引き続き精力的に、打合せをしていただきたいと思います。

それからトイレの話もありましたけれども、でもこれは三ツ境駅もそうなのだけれども、やっぱり、トイレがないというのはまずいです。

瀬谷駅のトイレはないわけではないのだけれども、三ツ境駅も駅前に今度はバスターミナルを造ると、シャトルバスを発着させるということで瀬谷駅だけではなくて、三ツ境駅もシャトルバスを発着させるというのだけれども、バスターミナルで今待っている人たち、今一般の方々が使っている路線バス、そこにもトイレがないので、今、かなり深刻な話になってきつつあるのだと思うのです。

だから、やはり、トイレというのは絶対に必要なことなので、これはもう瀬谷駅もそうだけれども、三ツ境駅もほかの駅もやっぱり、きちんと整備していかなきやいけないと思うのだけれども、やっぱり鉄道利用者、バス利用者の方から物すごく私たちも言われているのです、トイレを何とかしてくれと。

だからこれはぜひ早急に実現しなきやいけないと思うのだけれども、その認識はいかがですか。

- 村上担当理事 委員のおっしゃるように、特に瀬谷駅、三ツ境、あと十日市場、南町田の4駅ございますが、特に瀬谷、三ツ境に一番多くのお客様がいらっしゃるだろうと、特に瀬谷、三ツ境についてのトイレの問題というのは我々も十分認識をしております。

実際にシャトルの待合場所をどこに置くかとか、そういうところとも関係してきたりとか、あと動線をどうするかということも今、最終的に駅のいわゆる利用計画を詰めているところでございます。トイレの改修及びもしかして仮設トイレという話はどこまでできるかということも含めまして、我々関係者としっかり協議を進めているところでございまして、なるべく早い段階でその結論を出していきたいと思っております。

- 花上喜代志委員 お願いします。

それから目標の入場者数を確保するためには、旅行会社への働きかけというのも大事ではないかと思うのだけれども、当然、今、各旅行会社などとも話し合いをしていると思いますけれども、その状況はどんなになっているのですか。

- 五十嵐担当理事 委員御指摘のとおり今回のチケットを売って多くの方々に来ていただきためには旅行代理店の協力は不可欠でございます。現在、博覧会協会のほうにおいて、チケットセンターを立ち上げるべく準備をしておりますけれども、その中には旅行代理店が当然含まれておりますし、またそのチケットセンターが中心となって全国の旅行代理店に協力を呼びかけながら、より多くの方々にお越しいただけるような準備を進めているというふうに承知しております。

- 花上喜代志委員 旅行会社との話し合いというのはかなり具体的に進んでいるのですか。

○ **五十嵐担当理事** 詳細についてはつまびらかには承知をしておりませんけれども、大阪・関西万博の販売状況なども旅行代理店等を通じて協会も入手をしておりまして、スケジュール感を持ってしっかり検討しているというふうには承知をしております。

○ **花上喜代志委員** ぜひ、今からしっかりと詰めるところは詰めていっていただくように、精力的な話合いをお願いしたいと思います。

それでGREEN×EXPO 2027は6か月間ということで、もう決まっているわけなのだけれども、大阪・関西万博に行ったときに経済産業省の役員の方でしたか、6か月間の中でも、入場者が前半、中盤、終盤、こういう時期的なもので、かなり変化するというようなお話をあって、特に後半に入場者が集中するというお話をされていましたが、事実そのとおりになったなと思うのですけれども、そういう予測についてはどうでしょう。

○ **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** こちらはチケット代も含め、検討するに当たって協会のほうでしっかりとその辺も踏まえてやっております。GREEN×EXPO 2027における予想としては、今、委員がおっしゃったように後半、閉幕前に多くの方が集中するという予想はございます。

さらに、開幕だと、もっと言うと夏の前ですか、この辺りでゴールデンウィークとか、そういうようなところにまた集中してくると、そしてやはり、夏場は若干来場者が少なくなるであろうこれが予測でございます。

○ **花上喜代志委員** それと、この期間中、夏場の話が地域の方々からよく出てくるのだけれども、大阪・関西万博も暑かったけれども、あれは大屋根リングがあったので、またパビリオンがあったので随分助かったという話ですけれども、今度は花と緑と環境をテーマにする博覧会ということから、大阪・関西万博の会場とはかなり違うので暑さ対策というのは、よほど周到に検討して準備していくかなきやいけないと思うのだけれども、この点については、今どのようになっていますか。

○ **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** 暑熱対策は我々も非常に最重要課題の一つと捉えております。これはもう会場の中だけでなく、お越しいただいたシャトルバスの乗り場から、会場までを歩く方々にとっては、道路もそうなのですが、さらに会場の中と全てやはり、しっかりと暑熱対策をやっていかなきやいけないということで今、いろんな様々な具体的な検討を始めております。

それぞれ部署場所によって違いますけれども、今、委員がおっしゃった環境テーマとしたEXPOでございますので、何かハードだけでやるのではなく、例えば水、ミストとかあるいは保水性の舗装を使うとかいろんな様々な工夫をしながら、やはり、環境に優しい暑熱対策を心がけてやると、具体化は今、検討しているところでございます。

○ **花上喜代志委員** 会場の中にパビリオンというのは、幾つぐらいできる予定なのでですか。

○ **五十嵐担当理事** 現在それぞれの出展者の中で御検討されていますので、どういう、我々の、パビリオンのような大きなものという言い方よりは、ハウスというような言い方をしておりますけれども、建物が建つかということを含めて御検討いただいております。

民間出展者は、まず12のViilage出展者をはじめ、たくさんの方々がいらっしゃいますので、その多くの方々は恐らく箱のようなもの、あるいは半屋外の屋根つきのようなものをお造りになって、各社の持っている循環世界だとかという世界観をお示しいただくと思っております。

それから博覧会協会そのものとして、シンボル展示施設、屋内展示館、それから各種の市民活動センター

のようなものもお造りになりますし、そういった方々からすると、それなりのボリュームのいわゆる屋内、あるいは半屋内の空間は提供されるのではないかというふうに考えております。

- 花上喜代志委員 ということは、屋根つきの施設というのが、企業で12、それ以外にも幾つかあるみたいだけれども、今はつきりしているのは、どのくらいの施設が幾つできるのか、どんな規模の施設が幾つぐらいできるのか、分かっている範囲で教えてくれますか。
- 五十嵐担当理事 先日の500日前の記者発表のときにも、協会のほうから御発表がございましたけれども、まだ構想として絵が出てきているところが限られておりまして、今の段階で何か所ということをはつきりは申し上げる情報は手元にないのですけれども、先ほど申し上げましたようにまずシンボル展示館、それから屋内展示館、それはしっかりした建物になりますし、それから日本国政府出展がございまして、これもかなり大きなボリュームの建築物が、この前起工式がございましたけれども、設置されるというふうにお伺いをしておりまして、数としてはある程度提供されると思われます。

ただ一方で、全体としては海外からの出展物についてはガーデンが中心になるものでございますので、大阪・関西万博のように建物が乱立するというよりは、ガーデンの中に、いわゆるハウスや小屋のようなものが建って半屋外、屋内の空間をお楽しみいただけるような形になるのではないかというふうに予測をしております。

- 花上喜代志委員 今のお話の海外からの出展、その状況ははつきりしているのでは、何か国かも出展するということになったのですか。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 現在、海外からの表明状況は60か国以上が参加表明しております。目標が70でしたので、大分目標に近づいていると、このように聞いております。
- 花上喜代志委員 目標に近づいているということは、目標をクリアできそうだという見通しになっているということですね、70。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 はい。今、これは日本国政府のほうが外交上で交渉をしておりますので、私から細かい情報までは申し上げることはできないのですが、政府の方々のお話ですと、70に向けて鋭意交渉をしているというふうには聞いております。
- 花上喜代志委員 分かりました。

それで、国内の自治体のほうから出展するという話を聞いていますけれども、その状況は今どうなっていますか。

- 五十嵐担当理事 全国からの自治体の出展については、博覧会協会あるいは本市も含めて積極的な招請活動を行っておりまして、政令市は全て、それから都道府県についてもほぼほぼ、おおむね全てと言えるような状況まできておりまして、残っている公共団体については、政府も含めて積極的に関与しているというふうに聞いております。

それから、ほかの政令市及びそれに都道府県以外の県庁所在地などについても、かなりの数のお申込みがあるというふうに承知しております。

- 花上喜代志委員 ということは、会場は100ヶタールでしたか、会場全体を見渡すと、世界各国から70か国ぐらい出展がある。それから都道府県あるいは都道府県庁所在地の自治体、そういったところも出展してくるということなので、会場を俯瞰的に見て、どのような景色が見られるようになるのか。それについて、今分かれば。今まで我々が聞いていたのは、園芸博覧会の会場に一步足を踏み入れれば、圧倒的な花と緑で

お客様をお迎えしますと、こういうふうに聞いていたわけだけれども、さて、では具体的にどこの国が、あるいは自治体がどのようなものを出そうとしているのか、今はっきりしていることが分かれば教えてもらえばと思います。

- **五十嵐担当理事** 先ほど、12の国内の優秀な企業の出展が見込まれるという御説明をさせていただきました。

そのほかに、いわゆる建物のようなものを御用意していただく営業の施設、恐らく、それぞれの方々が全国からいろんなものを、食や農の楽しみを御紹介いただけると思いますけれども、それが4団体出てくることになっておりまして、そういうものを含めますと、まず入ったところですばらしい、広がる、幸せを感じられるような風景とともに、そういう個々の建物も含めた、今回のGREEN×EXPO 2027については、建物とそれぞれ民間の出展者の方々も、ガーデンと建物の両方ですばらしい世界観を示してくれということでやっていますので、個々のパビリオンと言いますか、V i l l a g e 出展者の方々のところも魅力的な風景になりますし、全体としては一つ一つのパビリオンに入らなければこの価値がないということではなくて、その風景、つまり待ち時間がなくて入った瞬間に様々なすばらしい風景、その中には委員御指摘の海外の方々の出展物もあるというようなものになるように、市を含め協会と共に、これからも進めてまいりたいというふうに思っております。

大阪・関西万博とは、また違う幸せの風景が御覧いただけるような場になるというふうに期待しております。

- **花上喜代志委員** わくわくするような会場を来場者が見られるというようなことで、非常に期待が持てるなどという、今そんな気持ちになってきましたけれども、地元の方々も、今みたいな話を聞けば、園芸博覧会はすばらしい博覧会になるのだろうということで、期待感が一層膨らんでくるのではないかというふうに思います。

ぜひ成功させなきゃいけないと思いますけれども、それから輸送手段について交通問題について、これは地元の方々から、私も何度も呼ばれて説明をしたりなんかしてきましたけれども、バス輸送とか、自家用車で来るとか、鉄道で来るとかいろいろな手段で入場者を迎えるということになりますけれども、身近なターミナルで、もう議論が出ていますけれども、瀬谷駅から会場までの海軍道路、環状4号道路、その歩道の整備などをやって、途中にベンチを置くとか工夫をしますよというお話を聞きましたけれども、それは瀬谷駅だけではないと思うのです。

三ツ境駅からも、今、工事が急ピッチで行われていますけれども、歩いて行こうと思えば、会場に行けるということにもなるので、全体的に見て整備しなければならないところというのがあろうかと思うのだけれども、そういう点についての今の考え方はどうですか。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** まずは瀬谷駅から環状4号線、海軍道路を通って会場までお越しいただく方を想定して、しっかりと、それは具体化の検討がほぼ進んでいます。

一方で、そこだけではなく、当然近隣の駅ですか、場合によっては十日市場ですか、そういうところからも歩かれる方もいらっしゃるかもしれない。そういう方々に対してもしっかりと対応を考えていくということは外せないと思います。

しかしながら、濃淡とかいろいろやり方というのが場所場所で違うと思いますので、その辺は瀬谷からの歩道というものを皮切りに、我々としてはどうしていくべきかというのは引き続き検討していきます。

○ 花上喜代志委員 最後にしますけれども、今回行われる上瀬谷での国際園芸博覧会は、もともとは基地があつた地域で、基地が返還された後に行われる国際イベントということありますので、山中市長も言っていただいていますけれども、平和、やっぱり、平和という言葉というのは、GREEN×EXPO 2027の中でもかなり強く意識した取組をしていただかなきやならないのではないかと、こういうふうに思うわけですけれども、長年にわたつて日本帝国海軍の基地があつて、それで戦争が終つた後は米軍基地として70数年接收されていて、瀬谷区民なんかは、基地に行くとそれこそMPにピストルを突きつけられたとか、いろんなやっぱりトラブルがあつて、市民生活に支障があつた、まちづくりも行えなかつた。

そういう地域が、基地が返還されたおかげで、これだけの国際園芸博覧会が開催できるということについて、もう全く町の見方が変わってきているということなので、このことは強く意識して、園芸博覧会の中でも強調して、平和の町上瀬谷というふうに、市民の方々にも来場者にも理解していただくような取組というのは、すごく大事だと思うのですけれども、この点についてのお考えを聞かせてください。

○ 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 委員のおっしゃるとおり、平和の利用、上瀬谷はこれの象徴だと思います。ですので、将来のまちづくりにもつながるものでございますので、そこにおいてもしっかりとその辺を意識して取り組んでいます。

それはハード的に何かここは基地だった、それがこうなつたとかいうシンボルも多分残していますので、若干そういうものもあるのですが、一番大切なのは、やはり海外の方も含め、多くの方々が上瀬谷に集い、そしてここで交流し、そして世界に発信をしていくと、これはまさしく平和の象徴だと思います。

ですので、そういう取組をしっかりと組み立てて、平和というものは、こういうふうになるのだよというのをメッセージとして世界に発信できればいいなど考えております。

○ 花上喜代志委員 海軍道路という名前がついていますけれども、環状4号線は海軍道路、旧帝国海軍が使っていた鉄道が引かれていた。そうした軍事的な鉄道、その後を継いで、それで今、海軍道路という名前が残っているのだとそういう歴史的な経緯もありますので、局長をはじめ皆さんよくお分かりだと思うので、平和について皆さんにこのイベントを通じてよくよく理解していただくような、そういう取組を、来場者にも分かるように、しっかりとアピールしていただきたいと、このことをお願いしたいと思います。

○ こがゆ康弘委員 端的にまず9ページの広報プロモーションの取組ですけれども、中学校給食とか、小学生にもあつたのでしょうか、このよこはまReゼリーというキャラクターの描いてある物、非常にいい取組だと思いますし、このキャラクターを横浜市内の児童生徒に分かっていただく、大変いい取組だと思って、もっと拡大すればいいではないですかというお話をしたら、いやいや、これはいろいろ協会との関係があつて、拡大できないのですよみたいな話になつた、ちょっと記憶しているのですが、こういう取組をなんで拡大することができないのですか。協会と、どういう取決めになつているのか。

○ 越智GREEN×EXPO推進部長 学校給食の取組で拡大できないということではなくて、今回、トランクトランクのキャラクターを使用していくところで、レギュレーションというか、やっぱり、使用の仕方というところで一つ一つ調整しながら、今回もこういう実現になつたというところがございます。

委員がお話しになつたとおり、やはり、学校給食でこういう取組をやるということで今回は500日前というところで、案内のところなんかもさせていただいて、本当に幅広く周知もさせていただきましたので、また次使うときに、しっかりとどういう形で使ってトランクトランクをやっていくかというのはしっかりと調整していただきながら、また機会機会のところで、やっていきたいというふうには考えてございますので、

決してできないとか、そういうことではございませんので、また進めていきたいと考えてございます。

- こがゆ康弘委員 お願いします。

横浜市独自の取組でやっていると思うのですが、協会にも、横浜で開催するので、横浜グッズっていういろいろあるではないですか。例えば昔、はまっ子どうし The Water という水のペットボトルがありましたけれども、そのパッケージに使うとか、それができないなら横浜水缶でもいいです。

あるいは崎陽軒さんとかハーバーさんとか、そのパッケージにこのキャラクターを入れる、いろんなプロモーションの方法というのがあるのです。そういうことは何か、もう協会への御提案とかそういうことはできないのですか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 既に協会のほうでも、ありあけさんですとか、崎陽軒さんと連携してトゥンクトゥンクとのコラボの商品を出していただいたり、そういうこともしております。

ですので、これにつきましては様々なそういう企業の方々の、対話は必要ですけれども、今後もそういうのを拡大できればやっていきたいと思います。

- こがゆ康弘委員 ふるさと納税の返礼品にできるかどうか、分かりませんがいろんな方法でプロモーションしたほうがいいかなと思うのです。

皆さんもつけていますこのバッジ、これは私も2階で買いましたが、これは1人1個までという制限なのです。なんでこんな出し惜しみではないですかけれども、広くがんがん売ればいいと思うのですけれども、これは何か理由があるのかというのと、こういう、僕もこれを見つけておっとと思って買ったのですが、これは皆さん、見たことないですよね。作ってはいるらしいのですが、オフィシャルライセンスグッズなのですから、製作数が少ないのだから何だか、どこにも売っていないのです。

やっぱり、大阪・関西万博でミャクミャクのぬいぐるみみたいなものは、物すごい売れていたのです。こういう平らな物もいいのですが、あるいは下敷きみたいのとかファイルもいいのだけれども、こういうのをもう少しちゃんとプロモーション的に作るという戦略も重要だと思うのですけれども、どうなのですか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 委員のおっしゃるとおりでございまして、私どもも協会に対してトゥンクトゥンクを愛してもらって、それが多くの方々に愛されれば物販につながりまして、それは収入もつながりますので、当然積極的にやっていくべきだということは申し上げております。

その上で大阪・関西万博が終わって、いよいよミャクミャクからトゥンクトゥンクがかなり着目されるようになりますて、購入できないというのは、結構売り切れ続出とかそういう生産が間に合わないとか、そんな状況も発生しつつあります。ですので、それを今なかなか見ないというのは、そういうところもあるのですけれども、いずれにしましても、やはり、このトゥンクトゥンクをいろんな形で、もっといろんなグッズを作りそして世に出していくということは必要ですし、このバッジにつきましても大量に購入するというのは、いわゆる、これをパテントとして商売を先ほど言った、収入源として営業しているところがございますので制限がもともとあります。大阪も一緒です。

ですので、我々としてはこのトゥンクトゥンクを違う形で、例えば横浜市としてしっかり世に出せないと、それは検討しているところでございます。

- こがゆ康弘委員 ぜひ、いろんな方法で知らしめてください。

私もこれを買ってつけていますけれども、それ何って今、言われるのではまだ認知がされていないと思うので、いろんな方法で、目につくような方法があればぜひお願いしたいと思います。

次に、12ページの入場券の価格設定、私は特別委員会でこの価格というのは運営費から逆算して、人数割りして幾ら幾らということを出すのもいいのだけれども、そうではなくて、コンテンツがいいか悪いかで、値段の価値は決まるのです。

逆算して出したら、値段というよりは、ここに行ってよかったと思うのだったら、その値段でもいいし、もしかしたらもっと高くてもいいかもしない。要は内容によって、次行こうか行かないかということが決まるわけで、それによって値段は多分決まるのではないかなと思う。

だから、値段を決めたのはいいのですけれども、それに見合うコンテンツにしなければ何の意味もないし、入場の1000万人にだってとても届かないわけです。先ほど、もうお話、鴨志田委員の御回答をいたいたいので、私はそれ以上言いませんけれども、ぜひその点を十分に考慮していただきたいと思います。

それと入場券価格の設定ということで出たのですが、ただ協会のホームページを見ると、これ以外にも何か団体割とか特別割というのがあるのですが、こちらは横浜市では売らないというわけではないですね。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** 本日の常任委員会の資料は、主なところを記載させていただきまして今、委員御指摘のとおり博覧会協会のホームページには、これ以外の一般団体割引券、さらには学校団体割引券につきましても出ております。これにつきましても、横浜市と言いますか協会のほうで、しっかりと販売をしていくというものですござります。

- **こがゆ康弘委員** 分かりました。  
この値段というか、横浜市はなかなか関与できないという話も伺いましたけれども、先ほど、やっぱり、横浜市民にたくさん来てもらいたい。神奈川県民にもぜひ足を運んでもらいたいということであれば、例えば市民割、県民割というものがあるのかどうか、あるいは学生割というのもあるのですけれども、学校団体割引というのがあって、これはでは、学校団体の割引は市内の学校と市外の学校は同じなのでしょうかとか、そういうことというのは協会の内部ではお話し合いをされているのですか。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** その点につきましては、今のところ個別の学生割ですとか、市内割とかいう割引という形で検討していることはないのですけれども、ただ、やはり、我々例えば横浜市ですと市内の小中学生、あるいは就学前のお子様、そういった方々にも来ていただきたいので、これはまた別の方法でしっかりと御招待ができるようにどうしたらいいかということを今検討はしております。

- **こがゆ康弘委員** まずは市民に来ていただきたいと先ほどもおっしゃっていたので、それであればそれなりの方法をやっぱり、料金の面でも考えるべきかと思います。

それと、これを見ると1日券とかだと、会期中いつでも1回入場可ということは、買ったらいつ行ってもいいのかという話なのですけれども、大阪・関西万博の場合は当初は並ばない万博って言って、日にちも時間も指定だったのです。

このチケットはいろんな買い方があると思うのですが、日にち時間の指定ができるのかどうか、あるいはその変更とかキャンセルとかというのが可能なのですか。

- **五十嵐担当理事** 御指摘の点につきましては、先ほどの販売の戦略の話で旅行代理店のお話も御説明をさせていただきましたけれども、日時予約がいいのか、日予約のがいいのか、それとも午前午後が最もいいのかということについては、今予約システムの全体の中で検討しております、一方で、先ほどのバス需要のところでお話もありましたけれども、シャトルバスの中の集中というものを考えると、バスのほうでのコントロールがいいのかということも含めて、全体の制度設計を博覧会協会の中で急いでいるというふうに承知

をしております。

- **こがゆ康弘委員** やっぱり、混雑状況を踏まえて、この時間帯はかなり並びますよということを、入場される方に、チケットを買う方に教えるのか、あるいは協会側でもその時間はチケットを売りませんという形で入場者の制限をするのか、もちろんその来場の方法にもよりますけれども、いずれにしろ、並ばない万博と言つておいてかなり並ぶことになったのですが、ああいう混雑状況は、やはりないような形にしたほうが、入場者としてはお金を払つて行つてはいるわけですから、ぜひそういう工夫も、ピーク時が、この時期とこの時期にピークになりますというのもう出ていますから、そういうときにどうするのか、販売方法も含めて御検討いただければというふうにも思います。

それと最後に交通需要のマネジメントですけれども、点線赤囲みの一番左の下に、今回着手する取組というのがあるのですが、TDMということでルートや手段の変更をいろいろ考えていただくのだという話なのですけれども、やっぱり、行きやすい環境をつくるというのが非常に重要だと思いますので、行こうと思う人たちが、今だったらこのルートだとこのぐらいの時間がかかります。この駅から行くと何時間ぐらいかかりますというのをタイムリーに情報で教えることで、やはり、混雑緩和につながるのです。

当初は瀬谷駅から行こうと思っていたけれども、瀬谷から行くルートというのは非常に時間がかかるので、別ルートで行きましょうとか、あるいは歩いて行くのが一番時間がかかりませんとかいうことになるかもしれない。

そうした情報をタイムリーに教えることが、行かれることに対しては非常に便利なのですけれども、そういったことも考えていらっしゃいますか。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 委員の御指摘のとおりタイムリーな情報というのは非常に大切なものだと思っております。

まずは事前に予測した情報をまず出していくこと、合わせて本当にその日、その時間にタイムリーな情報を出すことが重要だと思っておりますので、引き続き協会とその辺と連携しながら、そういう情報発信のほうについて検討していきたいと思っています。

- **こがゆ康弘委員** 最後にします。

来場者用の駐車場が3000台か何かだと思いましたけれども、それだとどうなのかなと思うので、パークアンドライドが、今これから利用しようとしていると思いますから、その方法をある程度やっぱり、周知して、今どこにその場所を設定するかというのは難しいところですけれども、しっかりととした駐車場を確保して、そこからピストン輸送するということが、やはり、自家用車を持っている方にとっては一番いい方法かなと思いますので、そういったこともしっかり検討して、進めていただければと思います。

- **宇佐美さやか委員** 昨日の一般質問で質問させていただいたて、市長のお答えもいただいたのですけれども、大阪・関西万博でパビリオン建設に関わったG L E v e n t s J a p a n 株式会社の建設費未払い問題、横浜でも起きないようにということで、私たち当市議団として申入れもさせていただいたのですけれども、市長の昨日の答弁は協会が決めることだというような、受け止めているのですけれども、副市長は申入れの際に協会とも共有すると半分は我々のイベントだということでお返事をしていただいたのですけれども、その後、協会は何か対策を検討されているのかというのを伺います。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** 協会のほうには、当然このような、そういう状態があるということは共有していますし、協会の方もしっかり把握しております。ですので、まずそこの認識の共有はできてい

ます。

その上でなのですが、これは民間、民民同士での今の状況でございまして、係争中でもあるということで、その因果関係あるいは事実関係がまだ明らかになっておりませんので、具体的には何か対策できるかということ、なかなか難しい。

しかしながらこれは一つの事例として、いろんなトラブルがやっぱり起きないように、開催主体である博覧会協会あるいは我々もホストシティとして、そういった防止に努めていくというのは責務だと思っておりますので、必要な情報を共有しながら、必要な情報があれば、それなりの対応をしていくということで、しっかりと共有しているところでございます。

- **宇佐美さやか委員** 必要な情報というか今、裁判係争中ということで結果がどう出るかというのも鑑みてだとは思うのですけれども、やはり、今からでもメンバーの中に選ばれた協会の中から外れていただくとかという対応をしていくことが一番、後々の、もし横浜でも同じことが起きましたというときに、あのとき外しておけばよかったというふうに、ならないのではないかというふうに思うのですけれども、今からGL Events Japan株式会社さんには御勘弁いただくという検討はされないのでしょうか。

- **五十嵐担当理事** GL Events Japan株式会社の問題については、市も協会も非常に重要な問題だというふうに認識しております。

ただ一方で、今局長から御答弁申し上げましたように、国内の複数企業から訴訟を起こされたりしていますけれども、いずれも交渉中・係争中の案件でございますので、まずは事実関係が明らかになった段階で対応することが基本ではございますけれども、現在GREEN×EXPO協会においては、こういった状況を仮にGL Events Japan株式会社様も含めたGX House提供サービスを御利用にならうという、希望される参加国などがあれば、丁寧にこの段階からお伝えをしながら、適切な判断がされるように寄り添つて支援をすると、後々のトラブルを未然に防ぐということについて、対策を講じるということにしておりますので、それをしっかり我々としてもサポートしていくかというふうに考えております。

- **宇佐美さやか委員** GXさんと協力して造っていきたいという、希望した国の方たちには、こういう契約を丁寧にしてほしいとかということを、しっかりとアドバイスしていくことでよろしいですか。

- **五十嵐担当理事** このGX House提供サービスは、協会が民間のプレハブ会社などとサーキュラーの文脈で造ったモジュールを御提供するサービスでございますので、参加する国、あるいは希望する国については、どの会社を希望される場合においても、国内で既にこういった訴訟などの状況が起こっているということを丁寧にお伝えし、トラブルを未然に防止をするということを、まず今の段階から講じていくというのが、協会なり私どもの姿勢でございまして、その上で、現在係争中であるものの事実関係が明らかになれば、それを踏まえたさらに適切な対応を取るというのが基本でございまして、一方で現時点において、この当該者を利用したいというふうに協会のほうに表明している国、あるいは企業については現段階ではないというふうに承知しております。

- **宇佐美さやか委員** しっかりと対応していただきたいと思います。

当市議団は当初から360億円を上限に上回ることがないようにということを指摘してきたのです。運営費もやはり、当初よりも1.5倍の135億円を上乗せするということが発表されていますけれども、来年度、再来年、2026年と27年分の物価上昇分を幾らと見込んで135億円というふうにしたのかというのを伺ってよろしいですか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 まず労務費を中心に考えますと、もう統計的にも、当初計画した段階からですと1.4倍から1.5倍、4割から5割の上昇をしていると。これを鑑みてやはり、2026、2027終了までその傾向が続くという予測の下、このような運営費の見直しをされております。
- 宇佐美さやか委員 先ほど聞いたら、令和5年度と、2024年から計算し直しての360億だったはずです。その頃にはもう物価上昇していたのではないかというふうに思うのですけれども、その時点での見込みよりも大分増えてしまう、物価上昇が大分進んでしまったという認識でよろしいですか。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 そのとおりでございます。
- 宇佐美さやか委員 そうなるとやはり、見込みが甘かったのではないかというふうにも思ってしまうのですけれども、もうこれ以上、先ほどの委員もおっしゃっていましたけれども、増えないようにしていかないと、やはり、大阪・関西万博の二の舞になってしまいというふうに思うのですけれども、本当にこれの金額で収まるのかというのをお伺いしたいのですが。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 今回の見直しにつきましては、博覧会協会のほうからも、今のような物価上昇、あるいは様々なセキュリティー対策、必要なものを精査して見直したと伺っておりますので、基本的にはよほど想定外のことがない限りはこの運営費で実施していくものだとは理解しております。
- 宇佐美さやか委員 よほどのことがないことを願うしかないのですけれども、これ以上は本当に増えないようにしていただきたいと思います。  
運営費に関わる入場券の価格なのですけれども、設定が18歳以上は5500円となっていて、私たちが浜名湖の花博の視察を行ったときに、大人は1700円で子供さんが850円と、これに比べたら何かやっぱり、庶民感覚で言うと高いなというふうに思ってしまうのですけれども、もう少し安くならないのかというのをお伺いしたいのですがいかがでしょうか。
- 五十嵐担当理事 浜名湖の、恐らく御視察いただいたやつはこの前の、前のいわゆる万博ではないほうの一般園芸博の後の20周年の御記念のものだと思いますので、あれはいわゆる国内で言えば都市緑化フェアに近いようなものでございまして、それと今回の私どもGREEN×EXPO 2027、万博と、それからA I P H認定の園芸博に指定されているものとはかなり様相が違うと思っておりまして、そういう意味では、先ほど委員から御指摘ありましたように、内容を価格に見合ったものにしていくというのがまず基本でございまして、一方の割引については、既に協会で今回発表されていますように、1日券のほかに早割、あるいは夜間、それから通期パス、夏パスというふうに割引が設定されておりますので、御利用者がそれぞれの行きたい時期、あるいは構成などによっていろんな選択肢があるよう御用意されていると思っておりますので、まずはこれをしっかりと販売していくというのが基本だというふうに承知しております。
- 宇佐美さやか委員 浜名湖とはランクが違うのだよと、質も違うのだよというふうなのは分かるのですけれども、中人として12歳から17歳が3300円で、様々な費用が、学費ですかかかる年齢層の御家族を抱えていると、やはり4人家族として12歳と15歳のお子さんが行って、御夫婦で行くとしたら1万7600円もかかるのです。交通費もかけて、中で食事をするというふうになると、そこでも費用がかかる。そうなるとやっぱり高いなって思ってしまうのです。お買物も、お土産もせつかくだから買いたいなとかというふうになったら、やっぱり、お財布を気にしてしまうと思うのです。でもやはり、ここは安く抑えていただきたいというふうに思うのですけれども、再検討の余地はないのでしょうか。
- 五十嵐担当理事 委員御指摘のように、私も個人として考えるともちろんもう少しというか、安価のほう

がもちろんいいのはいいのですけれども、まずその価格に見合った会場であるかということと、先ほどの運営費をきちんと賄う、収支のバランスを取って欠損が出ないようにということで組まれておりますし、関係閣僚会議でも御了承いただいたということでございますので、まずは我々としても博覧会協会を支援しながら、しっかりと売っていくということ。

それと併せて局長が御答弁しましたように、お子さんたち、いわゆる通学をしている方々については、別途、市のほうで博覧会会場に行きやすいようなパッケージもということでございますので、そういうものを合わせて、横浜市民の方々にはなるべく多くの方々にお越しいただけるような工夫を、引き続き様々な形で検討していきたいというふうに考えております。

- 宇佐美さやか委員 本当に何度も行きたくなると思えるようなものにしていっていただきたいというふうな思いはありますので、そこは共有していると思いますので、いいものにしていただきたいと思いますけれども、やっぱり、そこはもうちょっと安くならないかなという努力もしていただきたいと、継続してお願いします。

交通需要マネジメントで来場者の分散・平準化というふうに書かれているのですけれども、先ほどもあつたかなと思うのですが例えばどういうことを想定しているのか、もう一度御確認したいのですが、いかがでしょう。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 来場者の分散・集中の緩和につきましては、例えば車で来られるお客様につきましては、駐車場を予約にして、車の時間を規制することによって分散化を図っていくことが考えられますし、あとは、私が先ほども御答弁させていただきましたけれども、事前に様々な情報を出すことによって、この時間は混む、この時間は来場者が集中するということを出すことによって分散化、そういう情報を発信していくことによって分散化とかを図っていきたいと思っているところでございます。
- 宇佐美さやか委員 本当に大阪のときにあったことはちゃんと参考にしてというふうにされているのかというふうには思うのですけれども、2024年の国会の冒頭の質疑で国土交通省が、シャトルバスの輸送力の確保のためには、バス及び運転手の確保が課題ということを懸念していますが、先ほどの委員もおっしゃっていましたけれども、それを踏まえて、もう一度確認なのですが、何をどう変えていくのかというのを伺います。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 シャトルバスの運転士、バスの確保につきましては、先ほども御答弁させていただきましたが、今年の8月に協会のほうで旅行代理店と契約をして、現在説明会を、県内と都内バス業界について説明を行っているところでございます。
- それにつきまして今条件を調整しながらやっているところでございまして、そういう形で確保していくという形を考えているところでございます。
- 宇佐美さやか委員 確保状況というのは、今のところどれぐらいというのは、もう把握されているのでしょうか。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 現在説明会を行ったところでございまして、実際に何社、何台来るかにつきましては、まだ全体像は把握できないという状況でございます。
- 宇佐美さやか委員 これからということで、引き続き、本当に今、運転手さんは成り手不足というふうに言われている中で、貴重な方たちが各地から集まるとなると、ほかのところにも御迷惑をおかけするのではないかというふうに思ってしまうのですけれども、そこはしっかり対応していただきたいというふう

に思います。

交通円滑化推進会議というのを今後立ち上げるというふうに書いてあるのですけれども、参加機関に一番声を聞く必要があるのではないかという、地元の自治会ですか、町内会の方たちが参加の、関心のある方たち、地域の方たちが参加していないように見受けするのですけれども、こちらはなぜ参加をされないのかというのをお伺いします。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 交通円滑化推進会議におきましては、企業や市民の皆様に御協力を呼びかけするための内容を検討・調整していきたいと思っているところでございます。

そのため、専門知識や経験を有する方に、経済団体、国、自治体、交通事業者などの幹部層に御参加いただく予定でございます。

地域の皆様につきましては、これまで輸送計画公表後も御説明し、御意見を伺いながら検討を進めてきておるところでございますので、TDMの活動につきましても、会議で検討された内容を丁寧に御説明しまして、いただいた意見を踏まえ、取り組んでいきたいという形で考えているところでございます。

- 宇佐美さやか委員 地域の皆さんに、先ほど伺った時間をずらしての通勤ですか、テレワークに変えてほしいというお願いをするというのは伺ったのですけれども、やはり、一番地元の方たちが地元のことを一番知りたいと思うのです。その声はしっかりと吸い上げて、この会議で言っていくというふうにおっしゃっているのだと思うのですけれども、その声が本当に真っすぐ届くのだろうかということを心配しているのですが、これをしっかりと聞いて真っすぐ届けるという保証というか担保はあるのでしょうか。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 繰り返しになるかもしれません、輸送計画実施後も本当に連合町内会だけでなく、単一町内会のほうにも出向いて、意見交換を行っているところでございまして、そのキャッチボールを何回もやっているところでございます。

TDMの取組につきましても、そういう意見交換をやりながら、しっかりとそういう意見を会議のほうへ返した上で、その意見をまたフィードバックするような形でやっていきたいと思っていますので、そういう形で進めたいという形で考えているところでございます。

- 宇佐美さやか委員 何か意地悪な言い方をして申し訳ないのですけれども、横浜市が恣意的な意見を会議の場に持っていたとしたら、やっぱり、地域の方たちとはまた違った意見になってしまふと、そういうふうになってしまったとしても残念なことになってしまうなというふうに思っていますが、先ほど来、何度もキャッチボールをしているよというお話だったので、そういう、何度も地域の方の声をしっかりと丁寧に聞いていただいて、会場の外でも、やっぱり来場者との摩擦とかが悲しいことになってしまうと思うので、友好関係を築くためにも、やっぱり地元の町内会、自治会、近隣の住民の皆さんのが声はやっぱり、しっかりと聞いていただきたいと。できるだけ、傍聴とか、地域の方々ができるような機会にしていただきたいというふうにも思うので、この会議が傍聴できるようなものになるのかというのを、お伺いしてよろしいですか。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 今回、12月23日に第1回会議を行いますが、これについては報道の方たちについては公開されます。議事録・資料等も全て公開の予定でございます。

ただ会議室の関係上、どうしても一般の方は入れない状況でございますので、情報提供は必ずしっかりとやった上で、全て資料を公開、報道機関も公開という形で考えているところでございますので、よろしくお願いいたします。

- 宇佐美さやか委員 後日になっても、資料等はしっかりと見られるという認識でよろしいですか。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 そのとおりでございます。
- 宇佐美さやか委員 ぜひ、広く見ていただいて、やっぱり、いろいろな御意見はしっかりと取り入れていたいみたいというふうに思います。
- 話が変わるのですけれども、先ほどの委員にもありました、夏場の暑さ対策なのですけれども、以前も私も質問させていただいて、暑熱対策、バス利用者の、徒歩の方も含めて対応していくというふうに、先ほど局長が答弁をされたと思うのですけれども、水やミストなどとか、ハードの面だけではなくて、環境に優しい対策を検討していくというふうにおっしゃっていたのですけれども、前に私も発言させていただいた、照り返しの少ない路面の塗装ですかということをしてほしいというふうに言ったのですが、ほかに何か検討されていることなどはありますか。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 濱谷駅から会場までの区間につきましては、先ほど委員からお話があるようにミストとかはもちろんやつていく形を検討しているところでございますが、あとやっぱり、木の陰とか、そういうことですとか、あと先ほど花上委員からもお話があったのですけれども、休憩所とかを設置する予定でございまして、そこについては、ゆっくり日陰が取れるような形を考えていきたいと思っているところでございます。
- 宇佐美さやか委員 どうしても、何か、会場の中のことばかり考えてしまうのですけれども、しっかり外の対策も検討されているということで、対応をしっかりとやっていただきたいというふうに思います。
- 毎回申していますけれども、やはり今後、建設費、運営費が本当に増額されることがないようにだけはお願いしたいのですけれども、有料入場者数目標は、やはり引き下げ開催をするということで、再検討も本当に何度も言っていますが、改めて申し上げて終わります。
- 久保和弘委員 できるだけ簡潔に伺いたいと思うのですけれども、すみません、まず機運醸成のところで、様々な広報プロモーションというところであって、一つはブルーライン、グリーンラインにおいてフルラッピングトレインを導入したとか、もう一つシティドレッシングということで駅のほうですか、バスですか、電車の中の広告というようなことを、これからやられていくのでしょうか。今やっているのもありますしという中で、たまたま市民の方から、相直線、相鉄の東急線とJRの乗り入れ線があるので、あそこの中でも積極的な広告を打ってみたらどうなのですかという、そういう御意見を一応いただいたものですが、既にそういうのはやっているのでしょうか。それか、今後を検討されているのでしょうかと思いまして、確認させてください。
- 小野GREEN×EXPO推進部担当部長 11月から横浜市営地下鉄でラッピングを始めたところでございますけれども、相鉄の直通線ですとか、ほかの東急さんとか京急さんについても協会と連携をして、今後働きかけをしていきたいという検討をしているところでございます。
- 久保和弘委員 承知しました。ありがとうございます。

相鉄線は特に埼玉方面とか、もちろん東京方面も幅広く結構いろんなところに乗り入れているというのもありますので、一つ有効な手法かなと思いますので、意見として申し上げておきたいと思います。

次に入場券のことが、先ほど来いろんな委員からもお話がありましたけれども、一つだけそこについては、夜間の時間帯のチケットということで、値段の割安感のあるチケットを発売するということが明らかになりましたけれども、逆に言いますと夜間のリピーターを増やすというようなことも考えることも必要かなと思いましたとして、夜間の時間帯での例えば開催の会場の中身、魅力をアップするような仕掛けですか、特別なお

もてなしですか、そういうことも取り組むことによって夜間の時間帯でのリピーターも増える可能性もあるのではないかと思うのですけれども、そういう点は考えていらっしゃるのでしょうか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 委員御指摘のとおり、これは我々も夏場は特に、夜間にお客さんが来るだろうと、そうすると魅力というものは非常に大切だと思っておりまして、ナイトタイムをいかに楽しんでいただけるかというところで、これは本当に今、一生懸命いろんなことを検討しております。

まだ具体的なことまで決まっておりませんが、本当に一つ重要な要素だと捉えて、今検討を進めております。

- 久保和弘委員 提案というとおかしいのですけれども、通期パスというのが、会期中何度もということ2万8000円、その他で値段がありますけれども、例えば夜間だけの通期パスみたいな、そういうのを設定するとか、そういうのはあるのでしょうか。夜間だけに限って、通期パスで何回も出入りできるとか、そういうのもいいかなと思ったのですが。

- 五十嵐担当理事 博覧会協会において、チケットの各券種の設定については、恐らく様々な検討がなされたと思うのですけれども、あまり券種を増やしてしまうと、また買う方が悩まるということもありまして、現在のチケットの券種構成になったというふうに承知をしております。

- 久保和弘委員 そういう、意見と言ったらあれですけれども、私の考えでありますので、一つの意見になりますけれども、お伝えだけはしておきます。

続きまして、輸送アクセスについてでありますけれども、昨日一般質問に立たせていただいて、GREEN×EXPO 2027の輸送アクセスについては、大きな視点での質疑をさせていただいた、いわゆるTDMの導入をしていくという御答弁を山中市長からも頂戴いたしましたけれども、それはそれでしっかりと横浜市が、グリップを利かせていただいて、しっかりと、やはり地域の声、私も瀬谷区の選出でございますので、どうしても交通の渋滞ですか、できるだけ細い道に入つてこないようにお願いしたいというような声は、これは結構いただいておりまして、これまでお伝えをしてきたつもりではありますけれども。

そういうことも含めまして大きな視点から取り組んでいただく必要があるかなというふうに思うのですけれども、その中で一つ駐車場について先ほどお話もありましたけれども、パークアンドライドということも既に取り入れるという話があって、パークアンドライドの駐車場がどこにあるかというのは、まだ明らかになっていないかと思うのですけれども、やはり、横浜市だけの中で、パークアンドライドの駐車場を考えることではなくて、隣接都市、大きな視点で例えば隣接する大和市ですか、あるいは町田市ですかそういうところと、ほかの自治体の協力をいただきながら、大きな目でパークアンドライドの駐車場確保をしていくということも必要かと思うのですけれども、その点はどのような検討がなされているのか、1点だけでも教えていただきたいと思います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 これはもう横浜市内だけでなく、近隣都市を含め、あるいは民間も含めて、いろんな形で調整、検討をしているところでございます。

- 久保和弘委員 具体的な場所というのはまだ公表できない状況なのですね。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 具体的な設置場所ですか設置箇所につきまして、設置個数とかにもつきましては今、協会のほうで検討しているところでございまして、決まり次第、公表していきたいと思っているところでございます。

- 久保和弘委員 様々な配慮も必要だと思いますので、承知いたしました。

次に電車でのアクセスについてでありますけれども、先ほど来、別の委員からも、いわゆる優等列車の停車についてお話をあったかと思いますけれども、これは私が考えているだけでありますけれども、優等列車でも電車を停車させるということでありますけれども、優等列車を、その中でも例えば西の阪神電鉄とか、甲子園輸送で非常に手腕を發揮しているということで、かつて西武鉄道も球団をつくるときに阪神電鉄の乗客のさばきを視察して、それを参考にしたというようなことも聞いておりますけれども、あそこでやっているような、例えばノウハウというかそういう中で、上りと下りの停車駅を変えるという方式、いわゆる千鳥運転というのをやっているのです。

上りと下りの停車駅をあえて変えて、あるいは一定の時間だけ止ると、ここで言うと例えば会場が始まる時間帯、あるいは閉会する時間帯と、いや、そういう時間だけ電車を臨時停車させるということもあるかもしれませんし、もう一つは、そのためだけに臨時特急とか貸切り特急みたいな、そういう貸切りというか、のために、向かうためだけの特急とか、そういう様々な、いわゆる優等列車と言っても様々な手法があると思うのです。

そういう中で、もちろん、鉄道会社を含めての協議になるかと思うのですけれども、そんな手法もあるのではないかと思うのですけれども、現状、先ほどの委員と重なる部分もあるかもしれませんけれども、検討のそういう余地があるのでないかと思うので、御意見を聞かせていただきたいと思います。

- 村上担当理事 今の委員は御指摘、とても大事な要素だと思っております。

例えば、交通の分散化、それからあと実際に通勤客と来場される方の交錯をどうするかという話もございます。具体的には横浜駅での錯綜問題とかもあります。

ですので、電車の車種別だけで解くのか、それともあとは輸送動線の中でさばくのかという話も含めて、今、鉄道各社それから我々のほうも今検討しているところでございますので、またその対策がしっかりと練れた状況が決まりましたら御報告したいと思います。

- 久保和弘委員 あまり細かいことを言うと、また失礼に当たるかもしれませんけれども、例えば以前のときの質疑で、瀬谷においては三ツ境と瀬谷という駅が2つあると。そういう中でどう乗客を振り分けていくかということもこれもまた一つ大事だと思うのです。

そういう中で、電車のアナウンスはこの間やっていただくというようなこともありましたけれども、例えば電車自体が、今回は三ツ境しか止まらないとか、あるいはもう瀬谷しか止めないというような、そういう優等列車のさばき方もあるかなというような個人的な意見でございますけれども、お伝えさせていただきたいと思います。

細かい話になるのですけれども、先ほどのバスのターミナルのことになりますけれども、例えば瀬谷駅においては、先ほど来駅前の歩道の部分もきれいにしていくようなことも伺っておりますけれども、この間、お話しさせていただいたとおり、やはり、そこに、どうしてもターミナルに段差があるという点は、どうしても障害をお持ちの方を含めてやっぱり、E X P Oを機に、どうしてもそこをバリアフリー化にしていただきたいという思いとか、あるいは、ベンチの現状の配置の仕方、これが今、工夫が必要な状況でありますので、先ほどトイレとか、そういうこともありましたけれども、あそこの瀬谷駅のターミナル全体の見直しもやっていただきたいということと、もう一つ、三ツ境についても、これ昨日の質問でもさせていただきました。

具体的にはやっぱり、歩道橋があそこにありますということで、瀬谷警察のほうからも、これは危ないと

いうような声も漏れ聞いておりますけれども、やはり、かつての明石のああいう事故を想起させるようなこともありますので、絶対に安全に皆様に歩行していただきたいという強い思いもありますし、地元の自治会からも非常に様々な意見を正直いただいております。

そういう中で、三ツ境駅も一部改良するというような、昨日御答弁いただきましたけれども、瀬谷駅、三ツ境駅まとめてになりますけれども、具体的にどのようにやっていくかということだけ、もう一度だけ確認させていただきたいと思います。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 瀬谷駅につきましては改札を、階段を降りてから駅前広場に広い空間がございますので、そこに高揚感が味わえるような、かつ、皆さんが来て楽しめるような空間をやっていきたいと思っているところでございます。

具体的には、舗装の打ち替えですかをやっていくのですけれども、先ほど委員からお話のあったベンチですか、そういうことにつきましても、改修のほうを検討しているところでございます。

バリアフリー対策については引き続き皆さんの意見を聞きながらやっていきたいと思っているところでございます。

三ツ境駅につきましても、先ほどバスターミナルの改築というのがございますが、ここからにつきましては自転車のお客様が多く想定される部分がございますので、自転車道の整備ですか、貸出しの自転車置場の設置整備ですか、そういうことも併せて検討していきたいという形で考えているところでございます。

- **久保和弘委員** しっかりと、そこはやっていただきたいことを改めて要望させていただきたいと思います。最後になりますけれども、先ほど別の委員からもございましたけれども、上瀬谷における平和についてでございますけれども、これは平原副市長に伺いたいのですけれども、かつて私ども公明党のほうもいち早く、上瀬谷の平和の理念については提唱させていただいて、例えば私自身も令和5年度の決算特別委員会で桜を通じた、いわゆる平和外交を提案させていただいたこともありますけれども、かつて、先輩の石井睦美さん、亡くなってしまいましたけれども、やはり、上瀬谷については戦前は日本軍の基地だったこと、また戦後は接收されてきたことを含めて、やはり、平和の象徴として扱うべきなのだというそういうことを私も伺ってまいりましたし、先ほどの、すみません予算だったか、高橋正治議員も、具体的に様々な提言をなさってきたと思うのですけれども、先日の500日前のセレモニーで、市長の口からも、やはり平和ということが出て、非常にうれしく思っているところでありますけれども、そういう経緯も含めまして、平原副長、やはり、しっかりとこれはやっていくべきだと思いますけれども、お考えを伺いたいと思います。

- **平原副市長** 先ほども御指摘がありましたけれども、日本軍、それからその後は米軍に70年以上接収されていたということで、権利者の方々も自由に土地が使えないというふうな、暗い時代と言いますか、そういう時代を経験した場所でございますので、ぜひGREEN×EXPO 2027で平和ということは訴えていきたいと思いますし、その後のまちづくりの中でもその歴史、地元の人たちの思いを伝えながら、平和ということのアピールをぜひしていきたいと思います。

具体的な方法については、様々検討させていただきたいと思います。

- **久保和弘委員** EXPOを通じながら、またその後のまちづくりにも生かしていただきたいと思いまして、よろしくお願ひいたします。

- **長谷川えつこ委員** 広報プロモーションの取組ということでラッピングトレインでしたりとか、各駅にいろいろ広告等が今たくさん並べられておりまして、市内を歩いていますと、やはり、機運上昇のためのプロ

モーションが各地で行われているなというふうに感じてはいるのですけれども、ただ残念なことに、こういったプロモーションに関しては横浜市民であったりとか、横浜市を利用する人に関してはしっかりと目に届くとは思うのですけれども、やはり、先ほどもおっしゃっていたように、60か国の国が参加するということで、もっと世界にPRを広げていただけるような取組を行ってほしいなというふうに思っているのです。

今やっているプロモーションの取組の中で私が少し抜けているなという思う部分は、やはり、沿岸部、海に関する部分をもっと深くPRしていただきたいなと思っております。これを世界に発信していくためには、やはり、映える構図というのが大事かなというふうに思っているのです。ですので、今はSNSが発展しておりまして二次的に写真を撮った方が、世界中にそういった方が自動的にプロモーションしてくれる、そういういい取組というか、仕組みがございますので、ぜひ沿岸部にもっとPRをしてほしいなと思っております。

例えば山下公園であったりとか、象の鼻＝パーク＝にトゥンクトゥンクの大きな風船みたいなものを飾る。そういったときに、写真を撮った方がトゥンクトゥンクと山下公園の海と、そして遠方のほうに、みなとみらいの高層のビルが見える、そういうものが世界に写真が広がることによって、機運醸成につながるのではないかというふうに思っております。

あとは消防局が保有している沿岸船、船なんかにも、こういったラッピングバス同様にトゥンクトゥンクの描いてある、そういうものを走らせてことで、やはり、観光客、そして横浜市民の方がそういうものを写真に撮ることによって、世界に発信するそういう取組になるのではないかというふうに思っております今後のプロモーションの中でぜひ海という視点を、もっと視野に入れてしていくほしいなというところが1点と、同時に今行っていますヨルノヨ、今度また春に始まりますガーデンネックレス横浜、そういうところもぜひ横浜のEXPOの機運醸成につながるような、そんなプロモーションをしていっていただければ、世界中に横浜という町と同時にGREEN×EXPO 2027が広報として自然発生的に広がっていくではないかなというふうに思っておりますが、沿岸部に対しての広報をもっと強化するべきと考えているということとの1点と、あとは今行っていますヨルノヨ、また来年も行われると思います、そして春に行われますガーデンネックレス横浜、こちらのほうも広報啓発についてどういうふうに考えられているのかについてお聞かせをいただければと思っております。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 まずは、海の視点ということでございまして我々は確かにこれまで内陸の視点で各所に展開してきました。これからはやはり、多くの方々が観光でも訪れるMM21地区をはじめ、沿岸部、水際線をうまく利用してもっとPRをしていけたらいいなと思いますので、これは引き続き検討、そして実施をしていきたいと思います。

またヨルノヨですかガーデンネックレス横浜とか、そういういわゆるイベントとのコラボは既に始めていますいるのですけれども、まだまだ局所的であったり、小さい取組だと思いますので、今後はもういよいよ開幕が近づいてくるということもありますので、もう少し露出を高めてやっていきたいと考えております。

- 長谷川えつこ委員 構図であったりとか映えるとか、そういう視点からも、もっともっとトゥンクトゥンクを、いろんな場所に置いて、自然発生的に広がるような取組を行っていただきたいなというふうに思っております。

コロナ禍の中でも横浜市のゴミ収集車には、いろいろ広報啓発のほうに取り組んでいただきましたが、近づいてきたということもありまして、やはりゴミ収集車にも、横浜市で行われるGREEN×EXPO 2027について

の広報も周知していただけるような協力ををしていただければなと思っております。

では続きましてですけれども、また広報プロモーションの取組の中で、中学校給食における特別給食、こういったものが、この間、500日前に行われたということですけれども、取組を行っていただいた中で、お子様たちの声というのを吸い上げていらっしゃるのでしょうか。

- 小野GREEN×EXPO推進部担当部長 中学給食を召し上がっていただいたお子様からは、もちろんゼリーがおいしかったこともありますけれども、食品ロスのことも知ることができたとか、地産地消についても学ぶことができたという御意見をいただいております。

- 長谷川えつこ委員 すごくすばらしい取組だと思っておりますので、ぜひ、500日前と限らず、今後も展開していっていただければというふうに思っております。

続きましてボランティアの募集に関する事項ですけれども、その中で=11月17日=から花・緑ガイドボランティアの募集を開始されたということですけれども、募集に関してはどういった方々に向けて募集を行ったのか、そして今の募集の集客情報についても教えてください。

- 小野GREEN×EXPO推進部担当部長 現在募集をしているボランティアにつきましては、全国の方を対象にしておりまして、協会のほうで全国的な募集を行ったものと、横浜市内では広報よこはまですとか、あとは横浜市独自のチラシを作りまして、各地域の方、公園愛護会の代表の方などに郵送して募集をしているところでございます。

2点目の応募状況につきましては、今まで協会のほうで作業しておりますので、問合せなどはかなり多いということで、反響は多いというふうに聞いておりますが、数についてはまだこちらで把握はしておりません。

- 長谷川えつこ委員 たくさんの方に来ていただくということと同時に携わっていただくことも重要な視点かと思っておりますので、ぜひ、たくさんの方にこの万博に携わっていただければと思っております。そして今度、交通の需要マネジメントのほうについてもお伺いしたいと思っております。先ほどより輸送計画等たくさんの議論がなされておりましたけれども、そんな中でこの輸送の車、そしてアクセスについて懸念していることがございます。

幾らこういった交通のリスクのほうの分散をしたとしても、やはり、突発的な交通事故であったりとか、あと予測不可能な、予測可能になるのかな、路上駐車等で、混雑することが考えられます。そして路上駐車に関しては、会場に向けて送迎だけを行うという車もあるのではないかなどというふうに感じております。

一番混むであろう会場の出入口近くで、送り迎えのための車が止まったりとかすることによって引き起こされる渋滞というのが発生するのではないかなどというふうに感じています。

そんな中ですけれども、私ごとですが、この間、子供をディズニーランドまで送ったという経緯がありまして、ディズニーランドの広い敷地内と、そして駐車場に関しては高い料金が発生するので、どこで子供と待ち合わせしたらいいかが分からなかつたのですけれども、事前に調べたところによりますと、送迎であれば金額を払わなくても駐車場内に入れるという取組があるということを知ったのです。

ですので、ぜひ事前に送迎される方は、どこに送迎できる場所があるかということをしっかりと周知させていくことと同時に、車止めの部分に関してはユニバーサルデザインで、どんな方でも乗り降りやすい、そういう場所の確保をしっかりととしていっていただければ、混雑のほうにも少し緩和につながるのではないかなどというふうに感じております。その点に関しては、いかがお考えでしょうか。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 何点か質問があつたかと思って、一つ一つここでお答えしたいと思っております。

まず駐車対策につきましては、今、もう環状4号線とかも既に駐車しているトラック等もございますので、それにつきましては事前に駐車禁止ですよとか、そういう取組を行うとともに神奈川県警さんとも連携して、駐車対策のことをしっかりとやつていきたいと思っているところでございます。

また送迎につきましても、どういうふうに送迎ができるのかどうかにつきましては、協会とやり方を含めて検討していきたいと思っているところでございます。

大阪のほうに多い事例で、何かあつたときにどういう対応をしたかということにつきましては、大阪と立地条件が違つてくるのですが、どこの道路が通行止めになつた、事故があつたとか、そういうときにつきましてはリアルに情報をつかんだ上で、すぐに緊急対策本部みたいな感じで会議を行つて、このとおりを迂回するとか、シャトルバスはこのルートにするとか、そういうことも協会とともに取り組んでいきたいと思っているところでございます。

ユニバーサルデザインにつきましても、引き続き協会と、どのような形が案内しやすいのかですか、どのルートが歩きやすいのですとか、そういうことを含めて、しっかりと取り組んでいきたいと思っているところでございます。

- 長谷川えつこ委員 そして今回、環境に配慮した万博ということではありますので、駐車場においてもEVの充電器、そういったものの設置のほうは考えていらっしゃるのかどうかについてもお聞かせいただければと思います。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 まずシャトルバスにつきましては、可能な限りEVバスを使つていきたいということがございますので、シャトルバスにつきましては会場内にEV充電器を置いて、しっかりと充電できるような形を考えているところでございます。

そのほかの一般車のEVにつきましては、今、そこについては協会のほうで具体的に検討しているところでございますので、決まった段階で、またお知らせしていきたいと思っているところでございます。

- 長谷川えつこ委員 環境に配慮したイベントということで、たくさん来られる車も環境に配慮した、そういった車両を多く利用していただければと思っておりますので、ぜひ、EVの急速充電器の設置、一般車両向けのほうもしていただければと思っております。

以上です。

- 大桑正貴委員長 では、まだ質疑の途中ですが、開始から2時間以上経過をしておりますので、この際、休息のため休憩といたします。

休憩時刻 午後0時08分

(当局交代)



再開時刻 午後1時10分

- 大桑正貴委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。



- 大桑正貴委員長 質問を続行いたします。

- 市来栄美子委員 早口になっていました、まず前回の常任委員会のときに脱炭素の市内の周知は100%を

目指されるということをおっしゃっていたのですけれども、12月になりましたので、データ的には、アンケートで横浜市内の周知がどれぐらい進んでいるかの、何か指標があれば教えてください。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 今ちょうど集計をしているところでございまして、今日はまだ、すみません数字は言えないのですが、本当に今集計をしています。ちょうどアンケートをしたところです。

それなので年内には取りまとめて、ある程度速報値は把握できますので、もうしばらくお待ちいただければと思います。

- 市来栄美子委員 他の議員からもありましたように、きっと横浜市内での周知はかなり進んでいて100に近くなっているのではないかというふうな期待をしております。

そこで機運醸成のところについて、各論になってしまいすのすけれども、少し質問をさせていただきます。

まず8ページ目です。プロモーションの取組というところで、ナンバープレートを使っての周知もあるかと思うのですけれども、一番目の上のやつは公用車のみの取付けになって、一般車に向けての販売等をされる御予定はございますでしょうか。

- 小野GREEN×EXPO推進部担当部長 特別なナンバープレートにつきましては、公用車だけでなく一般の方も取り付けられるようになっております。

- 市来栄美子委員 ありがとうございます、うれしいです。

実は先日、2、3日前のニュースの中で鎌倉のナンバープレートがあまりにも人気すぎて、販売停止になったというニュースがございましたけれども、アニメで使われる鎌倉のバックというところで、横浜もぜひ今回の取組に関しては、横浜らしい取組ということで、横浜を、市が100%に近づいていると思うので、市外に対してアピールしていく絶好のチャンスかなと思っておりますと、こちらの絵柄もかわいいのですけれども、横浜らしい例えばインターモンチとか山下公園とか横浜らしい都市、緑、港、歴史のようなところ、そういういろんなナンバープレートも御用意されてもよろしいのではないかと思うのですが、御検討いただけますでしょうか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 その点につきましては、ナンバープレートで我々としてはもう清掃車でいろんな形でPRしたいのですが、やはり、いわゆる視認性といいますか、違う側面での審査がかなり厳しいと伺っておりますし、そういうことから、まだちょっと、そういう実現には至っていなくて今こういうふうになっていますので、そういうことが可能であれば検討したいと思いますが、現時点ではこういう形で許可されているということで御理解いただければと思います。

- 市来栄美子委員 もう一点、次のページ先ほど他議員からも、よこはまReゼリーノのプロモーション、中学校給食についてございましたけれども、企業様との連携をされているというところで、先ほど崎陽軒でしたかとトウンクトウンクとの企画があるということで伺っているのですが、企業向けはもうされているということなのですけれども、自治会町内会で、前回夏祭りで回ったときに自治会町内会の皆様からお声があつたと、トウンクトウンクを広めたいけれども、商標権等の問題によって広げられないというところで、皆さんで機運を盛り上げていくことがこれから非常に大事になっていくかなというところで、こちらのほうも御検討、何か自治会町内会等でも、トウンクトウンクを何か宣伝できるような、トウンクトウンクでなくても違うものを宣伝できるようなものを協会等とお話し合いしていただけますでしょうか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 トウンクトウンクの活用につきましては、やはり、フリーではなくて若干そういう、いわゆる営業用に使っているところもありますので、規制があるのは仕方ないと思います。

しかしながら今、委員がおっしゃったように、我々このトゥンクトゥンクでGREEN×EXPO 2027の魅力を発信し、そして何せトゥンクトゥンクを通して魅力のあるものにしていこうという動きですので、できる限り使えるように、それは我々横浜市として協会といろんな調整を今もしていますし、していきますので、ぜひそういうお声があれば、一度我々GREEN×EXPO推進局のほうに、とにかく状況を御相談いただければ我々のほうがその間に入って調整をしたいと思います。

- 市来栄美子委員 地元の声ですので、皆さん喜ぶと思います。ぜひ御検討ください。  
次に入場券の価格等に関してなのですから、こちらの質問なのですが、ペットを連れていってもいいような区画とか、いいようなお値段とか、そういうものは考えていらっしゃったりされますでしょうか。
- 五十嵐担当理事 現時点では大阪・関西万博も左様でございましたけれども、ペットについては、いわゆる放し飼いだと、いろんな問題があって、あるいは検疫上の問題もございまして、現在のところ博覧会の中でフリーに受け入れるというような状況ではございません。
- 市来栄美子委員 昨日の一般質問でも市長が猫さんを飼ってらっしゃるということ返答ありましたけれども、今の都筑区、我が区にしてみれば3分の1は犬だけでも飼っている状況でございまして、例えば町田のグランベリーパークとかアウトレットがございますけれども、そこがワンちゃんを連れて行っていい区間なのです。そうすると、町田だけではなくて、いろんな県のナンバーのプレートがそこにお買物をしに来ていると、結局ワンちゃんを連れててもアウトレットでブランド品を買えるというところで、もちろん規定はあります、ちゃんとカードに入れていることとか、バックにしまっていることとかいうのはありますけれども、ぜひ、ペットをかわいがっている人口が圧倒的に多いことを思いますと、昨日の一般質問でも出ましたし、ぜひ、大阪・関西万博にはなかったと思うのですけれども、横浜市では何かサーキュラーエコノミーになるような区画を、一つでも、少しでもいいので御企画していただけると、ペットを飼っている方にもオープンになるのではないかなど思いますので、ぜひ御検討いただきたいかなと思っていますが、その辺いかがでしょうか。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 ペットのことにつきましては、私なりに思うところは、トレードオフと言いますか、いわゆる魅力の向上という意味では、当然来ていただきたい、ペットを連れてきている、一方で安全性ですとか、いろんなことだと規制の問題とこれのバランスをどう取れるかというところで、最終的には決まっていくと思いますので、様々な角度からの、やっぱり検討が必要だと思いますので、これは博覧会協会とこれから詰めていくところだと思いますが、横浜市もしっかりウォッチをしながら、どういう実現が可能なのか検討していきたいと思います。
- 市来栄美子委員 ぜひ御検討ください。  
3番目に、交通の円滑の件なのですけれども、TDMです。大阪の万博のほうに視察で連れて行っていたときも、ありがとうございました。  
そのときに協会の方から伺ったことで、計画をしていても不測の事態は非常に起こるというところで、非常にそうだろうな、現場間はそうなのだろうなということを思わせていただきました。この会議の推奨のメンバー、参加機関を見ると、市も県も協会のほうもというところで、いろんなステークホルダーがいる中で、何かことが起きたときに、どこが判断をされていくのかというののエスカレーションのフォーマットと言いますか、マニュアルみたいなものはあるのでしょうか。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 今回、TDM会議につきましては、まず交通円滑化対策ということで、

そういう形を会議の中で取り扱っていく形になるかと思います。

実際に何かあったときの、例えば電車が止まってしまったとか、道路が止まってしまったときの対応につきましては、輸送の対策本部が本部で出来上がりまして、協会が主体となってやっていく形で本部が出来上がります。有事のときには、そういうところが対応していく形になるかと思います。

- 市来栄美子委員 きっとその協会のほうで、主導権を握るということで理解させていただきました。

ただ実際に、埋設物が見つかったりですとか、予期しない事態が起きたときに、また今回の減災対策特別委員会のほうでも、有識者の方からレクチャーを受けまして、横浜市は、ほかの都市を応援する体制は整っているけれども、いざ自分たちが被災したときの体制が整っていないようなお声もありましたので、ぜひ受援のシステムなども想定外のことは避けなくなるのが結構団体ですので、この辺もぜひ御検討いただいて、用意をしていただけたらと思います。

- 大山しょうじ副委員長 いろんな質疑を通じまして1年3か月ですか、もう迫ってきていろいろもう御準備が進んでいるなというふうに感じましたが、まだ、いろいろこれはどうなのかなみたいなところは少しづつ、またいろいろ皆さんも協会も含めて穴を埋めて、進めていっていただきたいと思いますし、また何か私のほうからも、いろいろ御質問が出たのですが関連するところも含めて、この資料に沿って聞かせていただきたいと思います。

まず3ページの大坂・関西万博との連携による機運醸成のところですが、先ほど平原副市長からも勢いを持っていきたいでしたか、この辺りを引き継いで、いいところを含めてしっかりと連携をまた取れるところは取ってほしいと思っているのですけれども、まず、ちょうど写真が使われていて目立ったので、この横山大阪市長とのフラワーリースでの山中市長へのバトンタッチというところですけれども、これは象徴的な、オリンピックで言うとトーチを最後、聖火ですか、あれをやるような話かなと思って、今このフラワーリースはどうなっているかと聞いたら、これは造花ではなくて、生の花だったということで、もう今はないということでしたので、あれなのですけれども、例えば今、連携とか機運醸成の中で、大阪のいろんな有形無形のもの、ノウハウも含めてとか、そういったものでどうやっていくかということで、例えば、先ほども似たような話がありましたが、権利の関係とかいろいろあると思うのですが、何かミヤクミヤクのフィギュアみたいな、どこかに一緒に並べるとか、それは協会のほうでもいいのですけれども、何かそういったような分かりやすい、こうした連携というか盛り上げというのは考えていないのでしょうか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 ちょうど大阪・関西万博の閉幕で、こういう形で両市長によるバトンタッチが行われ、我々事務方も、私は大阪市の万博推進局の局長さんともいろいろとお話をさせていただいている。それはやはり、我々も大阪市が経験したノウハウあるいは課題、これをしっかりと把握してそれを参考にしながら組み立てていきたいということで様々なお話をさせていただいている。

そういった中で、有形無形いろいろあるのですが、無形のところからいきますと、今のようにいろんなリピーターをどうやって増やしたのかとか、あるいはやはり有事といいますか、帰宅困難者が出ていたり、そういったときにどうだったのかとか、暑熱対策はどうなの、様々なことを今、情報収集し、我々のほうでは今整理をしているところです。

そういったことは生かしていきたいと思いますし、あとういった有形のものでいきますと、ミヤクミヤクとトウンクトウンクのコラボというのは我々横浜市だけではなく、国や博覧会協会もまだミヤクミヤクの人気というものにあやかってコラボして商品にもなっていますけれども、そういう取組もしています。

さらには、今大阪のほうの博覧会協会のホームページというのがまだ公式記録が見ますと、秋ぐらいということで、まだまだあるのですけれども、そこを開けていただくと、なんとその最初の画面に次の万博は横浜と、まだ出していただいている。

そういう形でしっかりといろんな形で我々のGREEN×EXPO 2027もPRしていただくような話もしておりますので、いろんな形で連携し、協力をしていただくということを続けていきたいと思います。

- 大山しょうじ副委員長 ちょうど大阪も終わって2か月ぐらいですか。これからも、そうした連携のいろんなチャンネルというのは持っているという理解でよろしいでしょうか。

あるいは定期的に皆さんからアプローチして聞くだとか、あるいは何かあったときにはちょっと、もう本当に気楽に相談できるとかそういう体制にはなっているのでしょうか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 今申し上げましたように、まず局長同士ではつながっておりますし、あと先ほど申し上げませんでしたが大坂のリングの部材を再利用するということについても、大坂市担当も話をさせていただいたり、いろんな形で事務の方としては、事務方でいわゆるカウンターパートか、それぞれの部署にあってうちの職員も日々連携を取っています。そういう状況でございます。

- 大山しょうじ副委員長 では、引き続きお願ひいたします。

それで大阪の万博ロスみたいな、あとはミャクミャクロスみたいなところも関わるのですが、大阪・関西万博のときに先ほど横浜でも同じことになるのでしょうかけれども、地元またその周辺です。関西圏からほぼ7割ぐらいというところで、やっぱり、万博、横浜でやるならという、潜在顧客みたいなところがありますよね。ちょっと、離れてはいますけれども、何かそうしたところのアプローチはいろんなデステイネーションキャンペーンだとかを含めて、いろいろ今後も考えているとは思うのですが、今地元のいろんな機運醸成の話も聞いたのですけれども、これからまだ考えている段階かもしれませんけれども、そうした潜在的な万博ファンみたいなところ、特に、遠い関西圏の人を呼び込むような、そうした何か取組とか考え方というの何かありますか。

- 五十嵐担当理事 委員の御指摘のように広域から万博ファン、マニアというものも含めて様々な方々にお集まりいただくことは大変重要だと思っております。

博覧会協会としては、SNSの発信などもありますけれども、既にそういう方々のコミュニティーのようなものがネット上にあつたりしますので、そういうことも意識しながらしっかりした情報発信をなるべく早め早めに御提供していくことで、取組の機運醸成を進めたいというふうに考えているというふうに承知しております。

- 大山しょうじ副委員長 そうしたアンテナも張っていただいているということで、ありがとうございます。引き続きお願ひいたします。

それから次に8ページ、先ほどお話がありましたナンバープレートの件なのですが、今全体の申込みが1万4411で特別仕様のほうです。市内ではどれぐらいだと、そうしたのは分かりますか。

- 小野GREEN×EXPO推進部担当部長 資料は10月末の数字を載せておりますが、最新の11月末ですと合計で1万9000枚ほど発行しております、そのうち横浜のナンバーにつきましては2600枚ほど発行している状況でございます。

- 大山しょうじ副委員長 これはつける方の意向もあると思うのですが、1万9000枚らかと今のうちの2000枚らかというのは、そこはどういうふうに捉えておられますか。

- 小野GREEN×EXPO推進部担当部長 割合としましては、2万分の2万8分の1程度でございますので、人口割りからしても大分横浜の割合が多いのかなというふうに感じているところでございます。
- 大山しょうじ副委員長 受け止めでありますし、またこれも広報していくと思いますのでお願いいたします。
- それから、一番下に原動機付自転車の特別仕様のナンバープレート、これは区で手続かと思うのですが、これについては特別にやはり、自分のところの管轄をすると言ったら変だけれども、市の内部のお話なので、このアピールについて特別、何か区のほうでだとか、あるいは局のほうでとか、何かしら促していくような、まだ、これからだと思うのですけれども、そうか、交付機関がまだこれからですものね、だから、これから、どういうふうに広げていくように考えておられるかなみたいな。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 こちらにつきましては、こういうことが始まっているというのは広く区も含め、周知はしたところなのですが、まさしくこれからというところでは、やはり、各区も含めて、いろんなところでこういうことをPRし、つけてもらえるように進めていきたいと思います。
- 大山しょうじ副委員長 それから次が、先ほど9ページの中学校給食における特別給食で市内中学生にGREEN×EXPO 2027のわくわく感を体験ということで、わくわく感を体験してもらっただけでなくて、先ほど、学校招待みたいな話もちらっと出ましたけれども、恐らく花博を一生のうち1回経験するか、それがちょうど多感な子供の頃にということなので、オリンピックですか、大阪でも小学生とか、それぞれ市町村、府とかいろいろな招待をやったと思うのですが、まだ予算のこともあるって言えないところがあったのが、先ほどの答弁かなと思うのですけれども、その辺りをもう少し具体的に、先ほどこちらの学校団体割引があったので、これで行ってくださいというふうに最初はあったのかなと思ったら、先ほど招待の話もあったので、その辺りの整理も含めて、もう少し今後、学校招待の話みたいな、子供たちの招待みたいな話なんかは言えるところがあったらお願いします。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 これはまだ事務方で本当に検討をしているところでございますが、骨格といたしましては、チケットを普通に買って来てくださいということではなくて、横浜市内のお子様であれば、横浜市としてその招待枠をしっかりと設けて、あと、かなりの数の児童の方がいらっしゃいますので、どういうふうに分散して来ていただくかとか、いろんな制度設計をこれからしなきやいけませんが、そういうのも含めてしっかりやっぱり、多くの児童の方に一度は来ていただける機会を設けたいと考えています。
- 大山しょうじ副委員長 ぜひそうしたプログラムで機会を作っていただければと思っておりますので、お願いいたします。
- それで次のページの10ページで、ボランティア募集のところですが、すみません、1、左側のEXPO全体の赤いほうと2の横浜市出展エリアは、募集するのが協会と横浜市という理解でいいのでしょうか。それか、両方協会なのでしょうか。
- 小野GREEN×EXPO推進部担当部長 大山委員におっしゃっていただいたとおり、ピンクの左側のほうは協会が募集しまして、右側、緑のほうは市で募集するものでございます。
- 大山しょうじ副委員長 それから今、募集を開始している花・緑ガイドボランティアのいろんな募集要項を私も見たのですが、私も何か興味ある人、2、3人からかな、ボランティアをやりたいという人がいて、なので、私も読んだのですけれども、それで、とはいえ、いろいろ活動費の話については、今出している募集については、活動費が1回1000円ということで、もうそれで全部込みみたいな話だったと思うのですが、

その他の、8年1月頃の植物管理とか運営ボランティアだとか、あとは後々やる横浜市出展エリアのほうのボランティアさん、その辺りのボランティアさんの活動費用みたいな話は、まだ決まっていないのかもしれませんが、同じような感じと思っておいていいのでしょうか、聞かれたりしましたもので。

- 小野GREEN×EXPO推進部担当部長 協会で募集するものについては1000円で統一する方向というふうに検討されているという状況でございます。

横浜市のものにつきましては、まだ検討中でございますので、まだ、お伝えできることはございません。

- 大山しょうじ副委員長 それで1月頃、募集開始の運営ボランティアの1万人に入るのかもしれませんし、恐らく皆さん計画されているのか、大阪・関西のときにターミナルの駅とか大阪駅とか、新大阪ですかとか、伊丹の空港もいらっしゃったかな、もう改札を出るなりとか、もう、いらっしゃって、すごい盛り上げていくというか、気分を高めてくれるように私も感じたのです。

そのような会場内外の外のほうですけれども、その辺の外でのボランティアというのは、そのようなイメージでいいのか、あるいはプラスアルファ横浜では、もう、こういうことも考えているとかあつたらお聞かせください。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 まずはこのボランティアの皆様方に御協力いただくというのが一つです。

それ以外に、やはり、これは博覧会協会のほうになりますけれども、各駅での案内とか、そういうたものはまた事業として、委託事業等で人を配置してしっかりと対応していくとか、いろんな形を組み合わせて対応していくことになると思います。

- 大山しょうじ副委員長 人数のあれもあるかもしれません、そうしたところの取組をぜひお願いしたいなというふうに思っております。

それから、あと2つの項目ですが、運営費の資料の中で、協会の運営費見直しの素案の中で、先ほどもあったのは駅シャトルバスの貸切り運行の話で、鉄道の運転見合せ時に帰宅困難者が発生したときとか、交通障害発生時というと、何かしら臨時に対応できるというふうに理解しているのですが、大阪に行きました際に三宮駅で時刻表が組んであってバートと人も並んで乗り込むのですがバス1台はやっぱり50人ぐらいしか乗れないで、当初はすごい何百人も並んでいて、ピストンでどこからかバスが来て、順番にさばいでいったイメージがあったのですけれども、そうした運用というか、恐らく開けてみないと、いろいろ交通の関係とか人の流れって分からないところが多いのであります、今回の貸切り運行の委託でこうしてやるということは、今言ったような具体的には対応とか、ほかを含めて、あらゆるところに結構配置というか予備の人も含めてあって、対応してくれるというイメージでいいでしょうか。ぜひ、そういうところまでやってほしいなとは思うのです。できるのであれば。

- 五十嵐担当理事 博覧会においてはシャトルバスの運行というのは非常に重要なテーマでございますので、委員御指摘のように柔軟でかつ円滑な確保が重要だと思っているので、三宮の例は恐らく自主運行という形で、バス会社さんが調達をして運行していて、柔軟な運用として新しいバスを入れたのだと思うのですけれども、今回、我々は貸切りということで、協会自らの意思で、どこから何台ということをやれるので大阪・関西万博と比べれば、確かに協会側がグリップしやすいという構造になります。これが一つ、先ほどバスや運転士さんの調達にも効果的だと思っております。

一方で、同時に直行バスですか、今委員の御指摘のようなバスについては自主運行の方々と運行本部、

これから立ち上げるところがしっかりとグリップしながら、うまく調整するということが重要でございまして、そういうことを市もサポートしながら協会でしっかり検討するものだというふうに理解しております。

- 大山しょうじ副委員長 もろもろ検討していただいているようなので、ぜひ引き続きお願ひいたします。

最後にTDMの話はもういろいろ出たので、私は前もこの委員会で聞いたのですが、徒歩の関係でお聞きしたいのですが徒歩、歩き。まず会場内に大阪・関西万博のときのロッカーがあるけれども、あれでしたか、大きいものは何かむちやくちや高いのか、預けられないのか。外に小さいかばんが入るようなロッカーは結構あったのですけれども、遠くから宿泊を伴って来られる方は、朝一番に飛行機、新幹線に乗ってやってきていただいて、会場まで来て、さて荷物はということがやっぱり、大きな課題になるので、その辺り会場の内外のコインロッカーですとか預け入れ所みたいなところの今の検討状況を聞きたいのですが。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 手荷物の預かりにつきましては、委員御指摘どおり大変重要なことでございます。

シャトルに乗るときにも大きな手荷物があるとそれが障害になってしまうことがございますので、今、本当にシャトル4駅で必要性ですかと/orアスターミナル駅、横浜駅ですかと新横浜駅、羽田駅とか、その在り方について、協会とともに連携して取り組んでいるところでございます。

- 大山しょうじ副委員長 課題感としてずっと持っておりますので、またちょこちょこ確認させていただければと思います。検討していただいているようで、引き続きよろしくお願ひいたします。

- 大桑正貴委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうかよろしいでしょうか。  
(「なし」と呼ぶ者あり)

- 大桑正貴委員長 であれば先ほど市来委員から機運醸成についての質問があったと思うのですけれども、もう直前までできているということなので、できていれば、参考資料として出来上がったときに各委員にすぐに配っていただくように、お願いします。それだけです。

以上で他に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。



#### ◎ 横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例に基づく令和6年度の実施状況について

- 大桑正貴委員長 次に横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例に基づく令和6年度の実施状況についてを議題に供します。

当局の報告を求めます。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例に基づく令和6年度の実施状況について御説明をいたします。

資料2を御覧ください。

1ページにお進みください。令和6年度、横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例に基づく実施状況報告書につきましては、一般議案の発送時に皆様方に配付させていただきましたが、本日はその概要として、目次にある3つの項目を御説明いたします。

2ページにお進みください。初めに、横浜市の目標と進捗状況についてでございます。

3ページにお進みください。市域の温室効果ガス排出量についてでございます。2023年度の温室効果ガス排出量は1615万トンでございまして前年度比は4%の減少、2013年度比では25%の減少となり、2013年度以

降最少となりました。

4ページにお進みください。本市の温室効果ガス排出量のうち、CO<sub>2</sub>が全体の98%を占めております。CO<sub>2</sub>排出割合は全国と比べ、家庭部門とエネルギー転換部門で大きくなっています。

5ページにお進みください。市域のエネルギー消費量についてでございます。

2023年度のエネルギー消費量は196ペタジュールでございまして前年度比は5.2%の減少となっています。

2013年度比では23%減少となり、2013年度以降、こちらも最少となりました。

6ページにお進みください。再生可能エネルギー導入状況でございます。

2023年度までの市域の再生可能エネルギー設備導入量の合計は34万キロワットでございまして、前年度比は約2万キロワットの増加、2013年度比では約15万キロワットの増加となりました。

7ページにお進みください。次に2024年度の施策の実施状況について御説明いたします。

8ページにお進みください。基本方針1、環境と経済の好循環の創出でございます。

主な指標であります臨海部におけるCO<sub>2</sub>排出量の2023年度実績値は、620.8万トンでございました。また脱炭素化への取組を実施した事業者の割合の2024年度実績値は66%でございました。

主な取組でございますが、焼却工場等の排ガスから製造されました都市ガスの環境価値を、右下の写真にありますよう、山下公園通りのガス灯に活用するなどといった取組を実施しました。

次に9ページにお進みください。基本方針に、脱炭素化と一体となったまちづくりの推進でございます。

主な指標である脱炭素先行地域での電力消費に伴うCO<sub>2</sub>の排出量の2024年度実績値は、10.5万トンでございました。

主な取組ですが、みなとみらい21地区において日本最大規模のカーボン・オフセットによる熱エネルギーの脱炭素化を実施いたしました。

10ページにお進みください。基本方針3、徹底した省エネの推進・再エネの普及・拡大でございます。

主な指標であります新築住宅における省エネ性能の高い住宅の普及戸数の2024年度実績値は、10万3010戸でした。

主な取組ですが、子育て世帯を対象とした最高レベルの断熱性能を備えた省エネ住宅への住み替え等の補助などを実施しました。

11ページにお進みください。

主な指標であります徹底した省エネの推進・再エネの普及・拡大、引き続きましてでございますが、主な指標である次世代自動車及びハイブリッド自動車の普及割合の2024年度実績値は27%でした。

また、本市が実施する取組による再エネへ切替え者数の2024年度実績値は1436件でございました。

主な取組ですが、EV用急速充電器の公道設置やコンビニエンスストアに設置する急速充電器への補助などを実施いたしました。

12ページにお進みください。基本方針4、市民・事業者の行動変容の促進でございます。

主な指標でございます脱炭素に向けて行動する市民の割合でございますが、2024年度実績値は61.4%でございました。主な取組ですが市民の脱炭素行動のきっかけづくりとして、不要な衣料品の回収に関する実証実験などを実施いたしました。

13ページにお進みください。基本方針5、世界共通の課題である脱炭素化への貢献でございます。

主な指標である国際会議などの参加回数の2024年度実績値は、1年間で16回でございました。

引き引き続きまして、主な取組でございます。主な取組でございますが、ローマ教皇庁主催の気候変動に関する国際会議やCOP29へ参加し、本市の脱炭素施策の発信などを実施いたしました。

14ページにお進みください。基本方針6、市役所の率先行動でございます。

主な指標である市役所における温室効果ガス排出量2023年度の実績値は79.1万トンになりました。また市役所におけるエネルギー消費量の2024年度実績値は9360テラジュールとなりました。

15ページにお進みください。

引き続きまして主な指標でございます。公共施設のLED等、高効率照明の割合の2024年度の実績値は55%、公共施設の太陽光発電設備の導入割合は49%、一般公用車における次世代自動車等の導入割合は46%でございました。

16ページにお進みください。基本方針7、気候変動の影響への適応でございます。主な指標である大雨に対する流域の安全度の向上、河川護岸整備率でございますが、2024年度の実績値は91%でございました。

主な取組でございますが、時間雨量50ミリ対応の約50ミリ対応の河川護岸改修による治水対策や、雨水幹線雨水調整池等の施設整備による浸水対策の推進などを実施いたしました。

17ページにお進みください。最後に3、まとめでございます。

18ページにお進みください。2023年度まで544万トンの温室効果ガスを削減しております。50%削減の目標達成のためには2030年度まで残り7年間で536万トンの削減が必要でございます。

19ページにお進みください。市民・事業者の行動変容、脱炭素イノベーション、市役所の率先行動の取組に加え、循環型社会に向けた取組を強化し、脱炭素社会の実現を目指してまいります。

説明は以上です。どうぞよろしくお願ひいたします。

- 大桑正貴委員長 報告が終わりましたので質疑に入ります。
- 宇佐美さやか委員 2023年というとコロナ禍のピークから回復しつつあった頃かなというふうに認識しているのですけれども、市民の行動も変化てきて、やっぱり、外に出るようになってきた中で、22年と比べて4%減少した理由というのは、どういうふうに認識しておられるでしょうか。
- 門林脱炭素社会移行推進部担当部長 委員がおっしゃるように2020年のコロナがあって、2023ぐらいに5類に移行して経済活動も再開してきたという時期にあるのですけれども、やはり、省エネですか再エネにかかる取組というのがかなり順調に進んできた部分もあるかと思います。

そういったところが排出量全体に結構影響が出ているのかなというふうに捉えております。

- 宇佐美さやか委員 市民の皆さんの意識が変わってきたのだというのも同時に起こってきて減ったと。新規のエネルギー消費量も22年度と比べて、やっぱり5.2%の減少となっていて、それは理由になっているという認識でよろしいですか。省エネ・再エネが効果を奏したという感じでしょうか。
- 門林脱炭素社会移行推進部担当部長 こちらもエネルギー消費量のほうに関しては、どちらかというと省エネ設備とかの導入とか、そういうものが順調に進んできた部分もかなりあるのかなというふうに見ております。

あとは電化とか、もう進んできている部分もありまして、そういったところがエネルギーの消費量全体に、影響が出てきているものと捉えております。

- 宇佐美さやか委員 なるほど、●ですので、省エネ・再エネの導入で、横浜市がやっていることとしては、風力発電とか小水力発電というのもあって紹介されていると思うのですけれども、すみません、突然話が、

2030年までの目標として、表を見ると、6ページです、増えていない、風力発電だと0.2万トン、小水力だと0.1万トン、目標と現在値とあまり変わっていないかなというふうに思うのですけれども、これはもう増やしていくことはしないよという考えでいいですか。

- 門林脱炭素社会移行推進部担当部長 こちらにつきましてはやはり、大都市部でもありますので建てられる場所とかも限られています。

一方で今回の、委員が見ていただいているページ6ページのところにありますけれども、大半の部分が太陽光発電というところになっています。

横浜は、人口がやっぱり多いということで、全国平均と比べましても、家庭部門の排出量が3割と圧倒的に多い状況でございます。

また企業数も中小企業に代表されるように、市内には7万社以上の企業が集積する大都市であります。ですので事業部門と市民の部門の再エネ化といったところの部分が一つ大きな鍵だというふうに考えておりまして、その部分の目標を重点化しておいでいるということでございます。

- 宇佐美さやか委員 市民の皆さんのが行動変容してきた中で、横浜市が風力ですとか小水力、なかなか力を入れないのかなというのが残念だなと思ったので、これをこれから諦めたわけではなくて、引き続き検討しながら進めていくという捉え方でよろしいですか。

- 門林脱炭素社会移行推進部担当部長 そのとおりでございます。

- 宇佐美さやか委員 家庭部門のほうの排出量が多いということで、太陽光発電のほうにも力を入れていくということで、目標が2030年までに57万キロワットを目指しているということで、目標年数までそんなに年数はない中で、あと約33万100キロワットを増やしていくというふうに、どういうふうにしていくという考え方でどうですか。

- 門林脱炭素社会移行推進部担当部長 目標値につきましては確かに高い目標値を設定しておりますが、一方で、例えば家庭関係でいきますと、新築の住宅に関しては2025年度から、省エネ基準がかなり厳格化されまして、全ての新築住宅については省エネ基準の適合が義務化されております。

そうなりますと、省エネを進めていくには、LEDですか、高効率のエアコンなどに加えまして、屋根の上に太陽光を乗せたりして、やはり、省エネをしっかりと拡大していくかなきやいけないという状況も出てきますので、こういったところへの期待というのも当然ありますし、今年度からは家庭向けに、太陽光や蓄電池ですか、そういうものをセットで導入するような事業も今回助成を始めたりもしております、こちらもかなり好調に推移している状況もありますので、こういったところを呼び水にして、家庭部門ですか、事業者部門についてはクリーンなエネルギーのはまっこ電気なども販売しておりますので、こういったものも複層的にやって、何とか目標に向けて、しっかりと頑張っていきたいと考えております。

- 宇佐美さやか委員 先ほど言っていた、基本方針の3にもあるように、徹底した省エネ・再エネの普及ということでも絡んでくるのかなというふうに思うのですけれども、今おっしゃっていただいた蓄電池ですか、太陽光発電設備と一緒に購入できるようにというのがある中で、こういう施策があるというのを、やはり多く知らせていくつて、今、人気があるよというふうにおっしゃったのですけれども、さらに広げていただくのと、もっと何か補助とかを厚くしていただけないかというふうに思うのですが、その点はいかがでしょうか。

- 門林脱炭素社会移行推進部担当部長 今、市のほうで実施しているのは、横浜グリーンエネルギーパート

ナーシップ事業という家庭部門向けのものもありますし、例えば中小企業向けであれば経済局さんのほうで設備投資の関係の助成制度などが数多くあります。

国のほうでも、子育て向けのものをはじめ、全世帯の部分に対しての助成といったものを、太陽光を乗せたりする部分についての助成などもあります。神奈川県もありますので、様々な立場で導入するための助成制度というのは豊富に用意しております。

そこをいかに、市民の皆さんに知っていただくようにするかというのは、我々も宿題かと思っておりまして、そういったものはリーフレットも作りまして、一応見られるような状況にはしておりますので、こういったものもしっかりとPRしながら今後も取り組んでいきたいと思います。

- 宇佐美さやか委員 なかなか太陽光発電の設置の復活を求めてきた中で、しないよと言われていた中で始めてくれたというのはすごく歓迎していて、私はちょうど助成が終わって、なくなっている間に、県のみんなのおうちに太陽光を使ってつけさせていただいたのですけれども、やっぱり、どの世帯にもつけられるという、まだまだ、そういう安価なものではない中で、やはり、どなたのおうちでもつけられるというものにしていかないと、目標数にはやっぱり、なかなかいかないのではないかというのを危惧していて、つけるにしても、そんな軽いものではないですし、まず耐震化がどうなっているか調べるとかいうところからの、既存の住宅だと始めるとかってなると、そこだけではなくて屋根も10年以上塗装はもうできないから、塗り直しておいたほうがいいですよというふうに私は御助言いただいて、塗り直すという作業もしていただいて、その費用とかも考えると、やはり相当な額になるなと思っていて、それを、やっぱり、つけてくださいと言うばかりではなくて、もっと手厚いのが、こういう制度もあってというのも紹介しつつ、やはり、誰もが手を伸ばせるような助成制度にしていただきたいというふうに思っていて、今お願いをしたのですけれども、いかがですか。
- 門林脱炭素社会移行推進部担当部長 太陽光につきましては、県も市も一応、要件は違いますけれども、実施しておりますし、国のほうでは全ての世帯向けの太陽光の助成制度、これも今年度運用しております、そちらもかなり好調に推移して、申込みもあったというふうに聞いております。  
やはり、横浜市単体だけではなくて、複層的にやっぱり助成制度を組んでいくことで、やっぱり切れ目がない形で市民の皆様にしっかりと使っていただける環境をつくっていくということが大事だと考えておりますので、引き続き、周辺の自治体とも調整しながら進めていきたいと思います。
- 宇佐美さやか委員 頑張っていただきたいと思います。  
基本方針の4なのですけれども、市民・事業者の行動変容の促進という、こちらも2030年の目標が71%という、これをもう少し目標を上げたほうがいいのではないかというふうに思うのですが、なぜ71%なのでしょうか。
- 門林脱炭素社会移行推進部担当部長 こちらは目標値の設定が2021年度の基準値を載せさせていただいておりますけれども、その前の2018年度から2021年までの平均の伸び率で算出したものということで、71%というふうに置いております。  
ただ、委員がおっしゃるように、実際に市民の意識調査をする中では、やはり、パーセンテージがどんどんよくなってきております。71を目指しているというよりかは、できればもっと高い目標値を定めながら、しっかりと環境に対する意識を高めていくという取組が必要だと思っておりますので、高い目標を目指して、取り組んでいきたいと考えております。

- 宇佐美さやか委員　これはもっと目標を引き上げてほしいというふうに言おうかなと思ったのですけれども、さらに上を目指しての数字だということで認識しました。

基本方針の6なのですけれども、市役所の率先行動の②で、公共施設の太陽光発電設備導入割合、目標を50%、こちらはもっと高くしていく必要があると思うのですが、なかなか条件がいろいろあってというのは承知しているのですけれども、つけられるところには全てつけていこうというふうにすると50%、それでも足りないのではないかというふうに思うのですが、こちらはいかがでしょうか。

- 門林脱炭素社会移行推進部担当部長　こちらは目標値を2030までしか書いておりませんが、2030まで50%という目標ですけれども、現状では2035には100%まで何とか、つけられるところにはつけたいと思っております。

ただ、やはり委員がおっしゃるように荷重の問題ですか、日影の問題、日陰につけても発電しませんので、そういったところは例えば建材一体型の太陽光ですか、新技術で様々、ペロブスカイトをはじめ、新たな技術で発電するようなものも出てきておりますので、こういったところの技術革新と、販売の状況と価格の状況、そういったところを見ながら、つけられるところにはしっかりつけていきたいという考え方であります。

- 宇佐美さやか委員　目標はこの数値だけれども、さらに上を目指しているというふうに読み取るということでおろしいですか。

この局は脱炭素を冠にしている局ですので、常任委員会の場でなかなか脱炭素の、この間、報告とかがなかつた気がして、頑張っているはずなのに寂しいなというふうに思っていて、やはり取組をしていることをもっと知させていく、紹介するということをしないと、横浜市は脱炭素を何もしていないと思われてしまうのではないかというのを危惧しているので、ぜひ常任委員会の場で、やっぱり取組は毎回報告していただきたいというふうに思いますので、要望しておきます。

以上です。

- 大桑正貴委員長　御要望ということで。

- 宇佐美さやか委員　はい。

- 長谷川えつこ委員　再生可能エネルギーの導入状況ということなのですけれども、横浜市では郊外部の雨水調整池等に、太陽光パネルを設置して、そのエネルギーをみなとみらいのほうに供給する事業を行われていると聞いております。

そんな中で今、2023年は太陽光電気が23.6万キロワットということですけれども、目標に向けて郊外部の雨水調整池の太陽光パネルは、どういったスケジュールでどの程度を増やしていくかというふうに考えていらっしゃるのでしょうか。

- 岡崎脱炭素社会移行推進部長　御質問のあったとおり、雨水調整池は、できるところは全て1回公募に出している。それで事業者がPPAという手法でできるところであれば、どんどん公募に出すので、事業者のやる気次第では、どんどん上がっていきし、我々のほうもやりやすいところをどんどん探して調整池以外でもやろうとしているというのが今の現状でございます。

- 長谷川えつこ委員　郊外部で作られた電池を本当に都心の中心部のほうに送っているということで、需要と供給はとてもバランスがいいのかなというふうに考えていますが、一方で東日本大震災のときなんかには、計画停電なんかがあったが場合は、やはり郊外部のほうから先に計画停電として、電気が送ら

れていないことが多かったかなというふうに感じているのですけれども、そんな中で郊外部にこういった発電するようなものがあると、そういった、有事のときに電気が届いていないエリアにとってすごくこれが有益だなというふうに感じているので、作られた、そういった電気は災害時はみなとみらいのほうに供給するのではなくて、地域の方々に供給できるような、そういった取組を同時に行っていただきたいと思っておりますが、そういった取組についてはどうやってお考えでしょうか。

- 岡崎脱炭素社会移行推進部長 各区にあります地域防災拠点、特に小中学校なのですけれども、そういったところには太陽光をつけていますし、そこに蓄電池も一緒につけております。通常時は学校で使っておりますが災害時は、スタンドアローンでそちらに人が来てくださいれば、そこで使えるというそういうシステムになっていますので、地域防災拠点に行っていただければ、各地域地域で使えると。

今、雨水調整池のお話もあったのですけれども、雨水調整池のほうでも、災害時には、停電した場合には、系統の中に入れられませんので、その場で非常用で電気が抜けるようにという、そういった設計に今はしてありますので、ただ、それを周知できていないのだなといったところは反省しているところでございます。

- 長谷川えっこ委員 そういったことで郊外部のほうで太陽光パネルを推進していくのであれば、地域の方々も、万が一自分のエリアに停電が起こったときに使えるものなのだとすることが分かれば、本当に早く設置に関して受け止めてくださるのかなと思っておりますので、ぜひそういったことを進めていっていただきつつ、2030年の目標に近づいてほしいうふうに思います。

- 市来栄美子委員 今のところで私も同じ9ページのところなのですけれども、2030年の目標値が0になっているのは、ここまでに完成しているという理解でよろしいですよね。

- 岡崎脱炭素社会移行推進部長 脱炭素先行地域の要件で、ここに、しっかり読むと電力消費に伴う排出量と書いてありますので、電気に関しては、完全に脱炭素、カーボン・オフセットしていくというそういったことでございます。

- 市来栄美子委員 実は地元で雨水調整池を使って、やはり、今、長谷川議員が言ったように、地域を使うというところで、反対の意見があったものですから、反対で流れてしまったのですけれども、その反対された中の何人かは、それが例えまなどみらいに供給されるのではなくて、地元の例えば、うそでもいいから孫が通う、あの小学校に使うよというふうに言ってくれるのだったら、うんと言ったかもしれないみたいなお声もあったものですから、周知はされていないということでしたので、非常時にはというところで今後していただければと思います。ありがとうございます。

もう1点だけよろしいでしょうか。

- 大桑正貴委員長 はい。

- 市来栄美子委員 もう1点だけ、11ページです。

E V =急速=充電器の公道設置や、コンビニエンスストアに設置するというところなのですけれども、補助なのですけれども、昨日一般質問でうちの久保議員が発言して、市営住宅などの空き駐車場なども使いながらE V充電器を拡大するということを言って、答弁を得ていたと思うのですけれども、こちらにも該当するという理解でよろしいでしょうか。

- 岡崎脱炭素社会移行推進部長 今、単純な助成ということではスーパーとかコンビニというのを想定しておりましたけれども、今後どんどん拡大していくというのが一つともう一つは、逆に言うと事業者のほうがそこでやって採算が合うということでしたら、それはどんどん調整して、国費も入れてやることは可能なの

で、そこと我々が連携して一緒に設置していくということはあるのではないかとは思っております。

- **市来栄美子委員** そうしたら、課をまたいで建築局ともやっていただくことになるかと思いますが、よろしくお願ひいたします。

以上です（「局=がよろしいん=じゃない」と呼ぶ者あり）、局ですか、ごめんなさい。

- **こがゆ康弘委員** 大きな話で、私は毎年聞いているかもしれません、3ページの温室効果ガスの排出量のグラフ、5ページにはエネルギー消費量の減少のグラフを書いています。

それぞれ2022年から23年度には4%減、5.2%減ということになっていますが、この数字というのは、かなり局として頑張ってやり切ったというか、かなり努力をした結果なのか、もっとやれたのだけれども、いやこの程度にとどまっていたのかというのは、この受け止めはどうなのですか。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** 我々としては市役所の率先行動もそうですしやることはやってきているという認識があります。

しかしながらまだまだやれることがあるというのも実態でございます。それは例えば太陽光と蓄電池を組み合わせながらもっと普及していくとかこういったEVの高度充電器をやりながら再エネを促進するとか、やはり、まだまだやれる事はあると思いますので、これまで確かにやってはきたのですが、やっぱもっと加速をして、もっと集中的にここに取り組むというのは、これからやっていきたいと思います。

- **こがゆ康弘委員** 例えば、2022年から2023年までの温室効果ガスの排出量の減少率4.0%を、これから先7年間同じ割合で下がったとすると、2030年では1213万トンですから目標には達しません。目標が達成できない。

同じように5ページの5.2%減というのが7年間続いたとしたら、135ペタジュールですから、これも目標に達しません。今と同じことをやっていたら、目標には到達しないのです。

大体、下に、4ページになりますけれども、多く排出させているのは家庭系部門とエネルギー転換部門。でもエネルギー転換部門は一生懸命やって、発電所の中いろいろ工夫しているので、これ以上はなかなか難しいのです。そうすると家庭部門を何とかしないと、なかなか下がっていかないのです。これは2013年からいろいろ取組をしていて、取組をする最初のほうはがっとやれるから、ギュッと下がるのでけれども、後半年になると、やるべき項目がどんどん限られてきててしまうので、なかなか下がっていかないです。

先ほどお話がありましたけれども、蓄電池等の取組とか、いろいろやるべきことはあるとは思います、門林さんはいろいろ言っていましたが、ただ、いわゆるエネルギー消費量とか温室ガスの排出量に大きく影響する項目というのがあるのです。だから後ろのほうの項目はいろいろあるけれども、それに大きく効果が出るようなことをやはり、しっかりと取り組んでいかないと、目標は達成が難しくなってしまう。

家庭部門で何をやるのというときに、先ほど太陽光パネルをたくさん入れますと、それでかなり豊富に補助制度を用意していますという話をしましたけれども、条件がいろいろあって、その補助制度は使えないよとかというのが結構たくさんあるのです。

さらに言うと、初期投資したって、回収するのにでは何年かかるのでしょうかと、そのうち耐用年数がきてしまったりとか、FITの値段なんか今はもう安いですから売電にもならないから、自家発電で自分のところで使わざるを得ない。そうなると蓄電池が必要、で、蓄電池とのセットと言ったって、かなりまた高額になってしまふから。だから、そういうことを総合的に考えて、ではどういう施策をドラスティックにやるかということをしないと、目標達成しないです。

東京も川崎も、御存じのとおり一定規模以上の家には太陽光パネルを義務化しています、いろいろそれも問題があるにしても。でも、いろんなことをやる中で、もう少し効果が上がることをドラマティックにやつていかないと目標に達しません。局長の話を伺います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 私の認識も委員がおっしゃっていることと基本的には一緒です。

ただ先ほどのように、例えば太陽光、蓄電池、いろんなものを入れていくというときに非常にお金がかかります。その部分については我々のほうで、そういう補助制度とかいろんな形で、神奈川県とも連携したり、国からお金を取ってきたりいろんな形で、やっぱり、そういう原資も用意しながら普及させていくという、こういう戦略を推進していかなければいけないと思います。

一方で、やはり我々も家庭部門はやっぱり一番のターゲットだと思っていますので、そうするとそれ以外にもやれることというのが、これからあると思うのです。今、具体的にこれだ、あれだと私も軽々には言えないのですけれども、そういったこともどんどん組み合わせながら、これからやっていく。

それには当然カーボン・オフセットの話ですとか、クレジットの話ですとか、いろいろそういったところも組み合わせながらどうできるかと、こういう総合力になるのではないかというふうには考えております。

- こがゆ康弘委員 みなとみらいの企業も、結構高いクレジットを買って、それで何とか抑えましょうというふうにしているわけです。もしかしたら、蓄電池とのセットでかなり補助額を増やして、いわゆる市費を投入して、何かしないとなかなか難しいかもしれません。いろいろ知恵を絞っていただいて、あと7年しかないので、ぜひよろしくお願いします。以上です。

- 大桑正貴委員長 他によろしいでしょうか。

他に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。

---

◎ 横浜市中期計画2026～2029（素案）について

- 大桑正貴委員長 次に横浜市中期計画2026～2029素案についてを議題に供します。

なお、本件につきましては政策局の黒田政策担当部長ほか、関係職員が説明委員として出席をしておりますので御了承を願います。

当局の報告を求めます。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 横浜市中期計画2026～2029素案について御説明をいたします。

新たな中期計画につきましては、9月10日の基本的方向の公表後、市会や市民の皆様の御意見を伺いながら検討を進めてまいりました。

このたび素案としてまとまりましたので、まずは政策経営局から全体概要について御説明をいたします。

- 黒田政策経営局政策担当部長 それではお手元の横浜市中期計画2026～2029素案、概要説明資料を御覧ください。

以下、本計画とさせていただきます。

それでは本計画全体の概要についてマーカー部分を中心に御説明いたします。

1ページをお開きください。

都市像明日をひらく都市は2040年頃の横浜のありたい姿を表しています。本計画においても明日をひらく都市を継承し、横浜に関わる全ての皆様と引き続き共有・活用していきます。

また、下段2つ目の米印にありますとおり、明日をひらく都市は、横浜市基本構想を踏まえて策定してい

ます。明日をひらく都市を本計画でも継承していくとする考え方の下、横浜市基本構想を今後も継承していきます。

2ページをお開きください。本計画全体の構成は、目次のとおりとなっており、順次御説明いたします。

4ページをお開きください。横浜市中期計2026～2029の策定から、本計画の位置づけ、特徴を御説明します。

5ページをお開きいただき、6ページと併せて御覧ください。5ページの計画の位置づけと策定経過を御覧ください。

本計画は、都市像、明日をひらく都市を継承し、現状の課題解決に取り組みながら、市民生活の安心・安全と横浜の持続的な成長・発展を目指す、新たな中期計画です。

6ページ、本計画の特徴を御覧ください。

本計画は、現在と未来の両方の視点で都市の将来像と施策を捉え、都市像、戦略、政策、施策の体系化や計画で予算を固定せず、行政・財政を変革させながら最適な事業を追求するとした現計画の考え方を継承しています。

加えて、より戦略的・体系的な計画へと高め、市民の皆様の実感を評価の軸において、目標に向けて柔軟に必要な取組や手段を選択し実践していくスキームとし、市民の皆様の暮らしの意識や状態を定期的に把握しながら、その向上等を目指して、4年間で重点的に進める戦略や取組を中心に記載しています。

6ページのピラミッド図を御覧ください。

ピラミッドの土台、紺色の部分です。ここは市政の基礎となり、日々の生活や活動を支える個別分野計画や業務サービスであり、上部の水色部分が、本計画において4年間で重点的に進める戦略や取組です。

双方を連動させ、明日をひらく都市につなげていきます。

7ページをお開きください。

計画期間は2026年度から2029年度までの4年間とします。

また、本計画の推進に当たっては、横浜に関わる全ての方々、多様な主体が連携し、進めていきます。

9ページをお開きいただき、10ページと併せて御覧ください。

計画の推進に向けて、前提とする考え方を御説明します。

9ページ、市民目線を政策の中心に御覧ください。ページの中段から下段には、本計画の策定に先立つて実施した市民目線のニーズ探求調査、子供たちを対象とした未来の横浜に関するアイデア募集の結果をまとめています。

上段の文章の3段落目に記載しましたとおり、いただいた市民の声や子供たちの思いから、暮らしやすさの上に未来への期待をどう築いていくかが大事だということを改めて認識しました。

10ページを御覧ください。

次に、持続可能な市政運営の推進です。

将来的な市税収入の減少、社会保障経費のさらなる増加、公共施設の老朽化課題など、自治体の経営環境は厳しさが増していくと見込まれる中、本市では2022年度に横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン及び職員の行動指針として、行政運営の基本方針を定め、持続可能な市政運営に力を入れてきました。

市政運営のガバナンスとマネジメントを発揮するためのこうした中長期的な行財政運営を土台に、持続可能な市政運営を進め、施策の推進と財政の健全性の維持を両立していきます。

11ページをお開きいただき、12ページと併せて御覧ください。

本計画の推進に向けて重視する、市役所区職員の基本姿勢です。

まずデータ経営の徹底です。データ経営は、限られた経営資源の中で、本質的な行政課題を追求しながら、アウトカム重視で施策の質を高め、財源創出にも貢献する本市ならではの経営手法です。

2024年度から開始したデータドリブンプロジェクト、DDPをDDP2.0へとバージョンアップして、データ駆動型経営に本格移行し、市民目線の経営サイクルの下、財源や人材の選択と集中、組織・職員の生産性向上につなげます。

また、SDGsの実現の視点を持ち、引き続き取り組みます。

14ページを御覧ください。ここから計画の全体像を御説明します。

15ページを御覧ください。

初めに、都市像、明日をひらく都市に向けた戦略です。

市民生活の安心・安全、横浜の持続的な成長・発展を掲げ、現状の課題解決に取り組みながら、未来につなぐ政策を推進し、明日をひらく都市の実現に取り組みます。

ページの下にお示ししたとおり、あらゆる世代・多様な市民の皆様が自分らしく生き生きと暮らすことのできる、住みたい・住み続けたい町を、また世界をリードする都市として持続的に成長・発展し、未来に希望を抱くことができる、選ばれる町を目指してまいります。

16ページは本計画の計画体系です。

最上段に明日をひらく都市を掲げ、その実現に向け、ただいま御説明した戦略を、中段に戦略の下に進める総合的な取組と横断的な取組を、下段に土台として、行政運営の基本方針と財政ビジョンを位置づけた計画体系としています。

ページ中段の総合的な取組と横断的な取組についてですけれども、ページ中段の大きな四角囲みが総合的な取組であり、14の政策群を設定し、また、政策群に関連する各施策群は33群とし、各施策群は個別分野計画とも連動し、アウトカム指標により進捗管理します。

もう一つの柱の横断的な取組は、中期計画で初めて位置づけるもので、下段の四角囲みにあるとおり、テーマに関連する施策群による横断プロジェクトであり、横浜の成長・発展に向けた明日をひらく都市プロジェクトとし、循環型都市への移行、観光・経済活性化、未来を創るまちづくりの3つのテーマを推進します。

各政策群、プロジェクトにつきましては後ほど関連する部分を御説明します。

17ページをお開きいただき、18ページと併せて御覧ください。このページでは、14の政策群と33の施策群を一覧で記載しています。

19ページをお開きいただき、20ページと併せて御覧ください。

データ駆動型経営の本格移行についてですが、政策-施策の体系の下、今後4年間で重点的に進める総合的な取組と、明日をひらく都市プロジェクトの横断的な取組を推進し、個別分野別計画の推進と併せて、市民生活の向上を目指すため、データ駆動型経営に本格移行し、市全体で実践します。

データ駆動型経営については、中段から下段の四角囲みにまとめており、本市の実践として、市民目線の経営サイクル、PDCAの中で、目指すべき状態とアウトカム指標の進捗状況を適切に検証し、改善を図ることで成果発現を目指します。

ページ中段の米1のとおり、本計画では、計画策定段階で市民目線を中心とした最上位の目標から、その実現に向けた中間的な政策効果、中期計画期間における成果までをバックキャスティングで設定し、可能な限り可視化に取り組みました。

ページ下段の政策一施策体系図は、ただいま御説明した考え方を可視化したものです。

また、ページ中段の右側のオレンジ色の枠のとおり、チェック・アクションの強化にも取り組み、DDPにより施策の質の向上と、本質的な検証・改善を実践していきます。

20ページを御覧ください。御説明してきた経営サイクルの一環として、政策群に市民の実感を測る政策指標を、施策群に成果発揮を目指す施策指標を、それぞれアウトカム指標として設定します。

中段には、政策指標と施策指標について、指標の見方、活用方法を御説明しています。

政策指標は、政策指標の項目の指標の見方のとおり、毎日の安心・安全などの政策分野ごとに市民の暮らし、意識や状態をデータで把握し、モニタリングを実践し、施策指標は、施策指標の項目の指標の見方のとおり、市民の皆様の暮らしの向上に向けて、計画期間中の進捗を把握し、成果発揮を実践します。

ページ下段にあるとおり、このほか、行政運営、財政運営における取組については、取組指標を設定し進捗管理します。

ページ最下段にあるとおり、本計画の振り返りは、毎年度議会へ報告するとともに、計画2年経過後の2028年度には中間振り返りを、計画終了後の2030年度には最終振り返りを議会に御報告します。

21ページを御覧ください。行財政運営について御説明します。

22ページを御覧ください。

行財政運営は、政策分野の総合的な取組や横断的な取組を進めるに当たって、これらを支える土台となる取組です。政策推進・行政運営・財政運営を密接に連動させることで、持続可能な市政運営をさらに強化します。

行政運営財政運営の取組項目については一覧のとおりです。

23ページをお開きください。計画の策定経過について御説明します。

24ページを御覧ください。ページ中段の新たな中期計画の基本的方向に関する意見聴取についてを御覧ください。1、市民意見募集では、620人・団体から御意見をいただきました。

2、市民意見募集、インタビュー形式では65名の市民の方に御協力をいただき、377件の御意見をいただきました。

中期計画の策定に係る意見募集として初めて実施した、3、子供の意見募集では、247件の御意見をいただきました。

また、市民意見募集とは別に、有識者ヒアリングも実施し、一覧に記載の有識者の皆様に御意見をいただきました。

これらの意見=聴取=の結果につきましては、横浜市ウェブページで公表しております。

25ページを御覧ください。

最後に、ページ上段の策定スケジュールについて御説明します。今回、12月3日に素案を公表しました。今後は素案に対するパブリックコメントの実施の上、5月頃に原案の策定を予定しており、原案については議案として提出させていただく予定でございます。

なお、パブリックコメントの実施期間は、ページ中段の四角囲みのとおりとなります。

以上、横浜市中期計画2026～2029素案、全体の概要について御説明申し上げました。

続きまして資料3、横浜市中期計画2026～2029素案、GREEN×EXPO推進局抜き刷り版で脱炭素・GREEN×EXPO 推進局に関連する部分について御説明いたします。

私のほうでいいのですよね。

1ページにお進みください。目次に記載しております項目について御説明いたします。

それでは3ページにお進みください。政策群のページ及び政策一施策体系図に記載されている内容の考え方について御説明いたします。

各政策群は2ページの見開きページで内容を掲載しています。

政策群の見開きページ、左側には①の政策群番号と政策群名称から順に、②では、その政策群の現状と課題、③では、目指す姿を記載しています。④では、政策指標として、その政策群に関連した市民の皆様の、横浜市での暮らしの意識を示す指標を記載しております。

政策指標は、令和7年度時点の現状値を記載しており、行政をはじめ、多様な主体と共にしながら向上等を目指し、毎年度、政策経営局が実施する調査によってモニタリングします。

⑤では、関連する主な個別分野計画、⑥では関連するSDGsの目標を記載しています。

右側4ページを御覧ください。右側のページでは政策群にひもづく施策群を記載しています。⑦の各施策群番号と施策群名から順に、⑧施策群の方向性、⑨施策指標を記載しています。

施策指標については、毎年度目標値に対する進捗を把握し、2029、令和8年度の成果発揮を目指します。

各種将棋は墨つき括弧で主管局名を記載しています。

また、素案においては、公表時点で令和7年度の最新データがまだ把握できていないもの、調査中のものが一部含まれており、米印で注釈を入れています。

米印がついている指標については、原案では最新時点の数値に更新する予定です。

最後に、⑩では関連するデータや写真を記載しています。

政策一施策体系図については、実際の体系図で御説明いたします。

5ページにお進みください。政策一施策体系図は、ページ上部の5つの四角囲みでお示しているように、一番左上の最上位の目標から、バックキャスティングで成果につながる主な活動までを、5階層のロジックモデルで設定したものです。

5つの階層について御説明いたします。

一番左の列が政策群における最上位の目標、市民の皆様の暮らしの意識であり、政策指標として定義を記載しています。左から2つ目の列は、中間的な政策効果、3つ目の列が計画期間における成果です。計画期間における成果を測るもののが、施策指標となっています。最上位の目標と4年間の成果を結ぶ経路・思考を確認するものが、中間的な政策効果です。

左から4つ目の列は、成果につながる主な活動量、5つ目の列が成果につながる活動となります。

なお中間的な政策効果は一例として記載しており、各ツリーの右上に白い枠が、体系図に白い囲みがあると思うのですけれども、関連する個別分野計画、都市計画マスターplanと記載していると思うのですが、そういうものと連動して柔軟に実践していきます。

脱炭素GREEN×EXPO推進局に関連する政策群の政策一施策体系図については、6ページまでとなっております。

以上、政策群、政策一施策体系図の考え方について、御説明申し上げました。

続いて、脱炭素GREEN×EXPO推進局より、関連する政策群について御説明します。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 それでは7ページにお進みください。

ここからは黄色でマーキングしている箇所のうち、下線部を中心に御説明いたします。

政策群12、まちづくりについてでございます。

現状と課題でございますが、郊外部のまちづくりとしまして、GREEN×EXPO 2027開催後の上瀬谷地区に整備する防災・公園、農業振興、観光・にぎわい、物流などの機能を集約した新たな拠点は、周辺のまちづくりと連動させ、郊外部全体の活性化につなげていくことが重要でございます。

その下の目指す姿でございます。上瀬谷地区においてはGREEN×EXPO 2027開催後のまちづくりが進められている姿を目指します。

8ページを御覧ください。施策群27、郊外部のまちづくりについてでございます。上瀬谷地区については農業振興と都市的土地利用による郊外部の新たな活性化拠点を形成し、郊外部全体の発展に寄与するまちづくりを進めます。

9ページにお進みください。政策群13、環境との共生についてでございます。

現状と課題でございますが、カーボンニュートラルの推進としまして、2030年度の温室効果ガス50%減、2050年のカーボンニュートラル達成に向けた取組が進み、23年度の市域の温室効果ガス排出量は1615万トンで、25%減と減少傾向にございます。

目標の達成に向けて、市民・事業者の行動変容、脱炭素イノベーション、市役所の率先行動のさらなる推進が重要でございます。

GREEN×EXPO 2027を契機とした環共コンセプトの発信としまして、上瀬谷地区の平和利用の象徴として、GREEN×EXPO 2027を開催いたします。開催を契機に、新たなグリーン社会の在り方が広く市民に浸透し、具体的な環境行動につなげていくことが重要です。

横浜らしいサーキュラーエコノミーの構築・推進でございます。限られた資源を最大限有効に活用し、経済的な発展にもつなげるサーキュラーエコノミーに関する機運が、国内外で高まっています。

横浜市の特性である、大規模、多様性、市民意識を生かした施策を進め、循環型社会への転換を加速していくことが重要です。

その下の目指す姿です。様々な脱炭素関連施策の展開により、市民・企業の環境意識の高まりを通じて脱炭素の取組が推進され、ハーフカーボンの達成が確実なものとなっております。

GREEN×EXPOの取組を通じて、ネイチャー・ベースド・ソリューションやサーキュラーエコノミーの考えが浸透し、新たなグリーン社会の実現に向けた具体的な環境行動が広がっています。

横浜らしいサーキュラーエコノミー施策が展開された結果、環境への影響を考慮して行動する市民が増えているとともに、市内産業の発展・育成につながっています。

また、アジアを代表するグリーンシティとして世界の環境政策、都市政策を先導しています。

右側10ページを御覧ください。

施策群28、カーボンニュートラルでございます。温室効果ガスの2030年度50%削減や、2050年のカーボンニュートラルに向け、市民の行動変容、事業者の行動変容、脱炭素イノベーション、市役所の率先行動の4本柱の取組を推進します。

指標として、環境クレジット制度の取組進捗率、みなとみらい地区の再エネ導入率、市役所における脱炭素の取組進捗率を挙げています。

施策群29、GREEN×EXPO 2027でございますが、市民の皆様と作り上げる環境との共生をテーマとしたGREEN×EXPO 2027の開催を通じ、多くの方々と地球規模の課題を共有し、解決につなげる行動を起こします。

さらに、新たなグリーン社会の実現に向け一人一人の具体的な環境行動を、自然とともにある横浜の都市づくりにつなげていきます。

指標として、環境にやさしい行動に取り組んでいると答えた市民の割合、環境活動に取り組んでいる団体数、シェアリングエコノミーに参加していると答えた市民の割合を挙げています。

施策30、循環型社会に向けた取組です。市民の皆様の消費活動や、企業の経済活動における意識や行動の変容による再資源化の促進、積極的なシェアリングサービスの利用、循環型まちづくりなどを通じて、横浜らしい循環型都市への移行を推進します。

また、これらの取組を広く世界に発信し、国際プレゼンスの向上につなげていきます。

指標としましては、サーキュラーエコノミーに関する事業への参加人数を挙げています。

続いて、当局に関連する、明日をひらく都市プロジェクトについて、まずはプロジェクトの概要を政策経営局から説明いたします。

- 黒田政策経営局政策担当部長 それでは11ページにお進みいただき、12ページと併せて御覧ください。  
明日をひらく都市プロジェクトは、本計画で初めて位置づけた、横浜のさらなる持続的な成長・発展につながる取組です。  
明日をひらく都市プロジェクトは、3つのテーマで施策横断的に取り組みます。本計画期間である4年後の目指す姿はもちろんのこと、2040年の横浜の姿も目標に掲げ、戦略的に取り組んでいきます。  
具体的には、循環型都市への移行、観光・経済活性化、未来を創るまちづくりの3つのテーマで政策横断的に取り組みます。

13ページにお進みいただき、14ページと併せて御覧ください。

テーマ01、循環型都市への移行について御説明します。現状及び将来見通しにあるとおり、欧州をはじめ世界的な潮流となってきているサーキュラーエコノミーの取組を、これまで以上に進めていく必要があります。

横浜の将来の姿として、まず2029年には取組全体として、経済成長とごみ排出量の両立を目指し、2040年には経済の視点としては、サーキュラーエコノミーが横浜の新たな成長産業となっていること。グローバルの視点としては、可視化されたサーキュラリティ指標の下、地球環境と調和した持続可能な都市として、国内外のモデルになっていること。市民の視点としては、次世代も横浜に住んでほしいと感じる市民が増加していることを目指します。

右側、14ページを御覧ください。

今後の方向性ですが、横浜の強み・特性にあるとおり、横浜には、まず大規模であり、循環型都市への移行による社会的インパクトが大きいこと。多様性を持ち、地域環境に応じた多様なアプローチが試行可能であること。市民意識が高く、市民・企業・行政一体の取組が展開可能であることなどの強み・特性があり、これらの強み・特性を生かし、横浜らしい循環型都市への移行を進めていきます。

ページ下部に示す、分野ごとの循環の概念図を御覧ください。

循環型都市への移行を進めるため、食・農分野、資源調達分野、建築・住宅分野、企業活動分野、消費・行動変容分野、DX分野の6つの分野における取組を進めていきます。

17ページにお進みいただき、18ページと併せて御覧ください。

次にテーマ03、未来を創るまちづくりです。現状及び将来見通しの項目、都市構造の変化の項目にあるとおり、これまで本市は、都心部をコアとする都市の骨格を形成してきましたが、今後は郊外部の持続的な成長・発展が重要となってきます。

また、人口減少社会の到来の項目にあるとおり、今後、人口減少社会が本格的に到来する中、時代に対応した土地利用制度の見直しやインフラ施設の老朽化・自然災害の激甚化の項目にあるとおり、老朽化したインフラ施設の計画的・効率的な保全更新、甚化する自然災害への対応として、地震・風水害等の大災害にも耐える強靭性も必要となってきます。

右側、18ページを御覧ください。

今後の取組の方向性ですが、これから未来を創るまちづくりとして、適正な管理により安心して暮らせる都市基盤作り。新たな拠点を郊外部の活性化につなげるダブルコアのまちづくり。人や企業を呼び込み、都市活力の維持向上につなげる規制見直しの3つの取組を進めていきます。

目指す将来の横浜の姿ですが、2029年には地域ごとの特色を生かした魅力的なまちづくり、都市の持続的な成長・発展につながる取組が進められている状態を目指します。

2040年にはインフラの視点としては安心・安全な都市基盤が維持されている。拠点の視点としては都市の多様性・強靭性が高まり横浜の活動魅力が高まっている。土地利用の視点としては、人口や就業者・にぎわいの増加や税収増等により、都市の成長・発展へつながっている姿を目指します。

以上、明日をひらく都市プロジェクトの概要について御説明しました。

続いて、関連する主な項目について、脱炭素GREEN×EXPO推進局から御説明いたします。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 それでは15ページにお戻りください。

とりくむサーキュラーについてでございます。

航空燃料に活用するため、家庭系廃食油の回収や、不要な衣類を回収し、再び繊維として活用する服など、生活に身近なチャレンジしやすい取組を開いたします。

また、市庁舎で率先的な取組や、大規模イベント等を通じた来街者も参加できる取組、子供や地域によるサーキュラー活動の発信などを通じ、幅広い層に対し循環型のライフスタイルを促進します。

右側16ページの下段を御覧ください。みえるサーキュラーでございます。

みなとみらい地区におきまして、エリア単位で物質循環の流れを可視化する手法を開発・発信しています。可視化されたデータを活用して、地域の資源循環率の向上に寄与する施策を進め、他地区への展開につなげる事例を創出していくます。

19ページにお進みください。2ページ飛ばして19ページお進みください。ダブルコアのまちづくりについてですが、上瀬谷地区を中心にGREEN×EXPO 2027の理念や取組を継承し、環境と共生したまちづくりを進めています。

左側ですが本市西部地域の交通ネットワークの構築を目的とする新たな交通や、災害時の支援及び輸送ネットワークの強化を目的とする、新たなインターチェンジを整備していきます。

続いて当局に関連する財政運営の取組について説明します。23ページにお進みください。

取組に、将来世代に先送りしない適正な債務管理と投資管理でございます。

右側24ページの下段を御覧ください。4、特別会計・企業会計のさらなる健全化の推進でございます。特別会計について、会計運営計画に基づき、引き続き計画的、効率的な事業運営に取り組みます。

指標として、会計運営計画の適切な更新を挙げています。

説明は以上です。どうぞよろしくお願ひいたします。

- 大桑正貴委員長 ありがとうございました。

報告が終わりましたので、質疑に入ります。

- 鴨志田啓介委員 今ほど御説明いただきました、3番、未来を創るまちづくりの中で、ダブルコアのまちづくりが示されました。郊外部のコアとして上瀬谷地区が示されたということですけれども、上瀬谷地区は約248ヘクタールといった、首都圏でも貴重な広大な土地でございます。

東名高速や保土ヶ谷バイパスに接続しており、広域での交通利便性が高い地区でもあります。横浜市ではこのポテンシャルを最大限に発揮させ、都市課題の解決や、郊外部の活性化を着実に進めていくため、長年にわたり地権者の皆様をはじめ、地域と一体となって戦略的、計画的な土地利用の検討を進めてきましたが、改めて、旧上瀬谷通信施設地区の土地利用の検討経緯について伺います。

- 村上担当理事 旧上瀬谷通信施設につきましては、70年間という長きにわたりまして252名に及ぶ地権者の土地利用が厳しく制限されまして、平成27年によく返還されることとなりました。

返還が決まった後に、地権者の方々とともに将来の跡地利用計画についての話し合いを重ねてまいりまして、農業振興地区、観光・にぎわい地区、物流地区、公園・防災地区の4つのゾーンからなる新たな土地利用の考え方をまとめ、さらには土地利用の価値を最大化するために、瀬谷駅を起点とした新たな交通と東名高速道路に直結する新たなインターチェンジの導入を図ることで、地権者の皆様、あと地元の方々との意見が取りまとまる運びとなりました。

この結果につきまして、市民意見募集を経て令和5年2月に旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノートとして取りまとめ、現在に至っているところでございます。

- 鴨志田啓介委員 長年にわたり市と地権者、地域が一丸となって計画をつくり、まちづくりを進めてきたことがベースにあったということを理解をいたしました。

特に新たな交通と新たなインターチェンジは、今回の次期中期においても、ダブルコアのまちづくりを進める上で郊外部に欠かせないインフラとして、しっかりと位置づけられていると思います。

これまで議会で報告がありましたが、当初の地権者とともに上瀬谷のまちづくりでの位置づけから、市の政策的意味合いが加わり、現在に至っているものと理解しております。

そこで新たな交通の整備目的について伺います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 上瀬谷地区の新たな土地利用の実現に向けて、これは必要不可欠なインフラであると考えています。土地利用の転換の機会を捉えまして、本市西部地域における交通空白地域の解消、それから鉄道路線間をつなぐ公共交通ネットワークを構築して、誰もが移動しやすくて、そして住みやすい町に生まれ=変えて=いくと、実現を目指していくと、こういうことが目的になります。

さらになのですが、上瀬谷地区へのアクセス、公共交通機関を御利用いただくということに転換されると、円滑な輸送を実現することにもつながりますし、また自動車交通による周辺道路の渋滞緩和とか、軽減にもつながります。

また環境負荷の低減、これにもつながると、幅広い効果が期待できますので、そういったことを全て整備の目的としてございます。

- 鴨志田啓介委員 今回の計画では、郊外部の新たな活性化拠点の形成に合わせて、次世代技術を活用したバスによる交通システムの導入が計画されていますけれども、私としては、中期計画において郊外部のコアとしての役割を担う地区に位置づけられ、都市部のコアと肩を並べる地区として育っていく以上、将来的にはバスと言わずに、地下鉄整備を視野に入れるほどのインパクトある公共交通基盤が必要であると私は考えております。

インフラ整備はコストではなく、将来にわたり経済活動と安定的な税収を生み続ける投資と、やっぱり捉えるべきであると思いますし、特に今回の郊外部のコアにおいては、インフラ投資が複利の経済循環を生む大きな可能性を秘めていると考えています。

将来にわたる本市西部地域の発展ということを見据えて、公共交通網の整備を、ぜひ力強く進めていただくよう、いろんなアイデアがあると思いますので、今後も検討いただくようお願い申し上げます。

続きまして、新たなインターチェンジの整備目的について伺います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 こちらの新たなインターチェンジでございますが、新たな交通とともに、上瀬谷地区の新たな土地利用の実現に向けては必要不可欠なインフラであると考えているところでございます。

これは、横浜市地震防災戦略の位置づけがございましたので、東名高速道路と上瀬谷の広域防災拠点を直結する、こういったことで、大規模災害時に救急救命活動が円滑に行える。それだけでなく、緊急物資の輸送、そういうものも円滑になります。そういうことを通じまして、防災対応力の強化を図るということが可能になると考えています。

併せて、高速道路へのアクセス性の向上によりまして、交通利便性の向上というのも図られ、これは地域の方々にとっても利便性の高いものになると。さらには物流、市内の安定的な物流も実現することができると、こういった大きな効果を生むのではないかと考えています。

市民の皆様の暮らしや経済の活性化、これに非常に資するものだと、そのように考えて整備を目的として考えております。

- 鴨志田啓介委員 両事業についてはこれまでも議論がありましたが、長年米軍に接収されてきた地権者の思いを受け止めながら策定した瀬谷の土地利用計画の要となる事業であり、また土地利用転換の機会を捉え、これまでこの地域の課題となっていた公共交通の確保、さらに市域全体に係る防災機能の強化に資するとても重要な事業であると思いますので、力強く進めていただくことを要望いたします。

さらに中期計画では、上瀬谷のまちづくりにより、鉄道沿線や幹線道路沿道など、新たな郊外まちづくりへの展開、機能連動を図る要の事業と位置づけられています。

そこで、ダブルコアにおける上瀬谷のまちづくりを進めるに当たり、局長の決意を伺います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 上瀬谷地区のまちづくりは、長年制約を受けてこられました地権者の思いと、市民の意見を伺いながら、郊外部の新たな活性化拠点として進めていくと、これを決めたわけでございますが、現在GREEN×EXPO 2027の開催に向けましても、精力的に準備を進めていると、こういった全体の流れの中で将来の上瀬谷のまちづくりに向けた一連の取組というのはとても重要だと、本当にこれは何とかして実現していかなければいけないと、そういう思いでございます。

観光・にぎわい地区をはじめとしまして、4つのゾーンの検討の熟度をさらに深めまして、新たな交通、新たなインターチェンジの整備を着実に進めながら、そして上瀬谷をコアとした郊外部のまちづくり活性化拠点、この実現につながるよう、しっかりと取り組んでまいります。

- 鴨志田啓介委員 GREEN×EXPO 2027の取組を将来の上瀬谷のまちづくりにしっかりとつなげていけるよう、力強く推進していただくことを期待いたします。

- 宇佐美さやか委員 郊外部のまちづくり、8ページに先ほどもあったと思うのですけれども、上瀬谷開発、27でも豊かな自然環境を生かし、農業振興というふうに続いて、都市的土地区画整理事業というのがあるのですけれども、これはどういう意味なのかを伺いたいのですが。

- 村上担当理事 豊かな自然環境を生かしたというところは、先ほど御説明いたしました、旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノートのときにかなり議論がございまして、それで議会の中でも審議を経まして、位置づけたものでございます。

具体的な、都市的土地区画整理事業というところでいきますと、先ほど申し上げました4つのゾーン、物流、観光・にぎわい地区、農業、公園・防災等、4つの地区の土地区画整理事業全体に自然が感じられるような、緑豊かな環境が配置できるようにという大きな指針の下にまちづくりを進めることとしております。

- 宇佐美さやか委員 本当に緑を生かすというふうに記されて、旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノートにも書かれているということで、以前から私どもは観光、にぎわいの地区にも、やっぱり、緑をとにかく多くして、土で覆ってしまうということはしないで、できるだけ土を残して、土の臭いとか、雨が染み込んでくれる作用があるとかというのも、滞在しながら勉強できると、体験するということも必要かなというふうに思っていて、そこは事業者との話し合いの中で決まっていくとは思うのですけれども、この旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノートで緑を生かすというのを、とにかく掲げて、そこは搖るぎなく徹底していただきたいというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

- 村上担当理事 我々もその点は、もう、しっかりと認識してございます。

その点、旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノートに書かれている今のお話ですか、さらに検討の熟度がこれから深まっていく、いわゆる観光・にぎわいゾーンの事業者のメンバーとも、そこはしっかりと共有しながら今、話し合いを進めているところでございます。

- 宇佐美さやか委員 ぜひ緑の多い本当に居心地のよい場所にしていただきたいというふうに思います。

国際園芸博覧会の会期の終了後の具体的な環境行動というふうに書かれていたと思うのですけれども、今、私が自分で見つけられなくなってしまった、これは何を意味しているのかというのを、今、自分で見失ってしまったのですけれども、すみません。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 10ページのGREEN×EXPO 2027のところの指標に、環境にやさしい行動に取り組んでいると答えた市民の割合というのを掲げさせていただいている、その関連だと思いますが、やはり、GREEN×EXPO 2027は環境をテーマとするEXPOでございまして、これはEXPOにとどまらず、その後の横浜の発展に向けて、この行動がずっと横浜の都市づくりにつながっていくと、そういうことを我々は考えています。

ですので、環境というのはテーマとしますか、いろいろな体験とか、行動から行動変容、気づきにつながっていくと、こんなGREEN×EXPO 2027を目指していますので、そこで、これまでに比べて、どれだけそういう環境行動をする方々が増えたか、あるいはそういうことがどれだけ広がっていった、こういうことを進

めていきたいと考えているところです。

- 宇佐美さやか委員 会期終了後にも、こういう形で市民の中に残っていってほしいという思いが込められたという認識でよろしいでしょうか（「=はい=●」と呼ぶ者あり）。  
すみません。

目指す姿として、ちょっと飛んでしまうのですけれども、アジアを代表するというふうに書かれていて、これが9ページですか、アジアで代表する前にやはり日本を代表しないといけないというふうに思うのですけれども、このグリーンシティというふうにうたうのであれば、やっぱり、もっと市内全体に緑を増やしていくことが必要だというふうに、ずっと言い続けていて、それはみどり環境局さんがやることですというふうに言われてしまいはしないかと思いながら言っているのですけれども、そこはやっぱり増やしていくという、この地域、中区ですか西区ですかに私は緑を増やしてほしいのですということを言い続けているのですけれども、その点はいかがでしょうか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 グリーンという意味では、大きく花や緑だけではなく、環境行動とか、環境に関わることも全部含めてございます。

今の委員の御指摘で言うと、花や緑というのは、ある意味地球、気候変動対策ですか、また我々の豊かな暮らしとかにつながりますので、それは生活の身近なところに花や緑がたくさんあるというのは、当然これからも進めていかなければいけないと思います。

一方で、我々はそれだけではなく、やはり、先ほども申しました環境行動ですか、環境に配慮する、あるいはそこに気づきを、あるいはそこを体験しながら、自分の行動につなげていく、そういうところを一生懸命やっていくと、こういうのが全て重なり合ったところで、グリーン。それが日本をリードし、そしてアジアをリードする、横浜が核となってやっていく。これはGREEN×EXPO 2027がそもそもございますので、そこから横浜が中心となり、日本、そして世界へと広げていく、こういうふうに考えて、ここに示しをしたところでございます。

- 宇佐美さやか委員 どうしても単純なので、グリーンというと緑が多ければいいのではないかというふうに思ってしまって、それが一杯があったら人間は気持ちがほっとするとか、そういう効果があるのではないかと、やっぱり、みなとみらい地域とかは、なかなか木が植えてもせめて街路樹ですかというふうになってしまって限定的だったり、植えられた花だったりという、人がやっぱり、人工、手が入ったものというふうなのが多くなってきていて、そこで増やしていくということもやっぱり、考えていかないといけないかなというふうに思っていて、植えられる場所を増やすとか、そういう、先日視察に行かせていただいたときには建物の段々になっているところ全てが緑で覆われているというのを見させていただいた、そこは視察場所ではなかったのですけれども、見せていただいたときにあったので、そういう建物を利用してというのももっと率先してやっていただきたいなというふうに思っていますし、我々市議団として来年の予算要望で提出させていただいたのですけれども、樹冠被覆率の、土地の面積に対して樹木の枝葉が覆っている部分を広くするというの、樹冠被覆率を広げてほしいということを要望していまして、ニューヨークとかメルボルンとかでは、そういうのを進められていて、被覆率を30%以上というのを目指しているのです。

こういうのも参考にしながら本市の樹冠被覆率を引き上げていくという取組を進めることを要望したのですけれども、やはり、公園とか町に緑の日傘を作っていくと、たくさん作っていくというのを提案しているのですけれども、こういう目標を持って取り組んでいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 我々もGREEN×EXPO 2027がございますので、様々な形で、いろいろなところに花や緑が楽しめ、そしてそういうものがあるという生活環境というのは、これからおのずとそういうことを取り組みながらやっていかなければいけないと考えておりますので、このGREEN×EXPO 2027というのを契機に、やはり、少しでもそういう機運が高まり、そういう行動が増えるというふうには取り組んでいきたいとは思います。
- 宇佐美さやか委員 取り組んでいきたいということで、これから27年に向けても、今からでも始められることもあるのではないかと思うのです、お花を増やすとか、町にお花を増やすという、そういう取組をしていただいて、やはり、みどり環境局さんと協力して、この計画が29年で、次の年までには脱炭素、カーボンハーフを目指すというふうな年になっているので、温室効果ガスの排出量も毎年のように大幅に減らしていく必要があるというふうに思っているのです。  
先ほどの話にも関係すると思うのですけれども、温室効果ガスの排出量も削減する、これも本当、先ほどこがゆ委員がおっしゃっていました、間に合わないというふうに思うのですが、この点は、これから本当にどういうふうに取り組んでいくのかというのを、改めてお伺いしたいのですが。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 先ほどと同じにはなりますけれども、やっぱり、あらゆる施策を総合的にやりながら、また我々は補助金ですとか、そういったこともしっかりと打ちながら、やはり、進めいくことが大切だと考えておりますので、そのように力強く進めていきたいと考えています。
- 宇佐美さやか委員 市民の皆さんと協力していく必要があると思うので、そこは市民に協力をお願いしながら引き続き取り組んでいきたいと思いますし、この計画がしっかりとうまくいくようしていくために、やっぱり、これからまた市民意見募集なども行われると思うのですけれども、その点では引き続き皆さんの方を聴いていただいて、今回お子さんの声も聴いていただいたということで、これからを生きるお子さんたちの声をもっと拾い上げていただければというふうに思いますので、そこは要望いたします。
- 花上喜代志委員 初めに中期計画の基本的な考え方として、今回は特に市民の目線、それを軸につくったと、こういう説明がありました、確かに、これまでの中期計画とかは、市民の目線という言葉はなかったと思うので、これは画期的なことだと、全国的に見ても総合計画、中期計画で市民の目線というのは、こういう形で取り入れた都市ではないと思うのだけれども、その辺りの考え方について、まず聞かせてもらえればと思います。政策局。
- 黒田政策経営局政策担当部長 委員のおっしゃるとおりでして、通常の計画は事業というのがまず先にあって、それを結びつけて政策にしていくというような立てつけだったと思います。  
今回、新しいのは市民の目線というのを最上位に置いて、向きをまさに逆にして、市民がこういうのを望んでいるから、ではこういう政策が必要だ、だったらこんな事業だという形、今と全く逆のアプローチでやりました。  
ここは私の知っている限りで、あまりそういうのをやっている事例はないのですけれども、そこは新たな市民の目線に立った計画というのを重視して取り組んだところでして、ここは今まで事業を固定してしまうと、その事業の推進は非常に大事なのですけれども、結果的に市民がどう感じているかというのを、少し連結が薄まってしまうというところがありましたので、そこについては、まず市民の目線というのをもう一番中心に置いて、そこから事業が派生していくというふうに、今までと逆の発想でつくったというのが今回の新しい計画でございます。

- 花上喜代志委員 大変重要な視点でこの計画がつくられたということで、これは敬意を表したいなというふうに思います。

それで、脱炭素GREEN×EXPO推進局の関係からいうと、やはり、まちづくりについて、国際園芸博覧会があるわけだけれども、この上瀬谷のまちづくりについては、特に、先ほど村上さんから説明があった過去のいきさつがあつて、242ヘクタール、250人の地権者があった。返還された土地をどのように利用していくかということで、まず最初にやつたのが区画整理事業を進めて、地権者の皆さんとの要望を受けて、横浜市が区画整理事業に着手したと。私も地権者の250人全部とは言わないけれども、かなりの人たちを知っていたので、それぞれの思い、思惑、そういうつたのがある中で、よくまとめきつたなというのが実感だったのです。

それで横浜市が242ヘクタールを区画整理事業でやるということで、住民との協働の取組でこうやって進めてきた。まず、国際園芸博覧会が開催されるということにこぎ着けて、今、準備が進んでいることは大変心強い話だというふうに思っているわけですけれども、さて、そこでもちづくりを進めていく上で、まず大事なのは交通ネットワーク。

道路もそうだし、交通ネットワークも大変重要だということから、いわゆる新交通システムを、海軍道路につくっていこうかという話が、新交通システムがうまくいかなかつたということから、連節バスを走らせるという計画に変わって、今進めていると。

だけれども、過去を遡れば、郊外区の鉄道、交通システムというのは、シティループという名称の、計画がありました。細郷市長、高秀市長の時代からだったと思いますけれども、環状鉄道とは別に郊外区のシティループという計画があつて、それが横浜西部地域の交通システムということで、我々も大変期待したのだけれども、確か中田市長のときにその計画が消えてしまったということで、非常に残念だなというふうに思っていたわけだけれども、その後、新交通システムなどの話が出て、復活するなという想いでいたのだけれども、今回は新交通システムをシーサイドラインのあの形の鉄道ではなくて、連節バスのバス輸送と、こういうふうになりましたが、やはり、郊外部を活性化するためには、シティループの構想があつた郊外区のそういう交通システムというのは必要ではないかと思うので、これは海軍道路のあの一部分だけではなくて、北は十日市場、南は立場駅、少なくともその区間は将来考えていかなきやいけないだろうと、こういうふうに思うのですけれども、その辺りの考え方方は今どうなっていますか。

- 村上担当理事 横浜環状鉄道構想、シティループ構想、そういう計画があつたことは十分承知の上の今回の計画でございます。

今回は、先ほど来、話があります上瀬谷のまちづくりから端を発したときの交通手段をどうするかというところの議論がかなりあります。それをなるべく早く実現しなければいけないというミッションもあるうかと思っておりますので、それでまずは連節バス。そのバスがいろんなところに柔軟に行けるようにということで、きめ細かく運行できるということで、今回この事業を進めることに至ったことでございます。

- 花上喜代志委員 その考え方方は私も理解しているので、まず第一段階と思っていますけれども、瀬谷駅から上瀬山までの連節バスを通すと、この計画は早い段階で実現してもらいたいというふうに思っていますが、将来を考えれば、この中期計画という計画なので、4年間の計画ということになっていくと、連節バスを瀬谷駅から上瀬谷駅まで通すというだけではなくて、将来の、先ほど言ったシティループの構想などを、もう一度真剣に考えてみる必要があるのではないかと、このことを申し上げたいと思ったのだけれども、これについての考え方はどうでしょうか。

○ 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 現時点では、そこまで具体的にシティリープ構想の復活ではないのですけれども、それを敷こうということはないのですけれども、やはり、我々は郊外部の活性化、まずは今ここにあります、新たな交通をしっかりと、立場から十日市場というのを目指して進めていくと。

ただ、それを進めるでも少し時間がかかりますので、その間に、じゃあその先をどうしていくのか、これをどう生かしていくのかということは、しっかりと検討していかなければいけないだろうというふうには考えています。

○ 花上喜代志委員 その認識は、しっかりと持っていただきたいというふうに思います。

上瀬谷については、4つのゾーンに分けて、物流、農業ゾーン、観光・にぎわいゾーン、それから公園・防災ゾーン、この4つのまちづくりを進めると、こういうことで今、具体的に進めているわけなのだけれども、これを進めていくということになると、まずはGREEN×EXPO 2027を成功させると、これが突破口となって、起爆剤となって、その後のまちづくりが進んでいくと、こういうことになるわけなので、そうなりますと物流ゾーンが、正式に巨大な倉庫ができると、三菱地所が中心に造るというか、もう、その青写真も示されているわけです。

だから、そこに結ぶ新たな東名高速道路のインターチェンジができると、これは物すごい意味のあることだということで、我々も大いに期待しているところですけれども、併せて、それと並行して、GREEN×EXPO 2027が終った後は、観光・にぎわいゾーンにテーマパークができると、これまで発表された内容によれば、1年間に1500万のお客様を集めるという計画だと。

それで、この経営主体が三菱地所と東急、それから相鉄、確か4社連合とか何か言っていましたけれども、それで今、計画がどんどん進んでいるということなので、国際園芸博覧会が終われば、ああ、よかったです終わりになる話ではないと。

その後もにらみながらまちづくりを進めていくのが、上瀬谷、西部地域だと、こういうふうに思うわけなのだけれども、この話になると、やっぱり平原さんが今まで携わってこられたので、全てを承知していると思うのだけれども、将来の見通しも含めて、国際博覧会後の、この地域のまちづくりについての方向性について、何らかのお考えをお持ちではないかと思うのだけれども、聞かせていただければと思います。

○ 平原副市長 先ほどの話とダブりますけれども、70年間接収されていたという歴史を持っていて、地元の方々と一生懸命、我々はまちづくりの方針を今まで作ってきました。結構、我々としても、自分で言うのもなんですが、汗をかいてきたつもりであります。

今まで70年間放っておかれたわけです。ですから、横浜市のインフラ投資というものが全くできなかった。だから、この地域には横浜市の税金をあまりつぎ込んでいないという過去があります。そこで、こういう転機を迎えて、まちづくりをみんなで進めようではないかということですから、そこを活性化する、自分の土地を有効に使う、そういう地権者の人たちの思いを横浜市としてもバックアップしていかなければいけない。

そのためには、やっぱり都市基盤がどうしても必要なわけです。今まで投資してこなかった分、ここにはある意味、集中的にインフラ投資をしていかないと、町としての形が成り立たない、そんな思いなのです。

そんな中で、4つのゾーンというのが出てきました。ですから、インフラ整備が基盤にあって、4つのゾーンに従ってまちづくりを進めていくというふうな位置づけであります。ですから、GREEN×EXPO 2027を契機にして、ここの中瀬谷が、横浜市の市域の中でも大きく位置づけが変わっていくというふうな場所にしきたいと思います。

ですから、単純にEXPOが終わって、ああ、よかったということではなくて、今委員から御紹介がありましたけれども、物流も、もう大分絵姿も見えてきました。それからEXPO後の公園の姿、これは防災拠点としての公園をダブルの目的を持って造っていこうというふうなことで、それも今、一生懸命検討しています。

それから、テーマパークも三菱地所と東急というお話があります、相鉄というお話がありましたけれども、今はもっとグループ会社が増えています。大きな企業体になって、今、真剣に検討していただいている。内容はまだお話できませんが、着実に検討は進められております。

そういったことで今までの歴史を振り返って、投資してこなかった、まちづくりが進んでこなかったということをEXPOを契機に、一気にまちづくりを進めていきたい。そしてダブルコアではないですけれども、郊外部の拠点にしていきたい。そんな思いで、横浜市としても基盤整備を含めて、しっかりと取り組んでいく、そういう考え方で、今おります。

- 花上喜代志委員 今の御説明で分かるように、みなとみらいをはじめとする都心臨海部のまちづくりと、今後は郊外区の上瀬谷のまちづくり、これが進んでダブルコアで市域の全体的な一体化を図っていくという、そういう構想が示されていると思うのです。

だから、それを立派に仕上げていくためには、乗り越えなければならない課題が幾つもあるので、中期計画は4年間だけれども、その後のこととも踏まえて、やはり総合計画、4年間だけではなくて、今後の総合計画というのも頭に入れていかなければならぬのではないかと思うのだけれども、この4年間の中長期計画に応応して、その後の総合計画、こういったものについての考え方方が、今あれば教えてもらいたいと思うのだけれども、いかがでしょうか。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 ダブルコアのまちづくりに関して、都心臨海部と郊外部をどうつなぐか、具体的な総合計画が今あるわけではございませんが、いずれにしましてもこの4年間でこういう目標を立てて、これからそれぞれのコアのまちづくりをしていきますので、当然この先、今後、この連結をどうしていくのか、総合的にどういう町にしていくのか、こういったことを今後ちゃんと考えていくというステージに立つ、この4年間になるというふうに考えています。

- 花上喜代志委員 言いたいことは山ほどありますが、そんな時間もないで絞って申し上げますと、リクルートが行った世論調査で、首都圏で住みたい町ナンバーワンはどこかと、こういうアンケートで横浜が8年連続1位になったというのは、物すごい意味のあることだと思うのです。

横浜に今、物すごく注目が集まって、日本の三大夜景のうちの一つが横浜と、こういうような結果も出ているので、総合的に見て全国でも、横浜が人口だけではなくて、町としても物すごい高い評価を得ていると、こういうふうに思うのですけれども、まずその認識を伺いたいと思います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 これは手前みそになりますので横浜市に、そのように住みたい、あるいは住み続けたいと思っていただいているというのは非常にありがたく感じています。

そういった当事者からしますと、ありがたいだけではなく、やはり横浜市が本当にGREEN×EXPO 2027だけではないですけれども、様々な施策において、暮らしやすい、子育てをしやすい、いろんな町を目指して総合的に対策をしてきた結果だと思います。

ですので、中期計画におきましても、力強くそういった暮らしに、生活にフォーカスをした施策を進めていくということになっていますので、そのように進めていけば、さらに横浜市の魅力が上がっていくという

ふうに確信しています。

- **花上喜代志委員** 私どもも横浜に住んでいて、横浜市民ということに物すごい誇りを持ちますよね、誇りを持っていましたよね。だから、大阪は大阪市をなくして、大阪都構想でまとめようと思って、2回住民投票をやって否決されたと。今は副首都構想、そういうものを打ち出していますけれども、横浜で、もし横浜市をなくして、神奈川県に一本化しようといったら、横浜市民は絶対に賛成しないなと。むしろ県をなくせと、特別市でいいではないかという空気だと、今、思うのだけれども、やはり、横浜をこれから日本を代表する都市、人口は東京に次ぐ第二の都市と言われますけれども、人口規模だけではなくて、副首都が大阪とかいう話題が出ていますけれども、それとはまた別に横浜が、やはり将来に向かって、日本では代表的な地方自治体ということになるような、そうした取組が必要だというふうに思うので、大きく絵を描いて、だから4年間の、この中期計画は分かりましたけれども、その後の横浜のまちづくりをどのように進めていくか、このことも併せて考えていかなきやならないと思うのだけれども、その方向性だけでも聞かせてもらえますか。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** すみません、かなり大きな話でございますので、方向性を私が勝手に言うわけにもいかないのですが、今、委員がおっしゃったように、これだけのいろんな政策を進めながら、ここまできて、それで、そういう住みたいという評価も受けているということを考えますと、やはり、今、掲げている政策を力強く、とにかく進めて、その中でさらにその先のことをしっかりと考えしていくと、こういうステージになっているのかなというふうに思いますので、それは、もう市を挙げて、局も連携して進めていきたいと思います。
- **市来栄美子委員** すみません、1点だけ、冊子の51にあります、以前より環境に配慮した行動をするようになったと思いますかというアンケートに関してなのですが、71.6%という数字がございます。  
結構、高いかと思っておりまして、こちらのアンケートは中期計画で取られた意見聴取からなのか、それとも別途で取られたのか、少し教えてください。
- **黒田政策経営局政策担当部長** 9ページ、冊子51の環境との共生の下の部分に、以前より環境に配慮した行動をするようになったと思いますか、71.6%。これにつきましては、これは政策指標と呼んでおりまして、毎年度市民の意識を取っていくというの第1弾でございます。  
これは今年度7月に取りました。約1万人アンケートで、3000人超の方から御返事があつて、15歳以上の方を無作為抽出でございます。それで、市民の意見ということで聞きました。原文を申し上げます、あなたは以前より環境に配慮した行動をするようになったと思いますかという質問を投げかけまして、7段階で答えを、とても思うから全く思わないまで7段階。そのうち、とても思う、思う、どちらかと言えば思うというのを足した数値が、71.6%ということです。  
調査票には、環境に配慮した行動の事例として、例えば使い捨てのプラスチック製品などを不要なときは受け取らないですか、食品ロスを減らすですか、事例は申し上げましたけれども、それを見た3000人超の市民の方の7割が、以前よりそういったことが増えたというふうなアンケートが取れました。  
これを一つの起点としまして、毎年度このアンケートを取っていきながら、市民の行動を見ながら、政策の推進につなげていきたいというふうに思っております。
- **市来栄美子委員** 先ほどからの横浜市の家庭のCO<sub>2</sub>を削減することが課題になっていると思って、全国比よりも高いので、そこでやっていかなきやいけないというところを言ったときに、行動の変容をにつなげる方が大切だと思いますので、今おっしゃられたようなプラスチックの製品ですとか、食品ロスをなくす

ですか、そういうところ、私たちも訴えていきたいと思います。

- **こがゆ康弘委員** 1点だけ、全体の話です。策定のスケジュールと一番背表紙に載っているものなのですが、今回、素案の公表と、今後パブリックコメントを実施して、来年の5月頃に原案作成と、この頃には中期の特別委員会なんかも開かれるのではないかと思うのですが、最終的に中期ができるのがいつなのかということを再度確認したいのですが。
- **黒田政策経営局政策担当部長** 委員の御指摘のとおり来年の5月には原案を御提示しまして、そこで議会のほうでの御審議をいただきます。そこでの内容についての=リョウ=というところでございましたら、それの市会が終わった後、速やかに策定をしたいというスケジュール感で臨んでおります。
- **こがゆ康弘委員** 以前は秋ぐらいに特別委員会をやっていたという時期もあって、中期の計画は2026年度からの4年間ですから、2026年度がスタートした後にこれが策定されて、いつもこれはそうなのですが、そうすると2026年度の予算は、これから策定作業が入りますけれども、どちらの中間に従った予算になるのという話です。

各局も局に關係することを全部説明していただきましたが、これからつくる予算というのは、今の中期なのか、次の中期を重視したものになっていくのか、それによって内容は全然変わるので。中期の策定のタイミングというのも含めて、来年度予算にどういうふうな形で反映されていくのか。それとも現行のものなのか、その辺の考え方を伺いたいのですが。

- **黒田政策経営局政策担当部長** 確かに中期計画策定のタイミングが非常に遅くなっています。予算審議にも影響を及ぼすというのは過去にあったかと思います。

今回は、過去と比べてもかなりスピーディーに進めてきたつもりでございますが、ただ現在として策定しているという状況ではございません。今の認識としましては、今回素案というのを過去にないスピードでお示ししました。なので、来年度の予算審議につきましては、次期の中期計画というのを見据えながらの予算審議についての議論をしていただければというふうに思っております。

当然、策定したものではないのですけれども、今回初めて形として、こういった14の体系ですとか、目指すべき姿を提示しましたので、それに基づいた予算というものを、ベースの議論ということなので、現行中期をベースに来年度の予算というではなくて、次期中期計画というのを見据えながらの審議をしていただきたいというふうに思っております。

- **こがゆ康弘委員** だから、その辺が難しいのです。まだ成立していない中期計画に基づいた予算を作るのか、そういうのは本当にそれで、議会で、まだ承認されていないではないかという話にもなるので、このタイミングは、今回はこういうことになりましたけれども、やはり、ちゃんと考えなければならないことだと思います。

もう一つは、やっぱり市長の公約というのって、中期との関係性というのも出てくるし、もちろん予算との関係も出てくる。そうなると、では市長選とのタイミングも含めてどうなのか。ほかの自治体は、結構そういうタイミングを計っているところもあるので、その辺も今後の課題ではありますけれども、しっかりと考えていただければと思います。

- **久保和弘委員** 冊子6、(68)と書いてあるところで、政策群のことで、大きなところの網かけのところですけれども、話としては、この中の脱炭素のお話に、先ほどしなかったものですけれども、こちらのほうでさせていただこうと思って、公共施設のほうに、やはり脱炭素化の太陽光発電、脱炭素化を進めようと思

いましたらば、様々な施設でもちろん取組がありますけれども、例えば太陽光発電ですと、公共施設にしっかりと設置していくということで、例えばP P A事業で学校の校舎等とか、先ほどは雨水調整池のほうにも、あれは公共施設ではありませんけれども、とは全て言い切れないかもしませんけれども、設置していくようなこともやっておりますけれども、一般質問等でも触れましたけれども、市営住宅の屋根が魅力的だということで、建築局もそうですし、こちらの当局のほうもそういう見解でいらっしゃったかと思うのですけれども、いざ設置しようとすると、なかなか費用面で、例えば建物自体の躯体に、多少お金が必要だということがあって、いや片方では、脱炭素を進めたいという意向があるけれども、片方では、なかなか予算取りが難しいという、そういうこともあるのですけれども、やはり私が思うのは、当局、脱炭素・GREEN×EXPO推進局がしっかりと横串を刺すというか、しっかりとやっていくのだというようなことを、やっぱり、各局にグリップを利かせていくことが必要であって、それは予算もしっかりと考慮した上でというか、そういうことも加味した上で、その上ででも、やっぱり脱炭素を進めるんだと、こういう取組が必要だと思っております。

昨日質問したとおりでありますけれども、ですので、その辺について意見と併せて要望もありますけれども、もう一度確認させていただきたいと思います。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** これは局を、横串を刺して、力強く進めていくという取組は現在もしております。具体的に申しますと、部長級でプロジェクトも組みながら、これは我々のほうで旗を振って、しっかりと進めていくという打合せも頻繁に行ってますし、そういう中で、やはりこれは横串を刺して、我々が中心となりやっていくと、これは引き続き進めていきたいと思います。
- **久保和弘委員** そちらについても、重ねて要望させていただきます。  
また資料の19ページで、先ほどもほかの委員からもお話がありました新たな交通を含めて、こちらについて一つだけ言わせていただくことがあって、これは手法としては鉄道という手法ではなくて、どちらかとBRTと、いわゆるバスを中心に考えていくということでお話が進んでおりますけれども、それは承知しております。

その上で、かつては鉄道というものは、今、鉄道の話も出ましたが、町をつくり上げていくと、東は東急、西は阪急・阪神みたいな感じです。駅を造って、そこに人を誘導して、様々な仕掛けをつくって定住人口を増やしていくという、まちづくり自体からやった時代がありました。

しかしながら、今はそういう時代ではなくて、町をどちらかというと支えていくと、そういう時代になってきたかというのはもちろん承知はしております。ところが、先ほど平原副市長のお話がありましたけれども、新しく町をつくる部分と、これまでの従来の本市の郊外部の瀬谷区の、旭区を中心に、そういう場所になりますけれども、そういうところのまちづくりということがあるのでけれども、言いたいことは、地域の住民の皆様にも、公共交通の利益というか、そういうものを供与していくというか、利益を与えると、要は利便性が向上するという取組を含めた、そういうまちづくりにならないと、併せて郊外部のダブルコアのまちづくりも盛り上げていくという取組をやっていただければと思っております。

人口減少が続く中で、多少、旅客収入が難しい部分があって、それをどうするのだということはもちろん一番大事なことではあると思うのですけれども、ダブルコアということを掲げた上は、しっかりと地域に利すると、そういう取組を、ぜひやっていただきながら、新たな魅力あるまちづくりということをお願いしておきたいと思うのですが、そこについて1点だけ御答弁いただければと思います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 今、委員が御示唆をいただいたとおりだと思います。  
まず、地域の活性化あるいは利便性の向上、これがあつて初めてコアな町と、そして都市臨海部と合わせてダブルコアと、こういうふうになっていくと思いますので、まずは地域の皆様方の利便性の向上、それから地域の活性化、これをしっかりと進めていきたいと思います。

- 大桑正貴委員長 では、他に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。  
説明員の方は退席されて結構です。ありがとうございました。

(関係職員退室)



◎ 寄附受納について

- 大桑正貴委員長 次に、寄附受納についてを議題に供します。  
当局の報告を求めます。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 それでは寄附受納について御説明をいたします。  
資料4を御覧ください。  
本日は2件の寄附について御報告します。  
1件目は地方創生応援税制、企業版ふるさと納税を活用した寄附です。  
~~寄附者は1ページから2ページに記載しておりますとおり、合計15社、受納金額及び受納日は資料のとおりでございます。~~  
受納目的は、GREEN×EXPO推進事業のためでございます。  
2ページの下段を御覧ください。2件目は一般寄附でございます。  
~~寄附者は2者、受納金額、受納日は資料のとおりでございます。~~  
受納目的は、GREEN×EXPO推進事業のためでございます。  
説明は以上です。どうぞよろしくお願ひいたします。

- 大桑正貴委員長 報告が終わりましたので質疑に入ります。  
(「なし」と呼ぶ者あり)
- 大桑正貴委員長 特に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。

以上で脱炭素GREEN×EXPO推進局関係の議題は終了いたしましたので、次にみどり環境局関係に入ります。

当局参集の間、暫時休憩といたします。

休憩時刻 午後3時24分

(当 局 交 代)



再開時刻 午後3時28分

- 大桑正貴委員長 それでは、委員会を再開いたします。  
みどり環境局関係の審査に入ります。  
なお、当局からの発言に際しては、着座のままでお願ひいたします。



◎ 市第66号議案 動物園及び公園の指定管理者の指定

- 大桑正貴委員長 市第66号議案を議題に供します。

市第66号議案 動物園及び公園の指定管理者の指定

- 大桑正貴委員長 当局の説明を求めます。
- 鈴木みどり環境局長 どうぞ、よろしくお願ひいたします。

それでは市第66号議案、動物園及び公園の指定管理者の指定について御説明をいたします。

本件については議案書の107ページ以降に記載されておりますけれども、本日はお手元に配付させていただいております、右肩に資料1、表題に市第66号議案、動物園及び公園の指定管理者の指定と記載のある資料を御覧いただきたいと思います。

2ページを御覧ください。

1、概要についてですが、横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会を開催し、動物園及び公園の指定管理者の候補者について、次のとおり選定をいたしましたので、地方自治法第244条の2第6項の規定により、当該指定管理者の指定を行うというものになります。

施設の名称につきましては、横浜市立よこはま動物園、横浜市立野毛山動物園及び野毛山公園、横浜市立金沢動物園及び金沢自然公園となります。

指定管理者は、公益財団法人横浜市緑の協会、代表者は、公益財団法人横浜市緑の協会理事長橋本健。所在地は中区日本大通58番地です。

指定の期間につきましては、令和8年4月1日から令和18年3月31日までとなります。

選定の方法は、非公募による選定となります。

3ページを御覧ください。

2、参考となりますけれども、選定評価の内容についてですが（1）横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会の構成は、学識経験者、専門分野の有識者等により構成されています。

（2）選定経過ですが、ア、応募要項等の公表を令和7年4月14日に行い、イ、応募書類の受付を6月11日から6月13日まで実施。ウ、書類審査及び面接審査を8月4日に行いました。

（3）審査についてですが、指定管理者の候補者の選定に当たりましては、団体の提案書に対する書類審査及び面接審査を実施しました。

面接審査では応募団体によるプレゼンテーション及び選定評価委員会による質疑を実施しました。

いざれも通過基準を満たしたため、指定管理者の候補者として選定をしたものになります。

以上で、市第66号議案、動物園及び公園の指定管理者の指定について説明を終わります。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

- 大桑正貴委員長 説明が終わりましたので質疑に入ります。

- 鴨志田啓介委員 今回の指定は、本市の顔とも言える動物園の指定であり、昨年の委員会でも非公募10年で選定するとの報告がありましたが、10年間をさせるという意味では、今回の議案はより慎重に審議する必要があると考えております。

候補者の選定に当たっては、附属機関である選定評価委員会において、書類審査と面接審査を実施し、評価点は通過基準である60点を満たしたことですが、具体的に選定評価委員会の場では、どのような議論がされていたのか気になります。

また、基準を満たしたことですが、実際の得点が何点中何点で通過したのかなど、資料からは詳細な経過を確認することができませんので、実際の得点は何点だったのかということと、その点数をどう受け止めているかということをお聞きしたいと思います。

- 小田嶋公園緑地部長　　横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会は本年8月4日に開催されまして、書面による一次審査を行った上で、応募団体によるプレゼンテーション及び質疑応答の二次審査を実施いたしました。

まず評価点の考え方についてですが、採点の目安としては、おおむね問題なく適切な提案内容である場合には6割。適切であり優れた内容を含む場合には、8割の評価点として設定されています。

その上で、今回の審査では一次審査が200満点中156点ですので、78%の得点。二次審査が100点満点中69.2点でございましたので、69.2%という得点で、いずれも通過基準である60%以上、6割を満たしてございました。

- 鈴木みどり環境局長　　受け止めの部分でありますけれども、今申し上げたような点数を獲得できたのですが、そこについてはこれまで実施してきた団体自身のこれまでの取組とか実績が評価されたと、今後の動物園の運営管理を実施する上でも必要な能力、資質があるというところは一定評価をいただいているのかなというふうには思っております。

しかしながら点数を取れなかった部分というのは確かにありますので、そこについてはしっかりと課題として受け止めて、今後の対応を考えいかなければいけないというふうに受け止めております。

- 鴨志田啓介委員　　選定評価委員会は、動物園の視察は行っているのでしょうかという質問です。お願いします。

- 小田嶋公園緑地部長　　選定評価委員会では動物園で指定管理が始まった当初から、20年間にわたって附属機関として設置されておりますので、毎年動物園の事業評価を実施しております。そのため、継続的に3園の視察を行っておる状況でございます。

- 鴨志田啓介委員　　視察も行っていただいており、しっかり見ていただいているということなのですけれども、点数が7割程度の得点ということは、逆を言えば3割は評価されていなかったということだと思います。

これは解決すべき課題がたくさんあるということでございますが、特に、今後10年間を任せるとかから、今から課題として認識できるところはしっかりと対応していかなければならないと思います。非公募であれば最低でもやはり85点以上、できれば90点以上を取っていただきたいところなのですけれども、3割が評価されていない中で、非公募で1社しかいないからという理由で10年もの長期間をさせてよいのか疑問であります。

そこで、何が不足しているか、評価委員会ではどのような指摘があったのか教えてください。

- 鈴木みどり環境局長　　確かに総合点としては基準を超えるものではあったのですけれども、相対的に低い評価となった部分を個別に見ていきますと、安定的な経営に関するものであるとか、大きなビジョンをどうやって現場に落として具体化していくのかという内容についてのところが、比較的低い点になっております。

具体的には、収益事業の増収を図る、収支の改善を図る。来園者確保に向けたプロモーション等のことですけれども、そういったものであるとか、現場の運用を、将来のビジョンに向かってマネジメントしていくべき、変わっていくであろう未来のビジョンに合わせて、内容をどんどん変えていくといったようなことについての意見をいただきました。

- 鴨志田啓介委員 評価委員会でも指摘されているように、安定的な運営のためには、技術継承や人材育成を適切に実施していく必要があると思います。経営改善のためには独自の収益事業も強化する必要があると考えます。

国内外の魅力的な動物園の取組も参考にすべきだと思います。一例を言うと、餌やり体験やバックヤードツアーチの充実だとか、動物園での宿泊など、動物福祉の観点も考えつつ、様々な取組を行うことが考えられると思いますが、これらについてどのように考えているのか伺います。

- 鈴木みどり環境局長 これからることは、まだ検討が必要な部分はありますけれども、大きなところとしては、自然環境であるとか、地球環境、環境の学びにもつながり、かつ魅力的な体験、こういったものを充実させることが必要だと思っております。これらによって集客の取組を強化していくという流れの中で、実施していきたいと思っております。

例えば生息環境にいながら動物を見るような、そういった観覧場所の工夫であるとか、あるいは今お話をいただきましたけれども、餌やりも含めたバックヤードツアーチなどは検討していきたいと思っております。

また、安定的な経営という部分におきましては、賃金スライドなど、本市全体としても制度が導入されることもあります。かつ、これらに加えまして、有料のコンテンツ、イベントの充実であるとか、寄附などの応援・支援をいただく取組の拡充など、持続可能な経営に向けて頑張っていきたいというふうに思っております。

- 鴨志田啓介委員 選定評価委員会の御意見に対する改善の方向性ということが分かったところでございますが、実際の動物園の運営に、新たな考え方や取組の実効性を持たせていくことが大変重要だと思います。具体的な改善の取組がなされるために、今後どのように進めていくべきと考えているか伺います。

- 藤田担当理事 手続としましては、今後、御議決をいただいた後でございますが、指定管理者と基本協定を締結して、その中で事業の方向性等を定めてまいります。

また、年度ごとの実施協定も締結してまいりますので、この中に事業の方向性や内容を反映していく、そのように考えてございます。

また、必要に応じまして協議を行いまして、必要な内容を盛り込んでいく、共有していく、そのように進めてまいりたいと考えてございます。

- 鴨志田啓介委員 昨年の報告でもあったように、今回から繁殖センターが指定管理に加えられます。繁殖センターでは、これまでカンムリシロムクやニホンライチョウなど、国内外の希少種の繁殖に貢献してきましたが、こうした取組はしっかりと継続してもらいたいと思いますが、そこで動物園とともに指定管理となることによるメリットはあるのか伺います。

- 鈴木みどり環境局長 繁殖センターが動物園と一体となって運営することで、効果的な事業執行あるいは長期的な人材育成ということが実現できるというふうに考えております。効果的な事業執行というのは、繁殖センターが持つ今、お話をいただきました種の保存に関するノウハウ、配偶子保存などのノウハウですけれども、こういったものを動物園と共有して、種の保存をより効果的に進めることができるようになると両方の施設にとってプラスになるというふうに思っております。

また長期的な人材育成という点では、動物園の職員と同一の組織となることによりまして、より多くの職員が繁殖センターでの技術、ノウハウを学ぶことができて、専門性を高めることができるというふうに思っております。これが長期的な人材育成につながるというふうに考えております。

○ 鴨志田啓介委員 最後に伺いますけれども、今はこれらの課題を指摘されていますけれども、本市の動物園を10年間任せるということは、その間に様々な課題も出てくると思います。新たな課題にも柔軟に対応していく動物園であってほしいと考えますが、どうお考えになられますでしょうか。お答えください。

○ 鈴木みどり環境局長 これまでの10年間のことを見ましても、動物園の目指すべき姿や目標の中に、例えば地球環境の保全であるとか、地域での生物多様性保全ということが、こういった視点が加わってきたというふうに思っております。多様化が進んでいると思います。

これから10年のことにおいても、その都度というか、さらに求められることが多くなっていくのだろうというふうに想像も、想定もしております。いずれにしても、レクリエーションであるとか、にぎわいの場としての、子供たちをはじめとした多くの人々のニーズに応えること、加えてその子供たちの成長に合わせた環境教育であるとか、地球環境を学ぶといった、そういった教育の場にもなること、さらにそれが進んで気候変動であるとか生態系の変化など、地球環境を伝えるような場にもなっていくべきだと、なってほしいというふうに思っております。

これらのことを通じて、自分たちの生活を振り返るような機会にもなっていただけたらというふうに思っています。

いずれにしても外部の有識者選定評価委員会とも連携しながら、そして議会の議員方の御意見もいただきながら、動物園に対する社会的な要請にしっかりと応えていきたいというふうに思っております。

○ 鴨志田啓介委員 今、おっしゃっていただいたとおり動物園は、にぎわい施設としての側面の重要性が増しておりまして、そういう稼ぐ視点を持った運営がより求められるようになってきていると思います。

いろいろと質問してまいりましたけれども、昨年の委員会でも非公募10年で選定するとの報告があったということを踏まえつつも、プロセスとしてはやはり、丁寧に議論していくべきと考えます。

今、幾つか口頭で答弁がありましたら、今回お示しいただいた資料からは読み取ることができないこともあります。指定議案ですので、附属機関である選定評価委員会の決定や、それに係る意見なども尊重したいと思いますので、議決のプロセスとしては、先ほどのやり取りでの話も含め、詳しい選定評価の内容を資料として確認した上で、常任委員会としても審議すべきかと思います。

つきましては選定評価の点数の内訳、応募団体から提出された提案書、今年度実施された選定評価委員会の議事録、過去10年の3動物園の来園者数の推移と収支と直近の事業報告書の資料要求をいたします。どうぞよろしくお願ひします。

○ 大桑正貴委員長 ただいま資料要求がございましたが、資料要求につきましては、後ほどまとめてお諮りさせていただきたいと思います。

それでは、質問を続行したいと思います。

○ 長谷川えつこ委員 私は1つの指定管理者が3つの園を全て担うということについて、少し確認させていただければというふうに思っております。

3つの動物園の指定管理者を一括で行うことによって、スケールメリットであったりとか、おのおのの技術を共有できるということでは大変有意義であるのかなというふうに思っておりますけれども、独自、それぞれ設立された年度も違いますし、地域の特性も違うことから、おのおのがやはり競争するような、そういった主観も一つ必要なではないかなと思っておりますが、どうして3つの園を一律で指定管理を行っているのか、その部分を開かせていただければと思っております。

○ 鈴木みどり環境局長 今おっしゃっていただいたように、それぞれできた年というのも違いますけれども、それぞれでできたときの理由というか、思いというのもありながら、それぞれ誕生しています。

例えば野毛山動物園が最も古くありますが、御存じのように無料で開放する中で、初めて動物に出会う、気軽に動物に出会うということで、小さな子供たちを中心に動物と出会う、自然と出会う機会を作るというのが野毛山動物園のコンセプトです。

金沢動物園のほうは、豊かな周辺の自然環境に恵まれているということもあって、自然環境の中で特に日本の自然環境の中でということをテーマにして、オセアニアの動物なども多く充実はしているのですけれども、自然環境とともに自然を学ぶような機会を充実させているのが金沢動物園になっていています。金沢自然公園と一体となって運営をしております。

ズーラシア自体は1周回ると世界一周の旅行ができるというよう気分も一緒につくっておりますけれども、世界の様々な気候帯、動物の生息環境を再現しながら、世界の自然を学ぶ、動物たちのことを知るような機会、より詳しく知るというところで、繁殖センターが先ほど申し上げた施設として中に入っておりますけれども、そういう種の保存にも取り組んでいるという調査研究の面も見ていただけるような環境ということで、それぞれ性格を区別しながらつくっております。

今おっしゃっていただいたように、それぞれが競争するというのもあるのですけれども、競争するもあるのですが、個別に違う性格もありますので、動物間、動物の園の間での移送というか、この動物をここに移す中でゆっくり休んでもらったりとか、ここでしっかりと展示していこうというような工夫であるとか、それはプラスにいく面で様々なメリットがあるかなというふうに捉えております。

○ 長谷川えつこ委員 指定管理の期間が10年ということで、他都市の動物園を調べてみましたところ、大体3年から5年の都市がすごく多くて、やはり専門性を有する、そういう飼育者の方たちが動物との信頼関係であったりとか、種の保存であったり、教育とか、といったところの観点から、やはり、10年とする理由も分かるのですけれども、横浜市が10年としている、そこをやはり重きを置いている理由というのは、どういったところなのでしょうか。

○ 鈴木みどり環境局長 今もおっしゃっていただきました、動物を飼育する、その飼育員がそこにいるという中では、3年とか5年とかあるかもしれませんけれども、やはり、一定の長期間そこにはいていただき、継続して動物を見てもらうということが非常に重要だというふうに思っております。

それは人も、もちろん一番重要なところですけれども、施設環境、運営の仕方というのもありますし、園があって、人があってということで動物園は成り立つだけではなくて、その餌というか、環境をどうやってつくるかというノウハウも一緒にありますので、そこはある程度長くという中で、本市では10年というのをめどにして運営をしております。

○ 長谷川えつこ委員 他都市では、やはり3年とか5年とか、そういったところが多いという中で、動物との信頼関係もありますし、また引き続き自分のところで指定管理を行いたいという気持ちから、園に対する改善点であったりとか、収益であったりとか、来場者の方々に対してのメリットをきちんとつけると、そういった努力をされながら継続していくのではないかというふうに思っておりますが、やはり10年であると、10年もあるという認識から、そんなことはあり得ないかと思いませんけれども、少し甘んじてしまう部分もあるのではないかと思いますけれども、その部分に対しての懸念等はどういったところをお持ちでしょうか。

○ 鈴木みどり環境局長 そこも含めて、今、いろいろと10年の重みということで御指摘をいただいてきたというふうにも認識しております。

10年間は長いということで、しっかりと節目節目で今の状況を確かめるという点では、選定評価委員会による事業評価というのは毎年繰り返し行っておりますので、そういったものもチェックしながら、我々も頻繁に現場に足を運びながら、そこは甘んじることなくというか、しっかりと、そのとき、そのときを大事にしながら運営をしていきたいというふうに思います。

○ 長谷川えつこ委員 動物園ということは、教育の部分でも大変とても公益的な使命があるところではないかと感じております。そういった側面からも、しっかりと横浜市が管理を指定管理者が行っているかどうか等、管理しながら引き続き行っていってほしいというふうに思います。

以上です。

○ 大桑正貴委員長 御意見でよろしいですか。

○ 長谷川えつこ委員 はい。

○ 大桑正貴委員長 ではお願いします。

○ 宇佐美さやか委員 横浜市は、先ほど来から出ている、繁殖センターを公としてしっかりと運営をしてきたと思うのですけれども、これは本当に大変なことだったし、すばらしいことであると、本当に思っているのですけれども、ホームページとかを見ると、先ほどもお話があった、本国では絶滅危惧種になっていたものを復活させたりとかという本当にすばらしい成果を上げてきていらっしゃる。

繁殖センターをこれまで直営で維持してきたというのは、どういう思いでされてきたのかというのをお聞きしたいのですが。

○ 鈴木みどり環境局長 御案内のとおりですが、繁殖センターはズーラシアの中に位置しておりますけれども、非公開施設ということで種の保存、種の保全を中心に、動物の飼育繁殖をテーマに取り組んできた施設です。

日本全体での有数のプロジェクト等にも参加をしながら成果を上げてきておりまして、国内外で評価されているというふうに自負もしております。

そういった施設を今後もどういうふうに、効果というか成果というか役割を果たしていくかということを考えていったときに、正直この職員数がそんなに多くはないというのが現状の中で、高齢化も進んできているというか、どうやって新しい人たちにこのノウハウ、技術を伝えていくかということも含めて、人材育成が大きなテーマにはなってきております。

そういった中で、動物園も種の保存・保全には力を入れて取り組んでおりますので、ここは一緒に組織として動くような状況をつくることで、長期的な人材育成も果たしていくというところを、スケールメリットを生かした展開ということで、大きなテーマとして取り組んでいくというものになります。

○ 宇佐美さやか委員 飼育員さんが少なくて高齢化しているということは、新しい研究者さん等々を入れていくということは、これまでされていらっしゃらなかったということなのでしょうか。

○ 鈴木みどり環境局長 すみません、高齢化という言葉はひどかったかもしれませんけれども、だんだん年齢が上がっているというのは事実なのですから、もちろん、その分の人は入れるというはあるのですけれども、今後の展開も考えたとき、あとは同じような業務というのを、繰り返しになりますが、動物園でも行っているというときには、ここを連携しながら、専門性が高いのは繁殖センターでございますので、そ

このノウハウ・技術をしっかりと学んでいくということにより多くの人が同じような技術・ノウハウを持つという環境がつくれますので、それは大きなメリットだというふうに考えています。

- **宇佐美さやか委員** 直営でも新しい方を入れて、年齢が高いという方は、それはそれほど経験をすごくお持ちでいらっしゃると思うので、今の時点で新しく入ってきていたい方、採用された方にも伝えていくということはできるのではないかと思うのですけれども、それは直営でも続けられること、指定管理にしなくてもできることだったのではないかというふうに思うのですが、いかがでしょうか。
- **鈴木みどり環境局長** 直営から指定管理に変わるということになんでも、横浜市の施設というところでは変わりませんので、役割はしっかりと果たしながら、なおかつ、これから展開にも応えられるように可能性を広げるというか、人材を豊富によりつくっていくというところは大事かと思っております。
- **宇佐美さやか委員** 私はあまり人は材料ではないと思っているので、人材という言葉はあまり使いたくないのですけれども、人、研究者の方を本当に大事にしていく、育てていくという中でも、これまでの繁殖センターの成果というのは、本当にすごいものがあったと思うのですけれども、紹介していただければと思うのですが。
- **小田嶋公園緑地部長** 繁殖センターでは希少動物の保全事業としてインドネシア共和国政府と連携いたしまして、絶滅危惧種のカンムリシロムク160羽を繁殖センターからインドネシアに里帰りさせるなど、様々な取組を行っております。  
また環境省のライチョウ保護増殖事業に参画いたしまして、ライチョウの飼育技術や人工受繁殖技術の確立に取り組んで、人工繁殖にも成功しておりますなど、様々な成果を上げてございます。
- **宇佐美さやか委員** 本当に、インドネシアからもう返さなくともいいよと言われるぐらいに繁殖をしたというふうに、ザ・バックヤードというNHKの番組で見たのですけれども、そういうぐらいの成果を上げてきた本当に大事な施設だと思うのです。  
これを大事にしてきたと思うのですけれども、なぜせっかく造って、日本初の繁殖センターだと、最初に造ったときは、というふうに聞いているのですけれども、これをなんで手放してしまうのかというのはすごく私は疑問に思っていて、職員の皆さんも本当に並々ならぬ努力があって、こういう成果を上げてきて、それで指定管理に委託したら、はて、これでどれくらいの経費が浮くのかというの試算されているのでしょうか。
- **鈴木みどり環境局長** 繁殖センター自体の事業がどう変わっていくかというところも含めて、事業費は変わっていくと思うのですけれども、横浜市の施設としては変わらずに、むしろ機能としては、これまでの期待とか役割をしっかりと果たしていくということで考えておりますので、そこを手放すという言い方が当てはまるかどうかというところはあるのですけれども、よりしっかりと機能させていく、運営していくというところだと思っております。

職員についても引き続き横浜市の職員としての身分を持ちながらというところですので、そこで例えば人件費がどう変わるとかは、大きくそこは影響がないところだと思っております。

- **宇佐美さやか委員** コストもそんなに変わらない、人も変わらないのであれば、そのまま直営ができるのではないかというふうに思ってしまうのです。  
横浜市の環境管理計画というのを読ませていただいて、動物園等における環境教育・学習の記述にもしっかりと、繁殖センターで学校等の団体向け環境プログラムを開発すると、途中省略しますけれども、生物多様

性保全の普及啓発を進めますと記されているのです。この計画は、まだ実施計画期間中だと思うのですけれども、どうなってしまうのかというのを危惧してしまうのですが。

- 鈴木みどり環境局長 継続して、種の保全の事業等も進めていくというものになります。
- 宇佐美さやか委員 本当に変わらないのであれば、何度も言うのですけれども、指定管理にしなくてもいいのではないかと、これまで本当に直営でこだわって守ってきたはずです。その思いがやっぱり途絶えてしまうというふうに危惧していることと、指定管理者はやはり、先ほどあまり経費は変わらないという答えだったかと思うのですけれども、この期間が、雇用の期間と重ならないという、指定期限が10年間で、雇用の期間と言えば、緑の協会と雇用される側との契約になるというふうになってしまふと思うのですけれども、その点はいかがでしょうか。
- 鈴木みどり環境局長 今、働いている繁殖センターの職員は引き続き横浜市の身分を持ちながらということ、機能としても継続して種の保存の機能を果たしていくというものになります。
- 宇佐美さやか委員 雇用の契約も変わらないということでよろしいですか。
- 鈴木みどり環境局長 市の職員としての身分を持ちながら、これがこのまま実現ということになれば、新しい団体のほうの身分も持って勤務するということになります。
- 宇佐美さやか委員 そうすると契約は、どちらとも契約をしているということになるのですか。
- 鈴木みどり環境局長 詳細は、もしよろしければ、また詳しくお話しさせていただく機会を持ちますけれども、今はもともと市のほうで雇用されて、緑の協会に派遣されて勤務しているという職員はおりますので、そういった方々と同じような扱いということになります。
- 宇佐美さやか委員 先ほどから言っている研究の成果、物すごい成果を上げていて、職員さんはそんなに多くないということではあったのですけれども、やっぱり、人を増やしていくて、次の方たちに大事な成果を = 守って = らうということがすごく必要だと思いますし、指定管理者の間、10年間の間に雇用が、今の職員さんは市の職員さんとしての身分はあるとはいえ、次に雇用される方が短期雇用というふうになつたりはしないかというのを危惧しているのですが、その点はいかがですか。
- 鈴木みどり環境局長 そこはまだ仮定の話なので何とも言えないのですけれども、種の保存の業務としては継続してできるような環境はつくっていかなければいけないというふうに思っております。
- 宇佐美さやか委員 以前から言っているのですけれども、やはり、指定管理者というふうになると雇用の期限を決められてしまうということで、研究ですとか、働いていらっしゃる方の雇用が継続されないということも本当に危惧していて、そこは、やっぱり改めて指定管理者制度という制度自体も見直す時期にきてるのではないかというふうにも思っていますし、今回の繁殖センターの指定管理者への委託という = 件 = を持つて、今回私は議案に反対させていただきます。
- こがゆ康弘委員 1点のみ。今回、指定管理者の在り方、あるいはその適用する施設がどうあるべきかというのを考えさせるような話で、横浜美術館なんかもそうなのかもしれないけれども、非公募で10年という、10年変わらないというメリットもデメリットもあるかと思うのです。  
やっぱり、先ほど言ったように経験に基づく専門知識であるとか、ノウハウとか、そういうことの継続性というのはあるけれども、でも10年やってもまだ非公募だから変わらないので、そこにどうしてもあぐらをかいてしまったりとか、どうせ変わらないのだからということを思いはしないか。
- それは毎年フォローはしているにしても、では60点でいいのか、何点なのかということは、やっぱり = 問

うで=いかなきやいけないわけで、もともと指定管理というのは、やっぱり民間の創意工夫をしっかりと入れておくと、もちろん運営費とか事業費の抑制というのはあるのだけれども、やっぱり民間のノウハウや知恵というのをしっかりと新たな形で入れていくというのが目的だったはずなので、今回の評価も、では、先ほど局長がバックヤードツアーだとかいろいろやっていきたいというような話はしましたけれども、事業者サイドからどういう提案があって、それでOKですねという評価をしたのか。どんな提案があってOKにしたか、新しい提案があって、その辺をお聞きしたいのですが。

- **鈴木みどり環境局長** 10年非公募ということで、今、メリット、デメリットあるであろうというお話ですけれども、しっかりとメリットについては生かしながらも、デメリットというか、10年だということについては、そこにある課題にはしっかりと向き合って対応していかなければいけないというふうに思っています。

今、具体にこれが、これからやっていきますというふうに具体に言えるものは、なかなかこの時点では難しいところもあるのですけれども、先ほど申し上げたようなバックヤードツアーもそうですが、施設自体をどういうふうに改修していくかという話は今、野毛山動物園でも取り組んでいるところであります。

あるいは昨今の酷暑等々も含めて、今、ナイトZOOというのを充実させながら展開してきておりますけれども、こういったことへの運営の在り方自体の見直しというか、どうやって、これから向き合っていくのかというところにもしっかりと課題感を持ってやっていかなければいけないと思いますので、そういったこれから時代のことも想定しながらということでは、まだまだ考えなければならないことは多くあると思っています。

先ほどのEXPOもある中で、こういった地球環境、自然環境をどう学ぶかというのは従来の動物を見てということに加えて、その自然環境、それがどう変わってきているのかということをどう伝えるかという工夫についても、いろんなデジタルを使ったアイデア等も出てきており、それをどう具体化するかということもしっかりとここは団体と協議をしていきたいというふうに思っております。

- **こがゆ康弘委員** いや、団体とどう協議するというか、今回はそういう評価委員会があって、ある程度の提案があったからOKにしたのではないですかという質問で、先ほど資料請求をしていただいたので、その資料の中に入っているのかもしれないけれども、事業者サイドからこういう工夫をして、収益改善に努めるとか、新たな提案とか、先ほど言ったように創意工夫というのが、それがもともとの指定管理制度の趣旨だったはずなので、そういう提案はなかったのでしょうかという話なの。

- **藤田担当理事** 応募団体から提案、出された中で、特に新しいものという点について御説明をしておきたいと思います。

標語としましては、豊かな地球を未来に引き継ぐために社会を変えていく動物園、これをビジョンに掲げたいという提案でございます。

生物多様性の拠点としての3動物園の価値を高めていくというところを柱に、新たな具体的な提案としましては、GREEN×EXPO 2027、その推進としまして、生物多様性の保全等をテーマとするイベントを開催し、市民の興味喚起を行って、相互誘客を図る。

それと、誰もが楽しめる環境の充実に向けた取組としまして、障害のある方など、多様な来園者の方への対応、これをしっかりと進める。また、インバウンドを含む外国語対応を推進する。

また、新たに集客プロモーション担当部門をつくりまして、集客に注力した営業活動を実践し、また、寄附の裾野を広げていく取組を拡充していく。またJAZAの規定に沿った3動物園ごとの方針をつくって、

アニマルウェルフェアの向上を推進する、このような内容でございます。

- **こがゆ康弘委員** いろいろ言っていただいたのですが、それがどういうふうに効果につながるかというのは分からぬのですが、それが、どういう評価点になっているのかということを、資料を請求したので次回それを見ながら考えたいと思います。
- **大山しょうじ副委員長** 今年3月の予算総合でも動物園、いかに観光資源としての可能性を高めていくのかみたいな話。また、9月の一般質問でも、動物園の魅力向上でいろいろやり取りはさせていただきました。またもともとは、都市のにぎわいや魅力、都市ブランドの向上に向けた動物園の充実と方向性は出ているし、私も議会のやり取りでも、そこは市長の答弁も含めて、また市長の選挙での打ち出し、その中で都市魅力、観光、環境教育の拠点というところですけれども、ただ、今のやり取りを聞いていても、全く、何でしょうか、物すごくわくわくするような、そうしたものに今後10年かかるって、それが本當になるのかというのが、何ともわくわく感がないというか、ごめんなさい、資料要求されたので、それをまた見て、また踏まえて、いろいろ聞いていきたいと思うのですけれども、先ほど藤田理事がおっしゃったところについても、もう一度改めて起こしていただきて、それがじやあ、具体的にそれはどういうことを描いているのかというところ、それを出していただければと思います。

引き続き、資料で言うと質問に関わるのですが、前回10年間の指定管理料、それは年間お幾らですか。

- **藤田担当理事** 約24億円ということでございます。
- **大山しょうじ副委員長** 約24億円。次回は10年ですけれども、どのようなやり取りというか、見通しというか、指定管理の、いろんな人件費とか物価高、あと私なんかも、こうしたほうがいいのではないということを言いつつも、そのためにも一定程度、それを支える部分、そうしたところもあると思うのですが、その辺りは今回の選定の中で、指定管理料のこととかを含めて、どのように持っていくのかというところ、その辺りもあるので。
- **藤田担当理事** 今回の手続に当たりましては、横浜市からの提案額としましては、この10年間で、御指摘のように相当な人件費ですか、あるいは物価高騰してございますので、必要な経費は上乗せしてございます。

その部分は28億7000万という形で今回、上限額を設定してございますので、提案あった額につきましても同じ額という形で推進していくということでございます。

- **大山しょうじ副委員長** 約5億弱ぐらいですか、ということで、その部分も実際のところも、今、数字を聞いただけではどう精査していいか分からぬので、その辺の、指定管理料の違いの、もし一定程度根拠が分かるような資料が出せるようでしたら、お願ひします。

最後にもう1点だけ、先ほど、宇佐美委員から繁殖センターのお話がいろいろあったのですけれども、その繁殖センターの現状、直営での体制みたいな、あと、業務のあれだとか、それが分かるもの、で、踏まえて、それが指定管理、今回一体運営に含まれた場合にどのような体制、体制というか連携を取るところがあるから、その辺りをどういうふうになるのか分からぬところがあるのですが、そこが分かる資料を比較したものをお出しあげましたらということで、以上で結構です。

- **藤田担当理事** それで承知いたしました。
- **大桑正貴委員長** では、他に御発言もないようですので今、大山副委員長からもありました、鴨志田委員からもありましたが、要求があった資料について、当局から内容の確認をお願いします。

- 河岸総務部長 今、御要求いただきました資料につきましては、選定評価の点数の内訳、応募団体から提出された提案書、今、大山副委員長からあった、理事が答弁しました新しい内容ということもこの中に含めて整理させていただきたいと思います。

3点目としては、今年度実施された選定評価委員会の議事録、4点目として過去10年の3動物園の来園者数の推移と収支について。5点目として令和6年度の事業報告、直近ということでした、令和6年度ということになります。

今ありました指定管理料の現在と次期の違いが分かる資料というのがもう1点、6点目でございます。

7点目として、繁殖センターの、これも現行の体制と、次期の体制について分かる資料という、以上7点というふうに確認させていただきたいと思います。

- 大桑正貴委員長 委員の皆様におかれましては、資料について以上のとおりでよろしいでしょうか。漏れ等はないでしょうか。

それでは、当局におかれましては質問者の意に沿いまして資料作成をお願いいたします。

なお、資料の内容が多岐にわたりますので資料の整理につきましては、正副委員長に御一任いただければと思います。

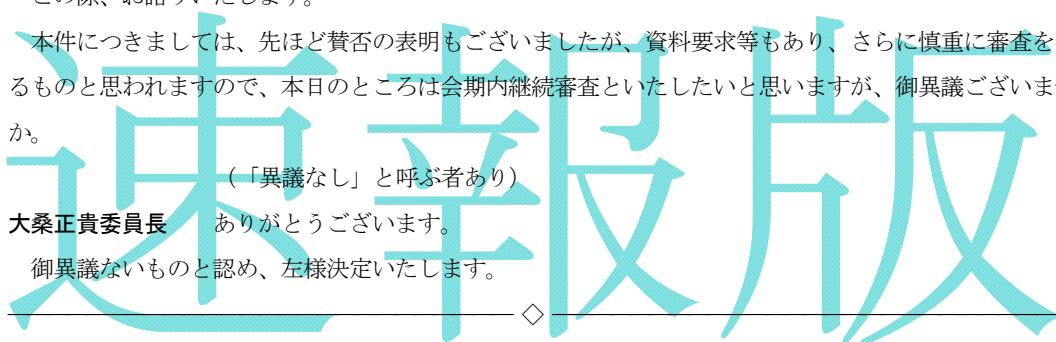
この際、お諮りいたします。

本件につきましては、先ほど賛否の表明もございましたが、資料要求等もあり、さらに慎重に審査を要するものと思われますので、本日のところは会期内継続審査といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

- 大桑正貴委員長 ありがとうございます。

御異議ないものと認め、左様決定いたします。



◎ 請願第26号及び請願第27号の審査、採決

- 大桑正貴委員長 次に請願審査に入ります。

請願第26号及び請願第27号について、説明の都合上、2件を一括議題に供します。

請願第26号 横浜スタジアムに関する利益相反関係の解消について

請願第27号 横浜スタジアムにおける適正な公有財産使用料の徴収について

- 大桑正貴委員長 請願の要旨等について書記に朗読させます。

- 市野議事課書記 初めに、請願第26号、件名は、横浜スタジアムに関する利益相反関係の解消について。

受理は令和7年10月8日、請願者は磯子区の太田さん、紹介議員は太田正孝議員でございます。

請願の要旨でございますが、横浜スタジアムに関する利益相反関係を解消されたいというものでございます。

次に、請願第27号、件名は、横浜スタジアムにおける適正な公有財産使用料の徴収について。

受理は令和7年10月15日、請願者は磯子区のオオタさん、紹介議員は太田正孝議員でございます。

請願の要旨ですが、横浜スタジアムにおける公有財産使用料を適正に徴収されたいというものでございま

す。

以上でございます。

- 大桑正貴委員長 本件は、行政当局に対する要望に関する請願ですので当局の見解を求める。

- 鈴木みどり環境局長 請願第26号に対する当局の見解を申し上げます。

株式会社横浜スタジアムは本市から都市公園法に基づく許可を受け、横浜スタジアムの管理運営を行っておりまます。

興行等から、維持管理や運営する上で必要な収入を得ており、横浜市公園条例に基づき、本市に適切な使用料が支払われております。

また、横浜スタジアムは市民利用が過半となるような運営をしております。

続きまして請願第27号に対する当局の見解も申し上げます。

株式会社横浜スタジアムは、本市から都市公園法に基づく許可を受けまして、横浜スタジアムの管理運営を行っております。

また、横浜市公園条例に基づき、アマチュア競技団体以外の団体の興行に対して、株式会社横浜スタジアムが徴収する額に100分の8を乗じた額及び横浜スタジアムに係る土地借受け料の額を、使用料として本市は徴収をしておりまして、問題はないと考えております。

以上でございます。

- 大桑正貴委員長 それでは、各会派等の御意見等をお伺いいたします。

- 鳴志田啓介委員 請願第26号については、今ほど御説明がありましたとおり条例に基づく適切な使用料を市に対して支払っていることから、問題ないと考えますので、本請願については不採択と考えます。

次に請願第27号についてですけれども、こちらも今説明ありましたとおり、市も条例に基づく適切な使用料を株式会社横浜スタジアムから徴収しており、問題ないと考えますので、本請願については不採択と考えます。

- 市来栄美子委員 我が党といたしましても、2件の請願に関し当局の見解のとおり不審さはないため、不採択とさせていただきます。

- こがゆ康弘委員 株式会社横浜スタジアムの損益計算書とか、あるいは貸借対照表を確認しました。適正に処理されている、あるいは適正な使用料も支払われている。横浜市にも適正な割合で支払われているということが確認できましたので、この2件については不採択ということでお願いします。

- 大桑正貴委員長 よろしいでしょうか。

他に御発言もないようですので、本件については採決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

- 大桑正貴委員長 それでは、1件ずつ採決いたします。

初めに請願第25号についてお諮りいたします。

採決の方法は、挙手といたします。

本件については、採択すべきものとすることに賛成の方の挙手を求めます。

(挙 手)

- 大桑正貴委員長 挙手なし。

よって、請願第26号は不採択とすべきものと決定いたします。

次に請願第27号をお諮りいたします。

採決の方法は、挙手といたします。

本件については、採択すべきものとすることに賛成の方の挙手を求めます。

(挙 手)

- 大桑正貴委員長 挙手なし。

よって、請願第27号は不採択すべきものと決定いたします。

以上で、みどり環境局関係の審査は終了いたしました。



◎ 閉会宣言

- 大桑正貴委員長 本日の審査は全て終了いたしましたので、請願審査報告書等を議長宛てに提出させていただきます。

次回の委員会日程ですが、12月15日月曜日、午前10時より委員会室5において開会いたしますのでよろしくお願ひいたします。

本日の議題は全て終了いたしましたので、委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

